

第32回 全国都市緑化あいちフェア 基本計画



平成26年11月

愛知県

公益財団法人 都市緑化機構

目 次

I	開催概要	
1.	開催フレーム	I-1
1-1.	名称	I-1
1-2.	テーマ	I-1
1-3.	会場	I-1
1-4.	開催期間	I-1
1-5.	開催主体	I-2
1-6.	入場方式	I-2
1-7.	開場時間	I-2
1-8.	目標入場者数	I-2
2.	基本理念	I-3
3.	開催の基本方針	I-4
II	第32回全国都市緑化あいちフェアの展開に向けて	
1.	展開に向けた基本的考え方	II-1
1-1.	ストーリーの設定	II-1
1-2.	幅広い県民協働の展開	II-2
1-3.	フェアの展開	II-3
1-4.	全県での展開	II-5
III	協働推進基本計画	
1.	協働の基本的考え方	III-1
1-1.	協働と参加の考え方	III-1
1-2.	協働の展開	III-1
2.	協働推進の基本的考え方	III-4
2-1.	協働する主体への勧奨方針	III-4
2-2.	協働を推進するための展開	III-5
2-3.	協働主体の意欲向上	III-5
2-4.	既存の協働主体との連携	III-6
3.	担い手づくり	III-7
4.	事業スケジュールの検討	III-8
IV	行催事・展示基本計画（時間のデザイン）	
1.	基本的考え方	IV-1
1-1.	県民が活躍する舞台づくり	IV-1
1-2.	集客を考慮した行催事日の設定	IV-5
2.	行催事の展開	IV-6
2-1.	主催者行催事	IV-8
2-2.	協働行催事	IV-16

3. 屋内での展示展開	IV-22
3-1. あいちの花の展示	IV-22
3-2. 環境に係る展示	IV-23
3-3. 愛・地球博に係る展示	IV-23
4. 行催事における協働の展開	IV-24
5. 事業スケジュールの検討	IV-24
6. スケッチ	IV-25
6-1. あいちの花の展示	IV-25

V 会場整備基本計画（空間のデザイン）

1. 会場整備の基本的方向性	V-1
1-1. メイン会場となる愛・地球博記念公園の現状と基本構想からの修正課題	V-1
1-2. 会場づくりの基本的な考え方	V-5
2. エリアの整備方針	V-15
2-1. 地球市民のエリア	V-15
2-2. 農のエリア	V-21
2-3. 緑の贈りものエリア	V-27
2-4. 水辺のエリア	V-29
2-5. 創造のエリア	V-33
2-6. センターエリア	V-39
2-7. 全域を通じた展開	V-43
3. 花壇・修景計画	V-44
3-1. 基本的考え方	V-44
3-2. 植栽の基本方針	V-46
3-3. 植物調達管理の基本方針	V-51
4. 会場整備における協働の展開	V-54
4-1. 施設整備における協働の展開	V-54
4-2. 花壇修景における協働の展開	V-54
5. 事業スケジュールの検討	V-55
6. スケッチ	V-57
6-1. 地球市民のエリア	V-57
6-2. 水辺のエリア	V-59
6-3. センターエリア	V-61

VI. 会場運営基本計画

1. 交通輸送	VI-1
1-1. 交通輸送計画	VI-1
1-2. 園内交通計画	VI-9
2. 会場運営	VI-12
2-1. 公園管理現況と計画の基本的考え方	VI-12
2-2. 会場運営計画	VI-15

3. 営業参加	VI-18
3-1. 園内営業の現況と計画の基本的考え方	VI-18
3-2. 営業計画	VI-21
4. 会場運営基本計画における協働の進め方	VI-22
4-1. 基本的考え方	VI-22
4-2. 協働の概要	VI-22
5. 事業スケジュールの検討	VI-23

VII. 観客誘致基本計画

1. 基本的考え方	VII-1
2. ターゲット別誘客方針	VII-3
2-1. 一般来場者	VII-4
2-2. 団体来場者	VII-5
3. 広報宣伝基本計画	VII-6
3-1. 広報宣伝の区分	VII-6
3-2. 広報宣伝事業の計画内容	VII-7
4. 広報における協働の展開	VII-13
5. 事業スケジュールの検討	VII-14

VIII. 推進体制・事業計画

1. 事業スケジュール	VIII-1
2. 事業体制	VIII-2
3. 事業効果	VIII-3

I 開催概要

1. 開催フレーム

1-1. 名称

第 32 回全国都市緑化あいちフェア

・愛称は公募により決定する。

1-2. テーマ

(1) 全国都市緑化フェアの統一開催テーマ

『 緑豊かな街づくり
～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・明日の緑をいまつくろう～ 』

(2) 全国都市緑化あいちフェアの統一主題

緑のある暮らしの明日を愛知から
【花を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知 フェア】

1-3. 会場

- ・メイン会場は、愛・地球博記念公園(長久手市)とする。
- ・県内各地の公園や花の名所などをサテライト会場として位置づけるなど、全県展開を検討する。

1-4. 開催期間

平成 27 年 9 月 12 日(土)～同年 11 月 8 日(日) [58 日間]



1-5. 開催主体

- ・提 唱 : 国土交通省
- ・主催者 : 愛知県
公益財団法人都市緑化機構
- ・運営主体 : 第32回全国都市緑化あいちフェア実行委員会
※ただし、全県展開については、当該会場の運営主体とする。

1-6. 入場方式

- ・メイン会場 : 無料入場方式(行催事等によっては有料を検討)

1-7. 開場時間

- ・開場時間は、愛・地球博記念公園の開園時間と、人員配置や店舗等の準備、イベント等の撤収、会場の管理、植物のメンテナンス等を考慮し、以下の時間を基本とする。

9:00～17:00

※ただし、行催事等により、夜間利用を必要とする場合は変更も検討する。

1-8. 目標入場者数

- ・総来場者数: 100 万人以上 (サテライト会場を含む)



2. 基本理念

「自然の叡智」を知り、持続可能な社会への変革へ向けて歩み始めた 2005 年の愛・地球博。そして 5 年後の 2010 年秋、里山自然の豊かな愛知県で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれ、さらに、2014 年秋、持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議が行われる愛知県において、2015 年秋、愛・地球博記念公園をメイン会場に「緑豊かな街づくり」をテーマとする全国都市緑化フェアが開催される。

花や緑は、無機物を有機物に変え、そして食物や住まいなどさまざまな資源として、生きとし生けるものの活動の源となる。

花や緑はまた、環境保全、景観形成、レクリエーション空間の提供、防災・減災さらには地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など、都市環境を良くし、私たちの生活に安らぎやうるおいを与えてくれる。

そして花や緑は、暮らしの中で笑顔や元気、交流をもたらすかけがえのない存在である。

私たちはこのフェアで、今一度、花や緑と共に生きることの原点に戻り、花や緑のある暮らしを思い浮かべる必要がある。

第 32 回全国都市緑化あいちフェアは、来場者はもとより広く全国の人々に、もっと「花」を愛し、もっと「緑」の力を知ってもらい、愛・知フェアとして開催する。

そして、「愛知万博からの 10 年」を踏まえ、「自然の叡智」というテーマや成果が暮らしの中の緑にどう浸透したかを発信するフェアとするとともに、緑の力の「見える化」等により、花や緑のある暮らしのすばらしさが実感・体感さらには体得できるフェアとする。

さらに、これからの花と緑のまちづくりに欠かすことのできない県民協働を積極的に推進し、フェアが一過性の効果で終わらずに時間的・空間的に連続し、花と緑のまちづくりとして持続継続することを目指す。



3. 開催の基本方針

愛知県らしい発信力をもった全国都市緑化フェアの開催を目指すとともに、事業運営、協働体制づくり、会場計画等、新たなフェアを試行する。

(1) 既存ストックの魅力を活用するフェア

～愛知万博からの10年を振り返り、未来につなぐ～

全国都市緑化フェアのメイン会場となる愛・地球博記念公園は、「自然の叡智」というテーマのもとに展開した様々な愛知万博の理念や成果が継承されている空間である。

フェアでは、これらのストックを活用し、緑の分野で浸透した愛知万博の成果を表現し、未来へつなぐ愛知万博を経験した愛知県らしい情報発信力のあるフェアとする。

(2) みどりのチカラを体感するフェア

～みどりのチカラを知り、そのチカラにワクワク、ドキドキする～

フェア来場者が、大人も子供も、新しい花や緑の技術、各種の展示、行催事に触れることによって「みどりのチカラ」を知り、心が楽しく、体が元気になる感覚を実感・体感できるフェアとする。

そして、高い満足感・充実感を味わうことのできるフェアとし、来場者が、花や緑のファンとなり、花や緑を暮らしに取り入れる契機としていく。

(3) 協働をエンジンとするフェア

～県民が大活躍する舞台となる～

メイン会場で活動している「公園マネジメント会議」と連携し、各種の協働事業を展開するほか、メイン会場並びにフェアを構成する会場を、県内各地で緑化や環境改善に活躍する企業・団体・NPO・県民の参加の舞台として活用し、県民主導のフェアを実現する。

そして、フェアをきっかけに多彩な交流を生み出すとともに、来場者、参加者等のフェア関係者にフェア後の都市緑化推進、緑のまちづくりの活性化への継続的な関わりを求め、一過性に終わらない持続する緑化推進を目指す。

(4) 愛知県ならではのフェア

～アイチにとことんこだわる～

モノづくり県、農業県(特に花き産業)などに代表される蓄積された愛知の力を活かし、各種業界、各種の異分野とのコラボレーション、歴史文化の活用、県産県消の推進など徹底して愛知にこだわり、フェアで展開する事業の一つ一つが愛知の魅力が詰まったフェアとする。

Ⅱ 第32回全国都市緑化あいちフェアの展開に向けて

1. 展開に向けた基本的考え方

1-1. ストーリーの設定

- ・フェアの具体的な展開を検討する上で、イメージを共有化するために、フェアの展開に向けてのストーリーを設定することにする。

あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～

愛知万博から 10 年

私たちが「自然の叡智」の大切さを学び・取り組んできた成果を
モリゾー・キッコロに報告することで、
今の暮らしを見つめ直し、つぎの 10 年の取り組みにつなげます

- ・平成 18 年 6 月にとりまとめられた「愛・地球博 基本理念の継承と発展に向けて」に「繰り返し伝える」ことの大切さをうたっている。
- ・「自然の叡智」の大切さを学んだ私たちは、これを忘れることなく将来につなげていくため、「あいちの花や緑」に囲まれた中で、この 10 年の成果と未来への希望をモリゾー・キッコロに報告する機会としてこのフェアを捉えることとする。

① 愛知万博で学んだ「自然の叡智」を継承するフェア

- ・「自然の叡智」をテーマに開催された 2005 年の愛知万博、およそ 3 万人のボランティア、30 の NPO、235 の市民グループの支えにより成功に導かれ、会場を訪れた 2,200 万人、さらに多くの地球市民は、「自然の叡智」の言葉に出会い、「モリゾー・キッコロ」に出会い、多くを体感し、自分たちにも地球的課題の解決のためにできることがあることに気づき、「愛知ターゲット」、「名古屋議定書」などが採択された COP10 の開催など環境の取り組みを続けてきた。これまでの取り組みを振り返りながら、「自然の叡智」を繰り返し伝えるフェアとする。

② 「緑はつなぎ手」としてみんなで作るフェア

- ・愛知万博を多くの方々の力により成功に導いた愛知だからこそ、「緑はつなぎ手」とした参加の多様化、増大により、みんなで作るフェアの開催を目指す。

③ ものづくり県、愛知の素晴らしさを発信するフェア

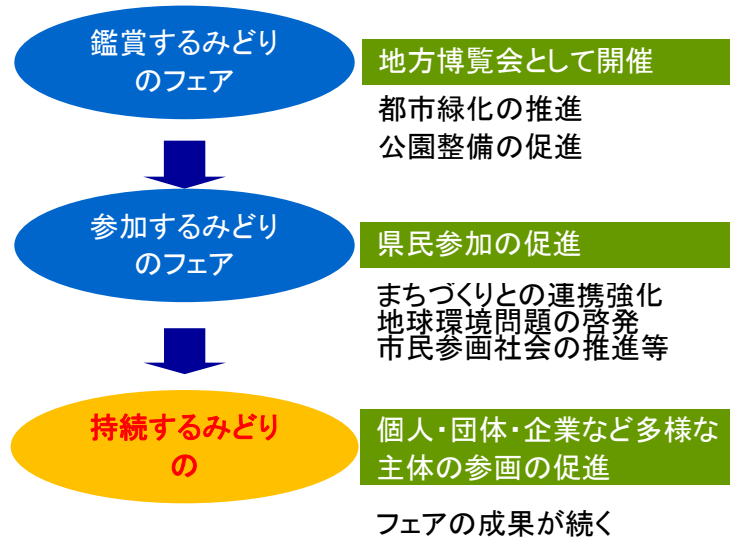
- ・とりわけ工業県にみられる本県は、他方、農業県でもあり、なかでも、花卉産出額は 50 年連続日本一を続けており日本を代表する一大生産地であることや本県から生まれる様々な「愛知県産」にこだわるなど、「いき・ものづくり」※をキーワードに「あいちの魅力」をより広く発信するフェアとする。

※「いき・ものづくり」とは、農業「いき」+工業「ものづくり」=いき・ものづくりを示す。

1-2. 幅広い県民協働の展開

「緑はつなぎ手」として、協働する人々の多様化・拡大を図る

- ・全国都市緑化フェアは、社会の熟成とニーズの変化に伴い、その役割や課題が時代とともに変化してきている。



図Ⅱ-1 緑化フェアの方向性

- ・今後のフェアには、多様な主体の参加、事業成果の継続性等の観点からの展開が必要となってきたと考え、あいちフェアでは「緑はつなぎ手」として、さらに協働する人々の多様化・拡大とともにフェア後にも成果が続く取り組みを図る。

① 異分野交流の推進

- ・自動車と花、緑化企業とアーティストなど、異分野交流による協働・参加を促す。

② 多様な協働スタイルの提供

- ・協働しやすい仕組みとして、会場づくり、行催事、会場運営、観客誘致など、多様な協働・参加の場を提供する。
- ・協働参加する段階についても、企画、計画、実践など各段階のステージを提供し、協働に参加しやすいスタイルを提供する。

③ 協働しやすい環境づくり

- ・展示や行催事開催にあたって、より大きな魅力を発信するために、協働する団体に参画を得られやすい環境づくりを検討する。

1-3. フェアの展開

- ・今回のフェアは、「協働」を積極的に推進していくフェアとすることから、ここで定める「時間のデザイン」や「空間のデザイン」は、「協働」について調整等をする上の基本的な考え方を示したものであり、協働の内容の熟度に合わせて計画内容の調整等を適宜図るものである。
- ・フェアにおいてはあいちの花を原則使用し、「花の王国あいち」を広くPRする。

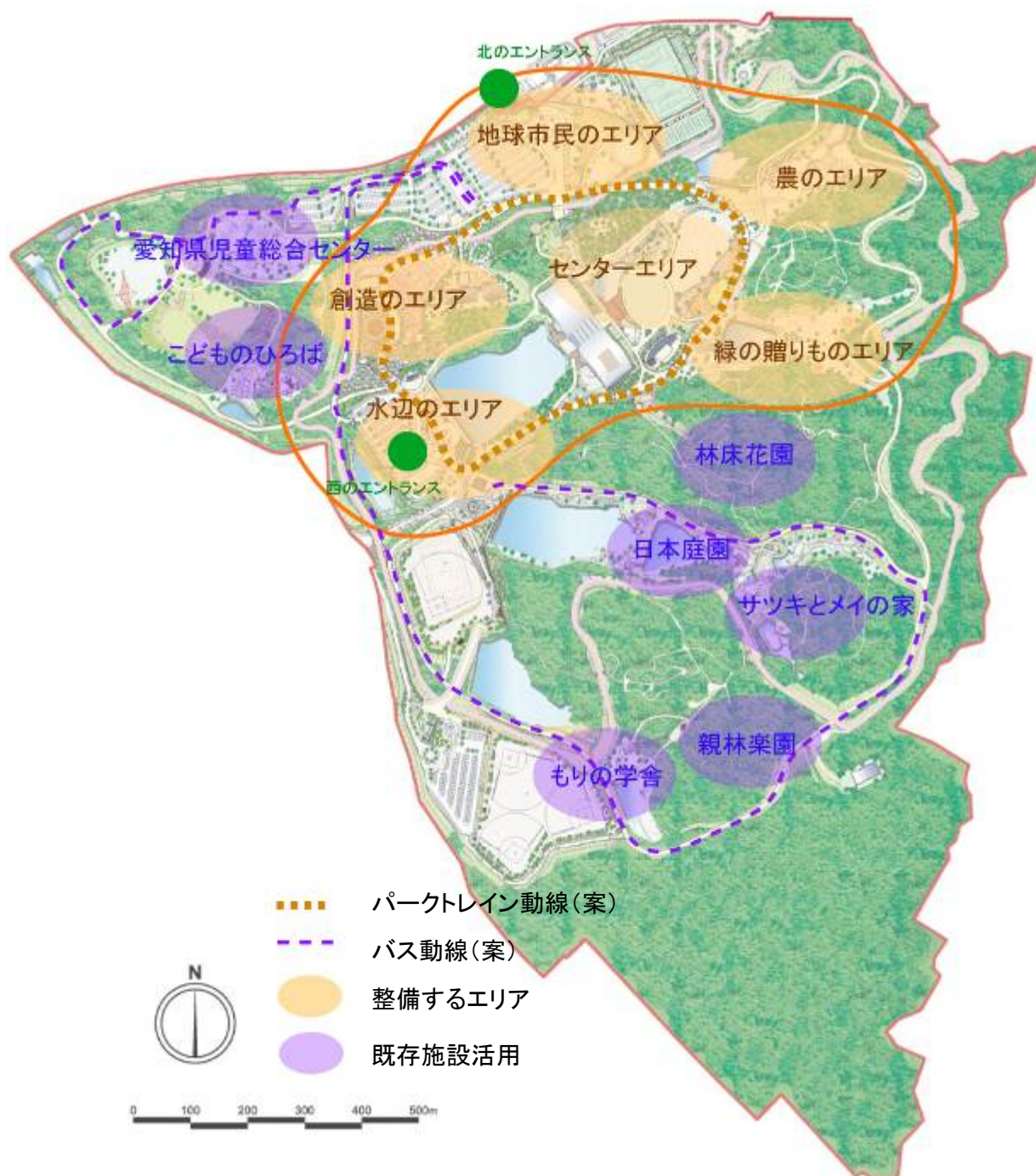
時間のデザイン ～催事・展示の展開～

- ・季節の移ろいととも、愛知万博や COP10などの記念日や祝祭日を踏まえ、会期を4つのテーマに区分する。
- ・各期間テーマに応じた展示や行催事等を、テーマに関わる人々との協働により行う。

あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～				
期 間	第1楽章 `想`	第2楽章 `活`	第3楽章 `生`	第4楽章 `歓`
	愛知万博の思い出と未来への想いを再確認する章	初秋に心を躍らせ様々な活動を展開する章	深まる秋に、自然の恵みに感謝し生きている実感に喜ぶ章	フェアの思い出を刻み、次の10年に向けた出発点となる最終章
	9/12(土) ～9/27(日) (16日間)	9/28(月) ～10/12(月) (15日間)	10/13(火) ～11/1(日) (20日間)	11/2(月) ～11/8(日) (7日間)
愛・地球博最終日 (平成17年9月25日)		COP10最終日 (平成22年10月29日)		
行 催 事	モリゾー・キッコロと子供たちの交流会など	自然とふれあう運動会など	あいちの花の展覧 秋の味覚満載食事会など	お花の馬車のパレードなど
				
フェア開催期間を通してのテーマ(例:「環境」、「交流」、「復興」等)に即した催し等を検討する。				
万博 花				

空間のデザイン ～会場の展開～

- ・会場は現在の供用区域を中心に展開するが、区域が広大なため、主たる会場は公園の北側とする。南側の区域は、既存の施設を活用する。
- ・ループ状の既存園路沿いに、整備するエリアを配置し、回遊性を持たせた会場とする。
- ・愛・地球博記念館や花の広場など、万博や花に関する既存施設を活用する。
- ・各エリアでは、愛知の風土や自然環境を感じさせる演出などを考慮する。



1-4. 全県での展開

- ・あいちフェアの来場者に、県内各地の公園や花の名所などを紹介し、愛知の緑豊かなまちづくりの啓発につなげていくため、メイン会場(愛・地球博記念公園)とともにフェアの全県展開を図る。

(1) 基本方針

- ・基本構想にある「サテライト会場」「協賛会場」については、市町村、民間と施設の設置管理者により整理していたが、それらを統合して「サテライト会場」とする。
- ・これとは別に、フェア期間中に限らず県民の方々にフェアを身近に体感していただくことを目的に、「ふれあい拠点」を設ける。
- ・メイン会場のほか、市町村や企業等と連携を図り、全県展開を推進する。

○サテライト会場の展開

- ・あいちフェアの期間中、公園、観光拠点や花や緑の名所等にも、メイン会場である愛・地球博記念公園の来場者に足を運んでもらえるよう検討する。

【公共(市町村等)】:公園等

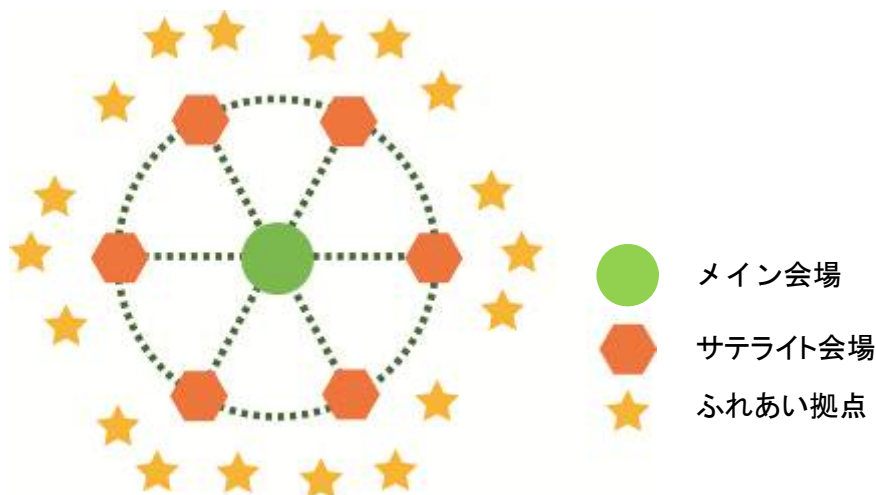
【民間(企業・県民・NPO等)】:民間観光拠点、花の名所等

○ふれあい拠点の展開

- ・あいちフェアの準備～終了までの間で、県内各地で実施されている花や緑の活動の場の中から、地域を代表するものなどを、「ふれあい拠点」として位置付ける。
- ・「ふれあい拠点」にはモリゾー、キッコロが訪れるなど、フェアを身近に体感できるよう検討をする。

【公共(市町村等)】:庁舎、学校(保育園など)、駅前、川沿い、道路沿い等

【民間(企業・県民・NPO等)】:ホテルやカフェ、商店街の多くの人が目にする場所等



図Ⅱ-2 サテライト会場、ふれあい拠点のイメージ

(2) サテライト会場の連携

- ・メイン会場とサテライト会場の相乗的な効果を高めるために、各会場の連携のための仕組みづくりを行う。

【展開例】

「あいち緑・花（りょっか）マップ（仮称）の作成

- ・サテライト会場を来場者にわかりやすく紹介するために、地域別にマップなどの作成を検討する。

【あいち緑・花マップ（仮称）のイメージ】



	名称	見どころ	9月	10月	11月
①	〇〇公園	メイン花壇ほか		コスモス	
			コリウス・アンゲロニアなど		
②	〇〇公園	珍しいランの展示		デンファレ・バンダなど（アトリウム内）	
				サルビアなど（庭園）	
③	〇〇公園	大規模ガーデンほか	サルビア・マリゴールドなど		
				ダイヤモンド・リリー・キクなど	
④	〇〇施設	ヒマワリ、松葉ギク、ポーチユラカ	ヒマワリ・松葉ギク・ポーチユラカ		
⑤	〇〇公園	フラワーガーデン		マリゴールド・コスモスなど	
					ヒオラ・ハボタンなど
⑥	〇〇公園	紅葉		モミジ	
・	・	・			
・	・	・			
・	・	・			
・	・	・			

Ⅲ 協働推進基本計画

1. 協働の基本的考え方

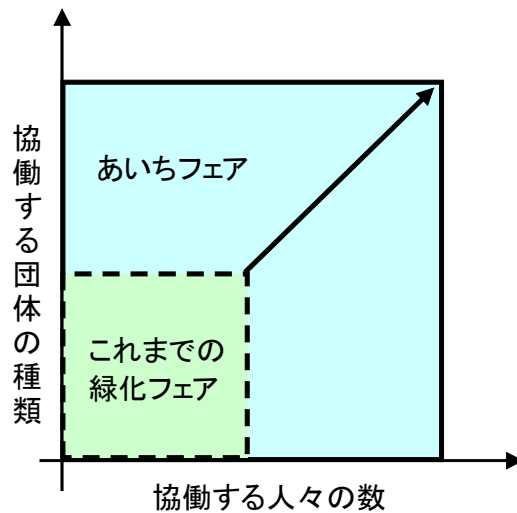
1-1. 協働と参加の考え方

- 基本構想に基づき、あいちフェアにおいては、あいちの協働の仕組みを活かして、あいちフェアの準備段階から協働してもらえる人々を広く募り、フェア開催時には、多様な主体が参加できる場を数多く提供することとする。
- それら準備段階の協働及び、フェア開催時における参加を通して、幅広い県民の参加によるフェア効果の波及と担い手づくりにつなげることを目指す。

協働:あいちフェアを一緒につくりあげ、来場者に提供する
参加:フェアに来場し、学び、楽しむ。

1-2. 協働の展開

- 協働を進める上では花や緑は、人と人、人と社会を結ぶ「つなぎ手」であることから、花・緑を介した協働の勧奨、発展を目指す。
- これまでの緑化フェアでも、県民、NPO、企業、市町村などとの協働は行われてきたが、あいちフェアでは、さらに協働する人々の多様化・拡大を図る。



図Ⅲ-1 あいちフェアの協働の目標イメージ

・以上をふまえ、あいちフェアの協働は、以下の基本方針に基づき、展開を図る。

「緑はつなぎ手」として、協働する人々の多様化・拡大を図る

異分野交流の推進

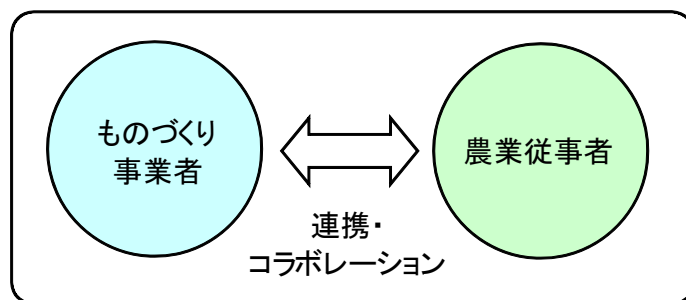
多様な協働スタイルの提供

協働しやすい環境づくり

・あいちフェアは協働を基本として進めるため、基本計画立案後に、協働者を含めた実施計画の検討を行うことから、基本計画の内容は確定したものではなく、今後の実施計画等を踏まえ、調整可能なものとする。

(1) 異分野交流の推進

- ・モノづくり県としてのさらなる発展のために、あいちフェアが異分野交流のきっかけとなることをめざし、他分野との交流による協働を推奨する。
- ・自動車製造企業と花卉産業、緑化企業とアーティストなど、異分野交流による協働を促す。



図Ⅲ-2 異分野交流イメージ

(2) 多様な協働スタイルの提供

- ・協働しやすい仕組みとして、会場づくり、行催事、会場運営、観客誘致に関わる多様な協働スタイルを提供する。

表Ⅲ-1 協働スタイルの例

協働分野	協働の段階	協働スタイル
会場づくり	計画段階	・展示の企画・計画 等
	整備段階	・展示整備 等
行催事	計画・準備段階	・行催事の企画・計画 ・行催事準備 等
	フェア期間中	・行催事の実施 等
会場運営	準備段階	・フェア期間前サービスボランティア(問い合わせ対応等) ・会場運営に関わる研修
	フェア期間中	・会場サービスボランティア(案内、施設貸出、迷子案内、遺失物対応、身障者対応 等) ・会場管理ボランティア(会場整理・誘導、清掃 等)
観客誘致	準備段階	・HPのリンク ・プレイベント企画、協働 ・広報局運用(ボランティア参画) 等
	フェア期間中	・HPのリンク ・広報局運用(ボランティア参画) 等

(3) 協働しやすい環境づくり

- ・展示や行催事開催にあたって、限られた予算でより大きな魅力を発信するために、協働する団体の参画を得られやすい環境づくりを検討する。

2. 協働推進の基本的考え方

2-1. 協働する主体への勧奨方針

- ・「緑はつなぎ手」として、協働する人々の多様化・拡大を図るため、以下の2つの方法で、勧奨を進めることを基本とする。

広く公募する

- ・協働の多様化・拡大を図るために、広く公募し、呼びかけを行い、多種多様な主体による協働を目指す。

勧奨に力を入れる

- ・愛知万博、COP10 等のこれまで様々な経験を有する主体に対して、積極的に呼びかけを行い、あいちフェアを作り上げるための協働を進めていくことを基本とする。

表III-2 協働対象と勧奨方針の例

協働対象	勧奨方針	
	広く公募する	勧奨に力を入れる
NPO・民間団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、老人会等 ・NPO 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間団体等 【例】 ・愛知万博の理念を継承した団体 ・COP10 関連団体 ・自然環境保全、花や緑のまちづくり団体 ・福祉団体、育児支援団体 ・健康づくり、スポーツ振興団体 ・芸術振興、伝統文化継承団体 等 ・公園マネジメント会議の参加団体、その他管理運営に関わる団体
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園 ・小中学校 ・高校、大学 ・各種学校等 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化活動等に取り組む学校 ・造園や芸術系の大学・専門学校 等
花卉・緑化関連団体	—	<ul style="list-style-type: none"> ・花卉生産団体 ・緑化資材を取り扱う企業 ・造園業者 等
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR活動に興味を持っている企業 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博の理念を継承して取り組んでいる企業
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・他都道府県 ・政令市 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県関係課 ・市町村

2-2. 協働を推進するための展開

- ・フェアへの協働団体の募集にあたっては、都市緑化の推進とフェアへの認識を兼ねて、花鉢や花の種等にメッセージを添えて贈るキャンペーンの展開を検討する。

【展開例】

<協賛企業誘致のためのキャンペーン>

- ・企業に協力を求める際に、花鉢等に協賛募集のメッセージを沿えて贈る。
- ・企業内で花が飾られることで、フェアの認知度を高める。

<花の種とともに県民へ送るメッセージ>

- ・小中学校等を対象に、開催案内を添付した花の種を、チラシの代わりに配布する。

2-3. 協働主体の意欲向上

- ・あいちフェアの協働に参画することで、協働主体には、今後の活動や事業の発展につながる交流が生まれることが期待できる。
- ・しっかりとした学習システムを整えることで、ボランティア等の知識や技術向上が可能な協働体制を整えることを検討する。

【展開例】

異分野交流を進めるインセンティブ

- ・コンテスト参加条件に他の主体(分野)との連携・コラボレーションを必須とする、また連携・コラボレーションを企画している主体(企業と農家、老人会と子供会等)にはインセンティブを与えるような仕組みづくり(コンテストの際の追加点の付加等)を検討する。

企業や商品のPR

- ・各エリアの一角に儲ける営業参加エリアに、人々がくつろげる花と緑の空間を設け、ゆったりと座ってお茶が飲める空間を協働で作り上げ、花と緑のあるライフスタイルを提案する。同時にその花や緑、くつろげる椅子やテーブル、飲料や食べ物などの商品をアピールする場として活用することを検討する。

2-4. 既存の協働主体との連携

(1) 既存イベントの活用

- ・行催事等の展開にあたっては、愛・地球博記念公園で実施されている既存イベント等をフェア期間中もできるだけ開催できるよう調整する。

(2) 指定管理者との連携

- ・愛・地球博記念公園の指定管理者と連携することにより、効率的・効果的な運営管理を行う。

(3) 公園マネジメント会議、その他管理運営に関わる団体との連携

- ・あいちフェアの協働・参加の検討を行うに当たり、その中心となると考えられる、「愛・地球博記念公園」の公園マネジメント会議及びサトラボ開拓団についてのヒアリング調査を行った。
- ・また、公園マネジメント会議の所属メンバー団体等に対してワークショップ(意向確認調査)を行った。
- ・その結果、展示、行催事、運営、広報の各分野で協働意向のあることを確認したため、今後公園マネジメント会議及びサトラボ開拓団等との連携を行えるよう調整する。

表Ⅲ-3 ヒアリング調査概要

ヒアリング対象	ヒアリング内容等	実施日時	場所
愛知県建設部 公園緑地課	公園マネジメント会議と の協働可能性について	平成 25 年 7 月 10 日(水) 10:00 ~ 12:00	愛知県建設部 公園緑地課
尾張建設事務所	あいちサトラボとサトラ ボ開拓団について	平成 25 年 7 月 12 日(金) 10:00 ~ 11:45	尾張建設事務 所

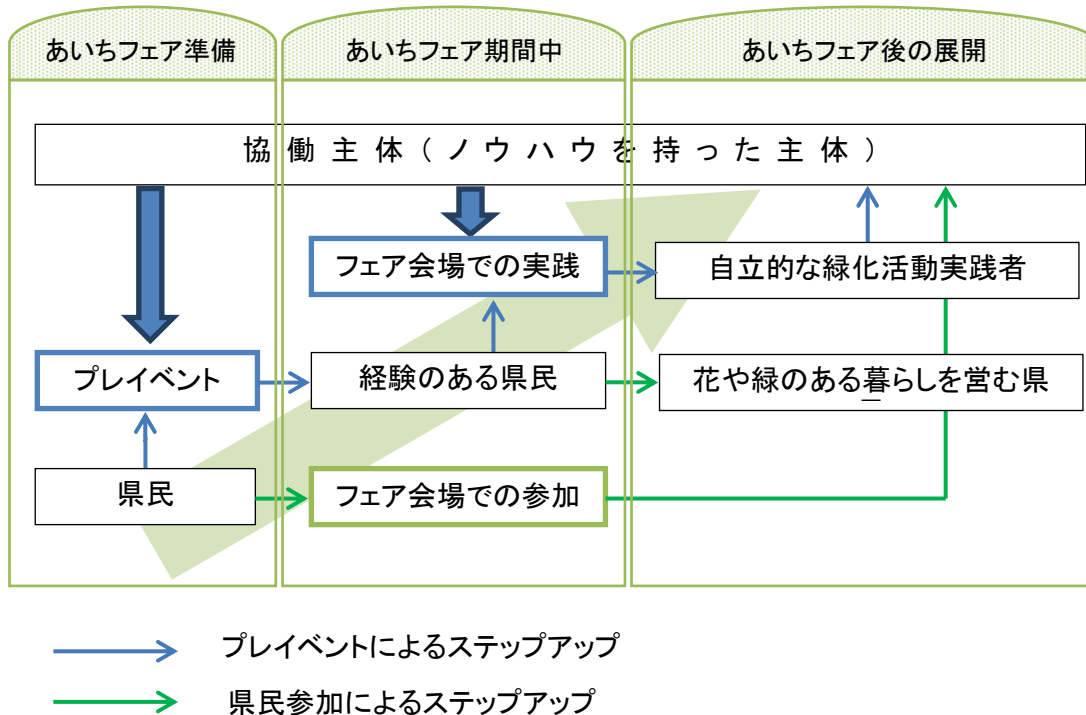
表Ⅲ-4 ワークショップ(意向確認調査)実施概要

調査方法	アンケート方式		
回答期限	平成25年8月16日(金)		
調査説明 会の開催	日時	平成25年7月31日(水)10時、15時の2回	
	場所	愛・地球博記念公園地球市民交流センター 体験学習室3	

3. 担い手づくり

協働に基づく行催事を通じた担い手づくり

- ・行催事の実施における協働では、フェア開催後も持続的に都市緑化を推進する担い手を育成するため、ノウハウを持った協働主体が中心となって、自立的な緑化活動に必要な技術や手法を学ぶ実践的なプログラムの展開を基本とする。
- ・そのため、プレイベントと県民・各種団体等と協働で行う行催事を中心に、参加者が徐々に担い手へとステップアップしていくことを想定した、プログラムを提供することを検討する。



図Ⅲ-3 担い手づくり協働イメージ

連続性のあるプログラムの提供

- ・プログラム参加者の知識と技術の向上に資するため、一週間単位のテーマを決めて段階的なステップアッププログラム等を提供することを検討する。

表Ⅲ-5 テーマに応じたステップアッププログラムイメージ

行催事区分	曜日	月	火	水	木	金	土	日
休日催事—平日連携型	講座・教室タイプ					→	成果発表	
平日催事		基礎編		応用編		発表練習		
休日催事—平日連携型	ものづくりタイプ					→	展覧会	
平日催事		設計図・パーツづくり			組み立て			

4. 事業スケジュールの検討

- ・協働推進に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表Ⅲ－6 協働推進事業スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	・協働推進実施計画の策定 等
平成26年度	・協働実施運営体制構築(募集・選定・調整) ・NPO、民間団体、各種団体の協働主体の募集、及び企画、設計、施工、運営 ・各種学校の勸奨、募集及び企画、設計、施工、運営 ・県内市町村の勸奨、募集及び企画、設計、施工、運営 ・他県・政令市等の勸奨、募集及び企画、設計、施工、運営 ・ボランティアの募集、教育、活動開始 等
平成27年度	・協働実施体制の運営(調整・運営等) ・NPO、民間団体、各種団体の協働主体の設計、施工、運営 ・各種学校の設計、施工、運営 ・県内市町村の設計、施工、運営 ・他県・政令市等の設計、施工、運営 ・ボランティアの教育、活動 等

IV 行催事・展示基本計画 (時間のデザイン)

1. 基本的考え方

あいちフェアの行催事等は、愛知万博や COP10 等に関わった人々をはじめ、県民がそれぞれの経験を持って集い、活躍する舞台とする。

1-1. 県民が活躍する舞台づくり

みんなでつくり上げる行催事

- ・愛・地球博記念公園では、愛知万博後も継続的に多種多様な行催事が実施され、多くの県民に親しまれている。あいちフェアでは、愛・地球博記念公園さらには、各地域で定着してきているイベント等を含めたより多くの行催事を、フェア開催と併せて実施することで、多彩で魅力に富んだ行催事を計画する。
- ・愛知万博後も愛・地球博記念公園で開催されてきた行催事は、公園の財産と言える。あいちフェアの行催事においても、フェア開催後の財産として継続的な行催事につなげていけるよう、来場者が参加可能なプログラムを積極的に提供することを基本とし、来場者があいちフェアに対する当事者意識、一体感を味わえるとともに、フェア開催後も継続的に行催事を開催したいと感じられるような展開を検討する。

舞台を演出する時間のデザイン

- ・来場者に行催事の内容を効果的に伝えるために、フェア開催期間58日間を、季節の移ろいとともに、愛知万博や COP10 等の記念日や祝祭日を踏まえ、4つのテーマ設定に応じた「楽章」に分けることとする。
- ・これら4つの「楽章」に合わせた内容と、テーマに関わる人々が協働に基づきともに行催事を作り上げることによって、あいちフェアを彩り豊かなものとする。
- ・「楽章」に分けることによって、あいちフェア期間中にも定期的に新たな興味や話題を提供し、来場者のリピートにつながると考えられる。
- ・この時間のデザインに基づき、各楽章のテーマを象徴するような行催事と、開催期間を通じて継続的に実施する行催事を設定し、変化に富みつつも、あいちフェアとしての統一性が感じられる展開を検討する。
- ・さらに、時間のデザインと空間のデザインの関連性を具現化できるよう、メイン会場の5つのエリアと既存施設において、行催事が常時展開されることを基本とする。

表 -1 フェア開催期間中の行催事のテーマと協働対象(例)

あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～				
期間	第1楽章 “想” ～夏(万博)の 思い出～	第2楽章 “活” ～秋のはじまり～	第3楽章 “生” ～深まる秋～	第4楽章 “歓” ～未来への旅立ち～
		愛知万博の思い出と未来への想いを再確認する章	初秋に心を躍らせ様々な活動を展開する章	深まる秋に、自然の恵みに感謝し生きている実感に喜ぶ章
	9/12(土)～9/27(日)(16日間) (9/19(土)～9/23(水)のシルバーウィークを含む) <参考> ・愛・地球博最終日 →平成17年9月25日	9/28(月)～10/12(月)(15日間) (10/12(月)の体育の日)	10/13(火)～11/1(日)(20日間) <参考> COP10 最終日:平成22年10月29日	11/2(月)～11/8(日)(7日間) (11/3(火)文化の日含む)
期間中のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博の思い出 ・愛知万博後の環境配慮や緑化技術 ・世界との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の生き活きた活動・活躍(スポーツ・健康づくり等) ・愛知の産業、未来への技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性(自然の恵み) ・自然の恵みへの畏敬の念から生まれた愛知の伝統文化・芸術 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化フェアファイナル ・「みんな」が参加するお祭り
協働対象(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博関連 NPO ・環境保全 NPO ・万博の理念継承・発展団体 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連 NPO ・健康づくり、福祉関係 NPO 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・COP10 関連 NPO ・農業関係者 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・花卉、緑化関係 NPO 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・県民、保育園・幼稚園、各種学校、老人会、町内会、商店街 ・公園マネジメント会議 ・公園管理者及び管理関係団体 ・花卉等関連団体、生産者等 ・企業、事業者 ・県内市町村等自治体 等 			

期間		あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～			
		第1楽章 “想” ～夏(万博)の思い出～	第2楽章 “活” ～秋のはじまり～	第3楽章 “生” ～深まる秋～	第4楽章 “歡” ～未来への旅立ち～
期間中のテーマ		愛知万博の思い出と未来への想いを再確認する章	初秋に心を躍らせ様々な活動を展開する章	深まる秋に、自然の恵みに感謝し生きている実感に喜ぶ章	みんなで歡喜することで、フェアの思い出を刻み、次の10年に向けた出発点となる最終章
期間中のテーマ		9/12(土)～9/27(日) (16日間) (9/19(土)～9/23(水)のシルバーウィークを含む) <参考> ・愛・地球博最終日 平成17年9月25日	9/28(月)～10/12(月) (15日間) (10/12(月)の体育の日)	10/13(火)～11/1(日) (20日間) <参考> COP10 最終日:平成22年10月29日	11/2(月)～11/8(日) (7日間) (11/3(火)文化の日含む)
期間中のテーマ		・愛知万博の思い出 ・愛知万博後の環境配慮や緑化技術 ・世界との交流	・県民の生き活きとした活動・活躍 (スポーツ・健康づくり等) ・愛知の産業、未来への技術	・生物多様性(自然の恵み) ・自然の恵みへの畏敬の念から生まれた愛知の 伝統文化・芸術	・緑化フェアファイナル ・「みんな」が参加するお祭り
会場づくり	展示イメージ	・愛知万博後の取り組み ・バイオミクリー等	・環境技術の進歩等	・生物多様性等	・芸術と科学等
	花のイメージ	フェアのはじまりを彩る花壇 秋の実りや上品な優雅さをイメージさせる花壇 「あいちの花」の切花や鉢花を魅せる屋内展示			
開催事(メインイベント例)		<p>・モリゾー・キッコロと子供たちの交流会等 (第1楽章のメインイベントのみ夜間までの開催も今後検討)</p>  <p>モリゾーとキッコロ</p>  <p>愛・地球博記念公園 秋祭り</p>	<p>・自然とふれあう運動会等</p>  <p>愛知駅伝</p>  <p>愛・地球博記念公園秋祭り</p>	<p>・あいちの花の展覧 秋の味覚満載食事会等</p>  <p>秋の実り</p>  <p>フラワードーム</p>	<p>・お花の馬車のパレード等</p>  <p>第30回全国都市緑化とっとりフェア</p>  <p>第25回全国都市緑化ぐんまフェア</p>
フェア期間を通して		フェア開催期間を通してのテーマ(例:「環境」、「交流」、「復興」等)に即した催し等を検討する。			

万博

花

1-2. 集客を考慮した行催事日のタイプ設定

- ・あいちフェアでは、計画的に目標来場者数を達成するため、期間中の集客計画を設定し、期間中のテーマや集客ターゲット、集客規模に応じた行催事日のタイプ設定と、設定に応じた適切な内容の行催事の実施を検討する。
- ・例えば、フェア期間中に最も来場者数が集中する日(スペシャル日)、4つの「楽章」の各期間中に最も集中する日(主要催事日)、その他一般の休日、平日といった行催事日のタイプ設定を検討する。
- ・このタイプ区分により、来場者の入退場の集中をある程度コントロールし、来場者の駐車場利用、リニモの混雑緩和にも資することができるものと想定される。
- ・休日には家族連れや県内・県外観光客をターゲットに、また平日には、高齢者や各種学校、企業研修、海外研修等、平日の方が参加しやすい層をターゲットとしたイベントを検討し、展開することを検討する。

表 -3 メイン会場の行催事日のタイプ設定(例)

行催事日のタイプ	集客概要
スペシャル日	集客規模の大きなメインイベントを実施
主要催事日	各楽章の最終週末を中心に集客規模の大きな主要催事を開催
休日	上記タイプ以外の土・休日 集客規模中型の催事を開催
平日	平日の方が参加しやすい層をターゲットとした小型の催事、体験プログラム等を実施

2. 行催事の展開

あいちフェアとして公的な性格の強い行催事は、実行委員会が主催者行催事として実施する。同時に、あらゆる主体による行催事の開催を企画することにより、行催事の展開を豊かにする。

- ・行催事の区分は 主催者行催事と、協働行催事の2つに区分する。
- ・主催者行催事は、あいちフェア実行委員会による開催を基本とするが、その一部のプログラムにも、県民等の協働を組み込むことを検討する。
- ・協働行催事は、あいちフェアの内容や楽章ごとのテーマに応じ、県民や各種団体等と企画段階から検討を行う、「企画協働型」と、事業者等の持ち込みによる「持込み協働型」の行催事を展開する。

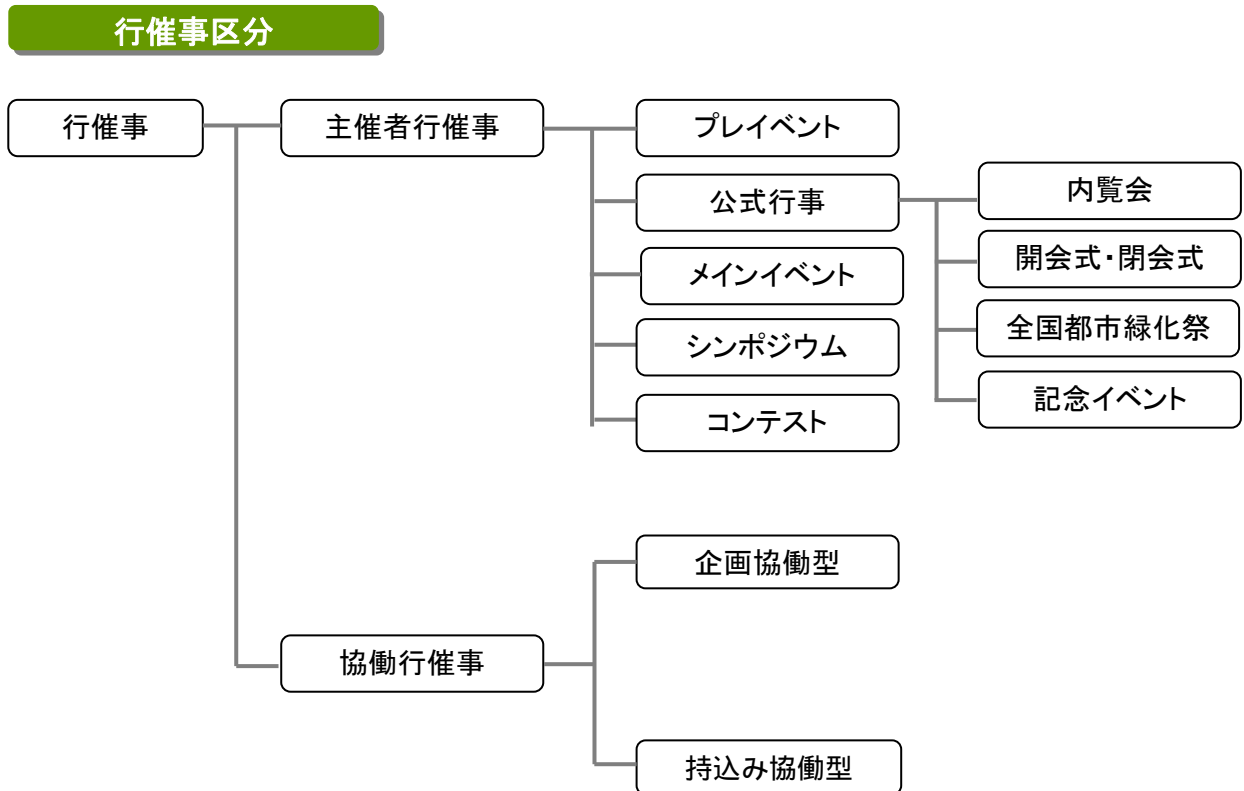


図 -1 行催事の区分

行催事の概要

・それぞれに区分される行催事の概要は以下のとおりである。

表 -4 区分された行催事の概要

区分		内容	展開場所	
主催者 行催事	プレイベント	・1年前イベントを皮切りに広報宣伝計画や全県展開に連動し、あいちフェアのPRと、ニュース発信、観客誘致につながるイベント。	・メイン会場 ・愛知県内会場 ・観客誘致圏	
	公式 行事	内覧会	・メイン会場である愛・地球博記念公園周辺の市民及び広報関係者に向けた会場PRイベント。	・メイン会場 ・愛知県内会場
		開会式	・あいちフェアの開催及び万博10周年を宣言し祝うイベント。	・メイン会場及び愛知県立大学講堂
		閉会式	・あいちフェアの閉会と、あいちフェアに協働・参加した人々が最後に一体感を味わえるイベント	
		全国都市緑化祭	・緑化活動の宣言とコンテストの表彰 ・植樹祭の実施	
		記念イベント	・記念入場者に対する、お祝いと記念のイベント	・メイン会場
	メインイベント	・あいちフェアの象徴となる、①大規模な集客イベント及び②通期のイベント	・メイン会場	
	シンポジウム	・4つの楽章テーマに応じた内容のシンポジウム	・メイン会場	
	コンテスト	・団体分野楽章テーマに応じたコンテスト表彰	・メイン会場	
	協働 行催事	企画協働型	・あいちフェアの内容や楽章ごとのテーマに応じ、県民や各種団体等と企画段階から検討を行う。	・メイン会場 ・サテライト会場
持込み協働型		・メイン会場である愛・地球博記念公園で毎年行われている既存のイベントを中心に、フェア期間中に事業者等による持込みイベントを開催	・メイン会場 ・サテライト会場及びふれあい拠点	

2-1. 主催者行催事

(1) プレイベント

- ・広報宣伝計画と連携し、それぞれの集客ターゲットに対応したプレイベントを開催する。
- ・全県展開と連携し、ふれあい拠点を増やすための事業展開をプレイベントとして実施する。
- ・プレイベントは主催者行催事であるが、その一部のプログラム構成においては、協働行催事との連携を検討する。


プレイベント(広報宣伝計画との連携)

表 -5 プレイベント(広報宣伝計画との連携)の例

実施例	概要		展開場所
	主催者開催	協働行催事との連携を検討	
日本縦断花車リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイベントのメインプログラムとして、県内各地をカウントダウンボードを積んだ花車が縦断する。 ・フェア開催1年前に開始、1年に渡りサテライト会場及び主要なふれあい拠点等、県内各地を巡る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花車を引くメンバーは、県民に広く募集をかけて、数時間程度の交代制で行う。 	全県
あいちフェアキャラバン隊	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコット(モリゾー・キッコロ)、あいち戦国姫隊等のキャンペーンキャラバン隊を結成し、PRイベントを開催。 ・県内各地のサテライト会場、ふれあい拠点の他、緑や花の生産地、主要な地域のお祭り会場等を廻る。 ・日本縦断花車リレーと連携して、主要ポイントで合流し、イベントを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花育教室等、NPOの体験教室 ・生産の現場探検ツアーの等開催 等 	全県、近隣県等
一年前イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本縦断花車リレー出発式 ・あいちフェア開催に向けた1年前宣言等 ・あいちフェアキャラバン隊によるイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽隊パレード、コンサート ・花育教室等、NPOの体験教室 等 	メイン会場 サテライト会場等
100日前イベント(あるいは愛知万博開幕記念イベント)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本縦断花車リレー途中経過報告 ・あいちフェア開催に向けた100日前宣言等 ・あいちフェアキャラバン隊によるイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽隊パレード、コンサート ・花育教室等、NPOの体験教室 等 	メイン会場 サテライト会場等

プレイベント(全県展開と連携)

表 -6 プレイベント(全県展開と連携)の例

実施例	概要	
花切符と駅前花壇	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道やバスなど交通関連企業と市町村、花緑関連団体等が一体となり、駅やバスターミナルなど公共性の高い公有地にあいちフェア連携花壇を設置する。 ・鉄道やバスなど交通関連企業にあいちフェア記念切符の発行等の検討を依頼し、公共交通機関利用率の向上を目指す。 	
愛知の風景が一変、緑のカーテンコンテスト大作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行われている緑のカーテンコンテストを住宅部門、幼稚園・保育園部門、学校部門及び事業所部門だけでなく、行政庁舎部門、ビル部門、商店街部門等で大々的に展開する。 ・学校等の団体参加者へは、あいちフェアキャラバン隊(マスコットキャラクターであるモリゾー・キッコロ)の訪問等による思い出づくりと連携して、拡大を図る。 	
花のある生活の楽しさ、フラワーウェルカム大作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の目につきやすい、駅や空港、ホテルやカフェ、店舗、主要な観光地において、フェア開催の広告を取り付けた緑花修景を展開してもらう。 ・あいちフェアキャラバン隊(マスコットキャラクターであるモリゾー・キッコロ)の訪問等による相互広報協力、事業者等によるイベント開催等への協力を依頼する。 	
「あいち緑・花(りよっか)マップ(仮称)の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライト会場を来場者にわかりやすく紹介するために、地域別にマップ等の作成を検討する。 ・愛知万博、COP10の際に実績のある「グリーンマップあいち」を中心に、県民、NPO、学校等の参加により作成することを検討する。 	

(2) 公式行事

- ・公式行事については、メイン会場及び周辺の愛知県立大学の講堂を会場として行うことを検討する。
- ・開閉会式の開催と併せて、企画協働型催事あるいは持込み協働型行催事でオープニング及びクロージングセレモニーを行う。

公式催事

表 -7 公式行事の例

実施例	概要		展開時期	展開場所
	主催者が担う部分	協働行催事との連携を検討		
内覧会	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会委員、協賛者、出展者、協力団体、近隣住民等を招待する見学会 ・プレスプレビュー：マスコミなどプレスの現地取材 ・セレモニー：各エリア等のお披露目等 ・運営予行：スタッフ、ボランティアの現地訓練も兼ねた運営の予行 	<ul style="list-style-type: none"> ・セレモニー（地球市民交流センターにおける行催事体験会等） ・ガイドツアーの予行等 	フェア開会数日前	ステージ、各エリア等
開会式	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式：関係者を招いての開会式典 ・テープカット、開催宣言等 ・日本縦断花車リレーのゴールセレモニー等 	<ul style="list-style-type: none"> ・アトラクション（地元音楽隊等の演奏などセレモニー、郷土芸能等の披露等） ・「あいち緑・花（りよっか）」マップ（仮称）マップのお披露目、関係者インタビュー等 	フェア開会日(9/12)	体育館・三日月テント・愛知県立大学講堂・地球市民交流センターの半屋内部分等
閉会式	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会式：関係者を招いての開会式典 ・授賞式：屋外出展コンテスト等の表彰 ・伝達式：次期開催地へのフェア旗の伝達式 	<ul style="list-style-type: none"> ・アトラクション（地元音楽隊等の演奏などセレモニー、郷土芸能等の披露等） ・未来へのあいちフェア宣言等 	フェア閉幕日(11/8)	体育館・三日月テント・愛知県立大学講堂・地球市民交流センターの半屋内部分等
全国都市緑化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・皇室をお招きしての式典、記念植樹等を広く各界の参加を得て行う。 ・緑化活動の宣言 ・植樹祭の実施 	—	フェア期間中の平日	体育館・愛知県立大学講堂等
記念イベント（〇〇万人来場者記念セレモニー）	<ul style="list-style-type: none"> ・節目となる入場者にインタビューと花束、記念品の授与 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働行催事で提供される参加プログラムへご招待等 	イベント成立時随時	ステージ、北口、西口等

(3)メインイベント

- ・メインイベントは、集客規模の大きなイベントである スペシャルイベント、及び フェア通期イベントの2種類を想定する。

① スペシャルイベント

- ・スペシャルイベントとしては、数時間で高い集客力を有するコンサートや1日で一万人以上を集客する大規模イベントの2通りの考え方が想定される。
- ・コンサートなど数時間で集客するイベントは、混乱を避けるために夜間等も想定し、うまいもの祭りなど1日をかけて集客するイベントは土・休日の昼間の開催を想定する。
- ・スペシャルイベントは、主催者がテーマ等を示し、それに応じて提案される持込み協働型の行事の開催を検討する。

スペシャルイベント

表 -8 スペシャルイベントの例

実施例	実施概要	展開時期	展開場所	展開方法	備考
アーティストコンサート	著名なアーティストによるコンサート夜間開催を想定。有料も想定。	愛・地球博閉幕記念日(9/26(土)等)	センターエリア(ステージ)	主催者と事業者の協働企画	有料区域と無料区域を区分する柵、チケットブース、遮蔽壁、専用仮設トイレが必要
食のイベント(例:うまいもの祭り等)	土日を中心に数日間開催。過去事例から1日2万人程度集客可能。有料も想定。	主要催事日のいずれかと一緒に実施。	センターエリア		有料区域と無料区域を区分する柵、チケットブースが必要
スポーツイベント(例:スイーツマラソン等)	土日を中心に、花や緑を見ながら走る、運動できる気軽なスポーツイベント。		主園路・センターエリア・等		主要動線に歩行者動線と走者動線を分けるロープ等

② フェア通期イベント

- ・フェア通期イベントは、フェアの開催期間を通してのテーマ(例:環境、交流、復興等)に即した催事を検討する。
- ・フェア期間中の寄付や売上の一部を慈善団体に寄付するなど、社会に貢献し、あいちフェアの成果のひとつとなるような仕組みを検討する。

フェア通期イベント

表 -9 フェア通期イベントの例

実施例	花畑の大ギャラリー(花を愛する心と助け合う絆のポストカード作り)
趣旨	愛知万博、COP10 等の経験に育まれた自然との共生、地球大交流・連携への想いを花に託し、世代と日本全国へ広げていく。
概要	<ul style="list-style-type: none">・センターエリア花畑を中心としたエリアでの野外のギャラリーを設置し、写真撮影会や写生会を常時開催・撮影された写真や描かれた絵は持ち帰ることができるほか、希望者は「あいちフェア」ポストカードにすることができ、来場者へも販売する。・ポストカード売上の一部は災害援助、慈善団体へ寄付する他、ポストカードに被災地等へのメッセージを書いて贈る等、ポストカードを生かす。
展開場所	センターエリア(大芝生広場、大花壇等)
展開方法	主催者と事業者の協働企画

(4)シンポジウム

- ・あいちフェアのシンポジウムは、「緑のある暮らしの明日」を発信し、愛知県の緑化推進に寄与するとともに、4つの楽章のテーマに関連した内容を検討する。
- ・開催は、主催者行催事及び協働行催事のどちらでも行えるよう検討する。
- ・シンポジウムの開催場所は、ステージ、地球市民交流センター(半屋内部分)、三日月テント、愛知県立大学講堂等を検討する。

シンポジウム

表 -10 シンポジウムの例

実施例	テーマ例	展開楽章	開催場所
第1楽章関連シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博の理念継承発展事業を中心としたテーマのシンポジウムを開催 <ol style="list-style-type: none"> ①愛知万博後の成果と課題 ②市民の成長力 ③愛知万博からの歩み 等 	第1楽章	ステージ、地球市民交流センター(半屋内部分)、三日月テント、愛知県立大学講堂等
第2楽章関連シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・緑や花が担っている、人と自然、人と人、心と心をつなぐ様々なチカラに関するシンポジウムを開催。 <ol style="list-style-type: none"> ①人と人をつなぐ緑・花のチカラ ②過去と未来をつなぐ緑・花のチカラ ③防災シンポジウム「緑・花のカ・文化の力」等 	第2楽章	
第3楽章関連シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の伝統・文化等から、緑や花、作物(自然)を使った「知恵」、COP10の理念である生物資源を持続可能に末永く活用することをコンセプトに、未来へと伝えたい知恵を表彰・関連シンポジウムを開催。 <ol style="list-style-type: none"> ①衣(身につけるもの)部門 ②食(食べるもの)部門 ③住(住まうもの)部門 ④医(癒すもの)部門 等 	第3楽章	
第4楽章関連シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の都市緑・花の拡大に向けた、課題や方針についてのシンポジウム <ol style="list-style-type: none"> ①花卉・園芸部門 ②くらし部門 ③教育部門 等 	第4楽章	

(5) コンテスト

・あいちフェアにおけるコンテストは、団体分野コンテストと、楽章関連コンテストの2種類を検討する。

① 団体分野コンテスト

・県民、企業、花卉生産者、花関連団体等が参加し、それぞれの団体の分野に応じたコンテストと主要催事に応じたコンテストを開催し、その結果を都市緑化祭、閉会式等のセレモニーとして表彰を行うことを検討する。

・表彰場所はステージ、地球市民交流センター(半屋内部分)、三日月テント、愛知県立大学講堂等を検討する。

団体分野コンテスト

表 -11 団体分野コンテストの例

実施例	参加対象者	概要	展開場所	表彰日
緑のカーテンコンテスト	県民、幼稚園・保育園、学校、行政(市町村)、企業、商店街等	・県で毎年行われている緑のカーテンコンテストを住宅部門、幼稚園・保育園部門、学校部門及び事業所部門だけでなく、行政庁舎部門、ビル部門、商店街部門等で大々的に展開する。	地球市民のエリア(部門別に応募写真をパネル等にして展示)	閉会式
緑化壁コンテスト	緑化資材メーカー、ゼネコン、ハウスメーカー、造園施工会社等	・最新の緑化技術を最大限に活用し、都市緑化や都市景観の向上に寄与する壁面緑化の企画・製作を募集する。なお、壁面緑化に使用する植物は、花卉等も使用する等、景観等にも趣向を凝らした緑化壁の提案を求める。	地球市民のエリア	閉会式
企業花壇展示コンテスト	緑化資材メーカー、造園施工会社、種苗会社等	・最新の緑化技術を最大限に活用し、都市緑化や都市景観の向上に寄与する花壇製作の企画・製作を募集する。	水辺のエリア	閉会式
花の品評会	花卉生産者	・品評会は4つの部門(菊・スプレー菊・バラ・鉢物)で行い、4つの各楽章で1つの部門の品評会を行う。 ・各部門で約100点の出展(知事賞を出すには100点以上が必要という条件)を目指す。	センターエリア(プール)	期間中各部門で各1回、計4回実施
あいちフラワーカップ	花関連団体・企業等	・あいちフェアの時期に合わせた、フラワーアレンジメントなどフラワーアートのコンテストやいけばな各流派による競演を行う。	センターエリア(プール)	期間中1回実施

② 楽章関連コンテスト

- ・主要催事関連コンテストは、あいちフェアの4つの楽章のテーマに関連し、広く子供から大人まで県民が参加できるものとする。
- ・コンテストのテーマは、例えば、広報及び観客誘致を兼ねた、各種学校の夏休み中の工作課題との連携や、あいちフェアをきっかけとした発展として、事業者による新しい愛知の特産品の発信など、あいちフェアの前後の展開を考慮し検討する。

楽章関連コンテスト

表 -12 楽章催事関連コンテストの例

実施例	テーマ例	参加対象者	展開楽章	展開場所
第1楽章関連コンテスト	環境・リサイクル工作 国際交流 等	小中学生 フレンドシップ事業市町村等	第1楽章	地球市民のエリア(半屋内部分)センターエリア(ステージ)等
第2楽章関連コンテスト	スポーツと花、緑、食とのコラボレーション 新しい愛知の特産品の提案 等	事業者 等	第2楽章	
第3楽章関連コンテスト	愛知の伝統野菜・食 受け継がれた知恵 生物多様性 等	県民	第3楽章	
第4楽章関連コンテスト	花と緑のパレード 未来への提言 等	県民、花関連団体・企業、NPO等	第4楽章	

2-2. 協働行催事

- ・協働行催事は、「企画協働型」と「持込み協働型」の2つを検討する。
- ・「企画協働型」行催事は、愛知万博や COP10 等の経験を持つ人々や愛・地球博記念公園で活動している人々等、様々な主体と企画の段階からともに作り上げることを検討する。
- ・「企画協働型」行催事は、あいちフェアの内容と時間のデザインに応じた内容を、様々な行催事の形態で提供することを検討する。
- ・「持込み協働型」行催事は愛知フェアの開催に合わせた持ち込みイベントを想定する。
- ・基本的に、「企画協働型」行催事の協働主体には、行催事の実施に当たっての支援を検討する。

(1) 企画協働型行催事

- ・企画協働型行催事は、あいちフェアの時間のデザインに基づき、4つの楽章のテーマに関連する内容を多様な主体と企画して作り上げていくこととすることから、行催事は様々な形態で提供されることが想定される。
- ・その形態は例えば以下に示すような、あいちフェアの「舞台づくり」、「体験づくり」、「ものづくり」、「思い出づくり」といった形態に区分されることが想定される。
- ・時間のデザインに基づき、各楽章の時期に、各楽章のテーマに応じて、様々な形態の行催事を、あいちフェアの空間である会場内の各エリア及び既存施設の特性に合わせて企画協働型行催事を展開することを検討する。
- ・また、集客ターゲットや平日、土・休日等の開催日の特性に合わせて、その内容と提供形態を検討する。

行催事の提供形態区分

- ・行催事を来場者に提供する形態を設定し、それに応じたプログラムを検討する。

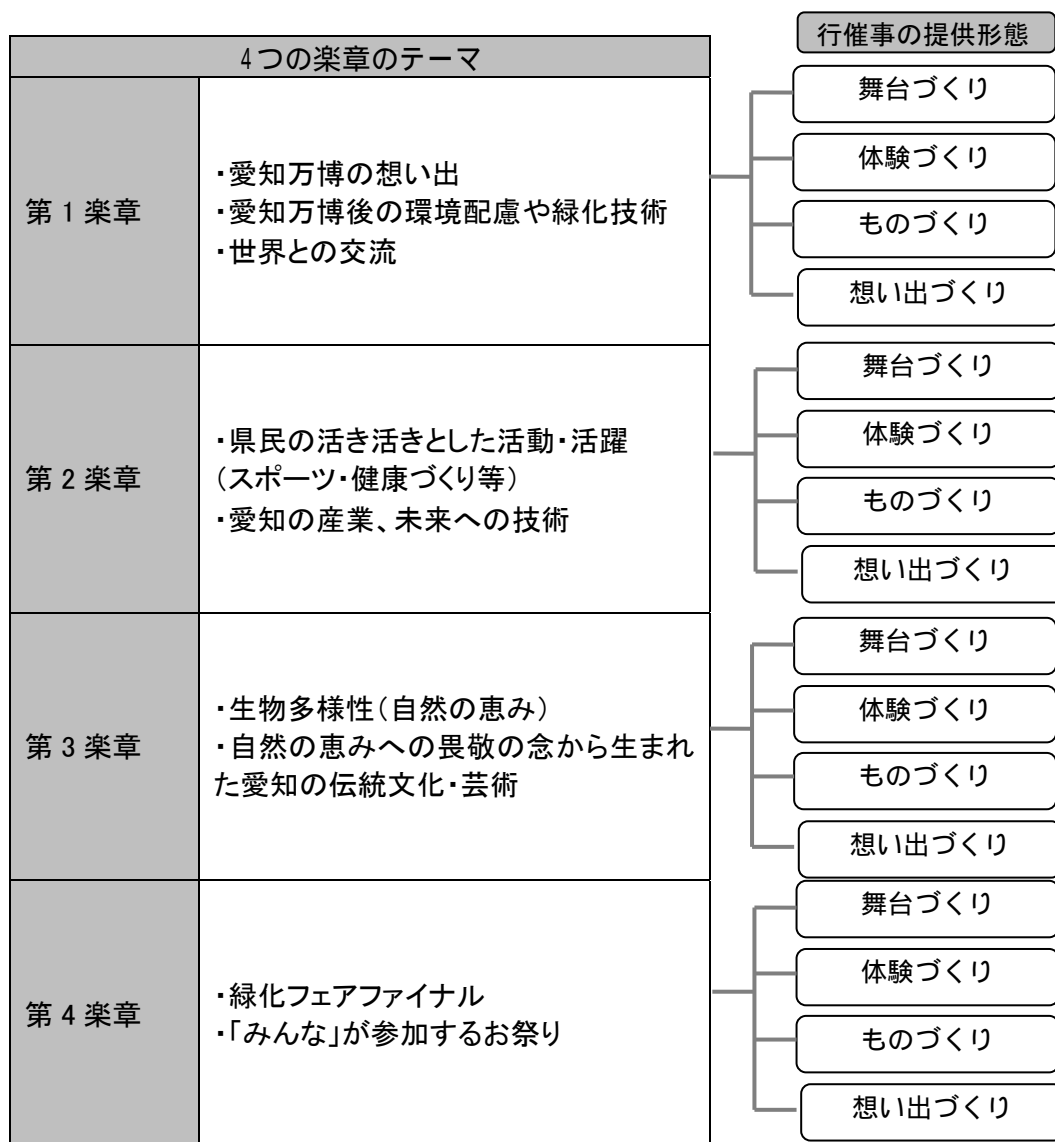
表 -13 企画協働型行催事の提供形態の例

提供形態	ねらい	プログラム概要
舞台づくり	みんなで作る会場を体感する	・会場の風景、景観要素を含めた舞台を作るプログラム
体験づくり	緑・花の力を体感する	・参加者が花や緑を身近に感じることのできる体験プログラム
ものづくり	ものづくりを通して愛知の智慧を体感する	・ものづくり体験を通じて、愛知県が蓄積してきた伝統文化や智慧を感じられるプログラム
思い出づくり	みんなで作る思い出でフェアの楽しい思い出を共有する	・あいちフェアでの一体感を味わい、思い出づくりにつながるプログラム ・コンサートや舞台 等

行催事の提供内容

・来場者(参加者)を想定し、あいちフェアの4つの楽章の各テーマと行催事の提供形態を適切に組み合わせて、様々なプログラムを来場者に提供する。

表 -14 提供内容検討例



企画協働型行催事のタイプ区分

・集客ターゲットを考慮して、以下のような3つの行催事のタイプを検討する。

表 -15 企画協働型行催事のタイプの例

タイプ区分	ターゲット
①主要催事	広く県民及び県外からの来場者 等
②休日催事	ファミリー層、県内及び県外観光客 等
③平日催事	高齢者、企業、NPO、市町村、県、各種学校、海外研修 等

① 主要催事

- ・各楽章のテーマを分かりやすく示すとともに、センターエリアの大芝生広場やステージを活用し、大勢の来場者が参加できるイベントの開催を検討する。

主要催事

- ・あいちフェアの 4 つの楽章のテーマに合わせた協働の主体を募り、主要行催事の内容と実施体制を検討する。

表 -16 主要催事の実施例

楽章	行催事の内容例	行催事のテーマ	協働参加者例	協働の仕掛け
第 1 楽章	万博 10 周年を記念するもの、環境の保全や世界との交流等をテーマとした行催事等	舞台づくり 体験づくり ものづくり 思い出づくり のいずれか	<ul style="list-style-type: none"> ・公園マネジメント会議 ・愛知万博関連NPO ・愛知万博の年に生まれた満 10 歳の子供達 ・フレンドシップ事業関係市町村 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加該当団体への呼びかけ ・企画提案公募等
第 2 楽章	スポーツや健康づくり等体を動かすことをテーマとした行催事等		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連NPO ・福祉関係団体 ・各種学校 ・大学 等 	
第 3 楽章	COP10 や生物多様性、愛知の特産物・名産等、愛知県に存在する様々な多様性に着目する行催事等		<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村 ・COP10 関連 NPO ・各種学校 ・芸術系大学及び専門学校 	
第 4 楽章	フェアの最後を飾る、フェアの協働、参加の一体感を得る行催事		<ul style="list-style-type: none"> ・緑・花関連 NPO ・花・緑関連団体 ・花卉生産者組合 ・各種学校 ・芸術系大学及び専門学校 	

② 休日催事

- ・各楽章に応じて各エリア及び既存施設で、あいちフェアの内容を分かりやすく示すとともに、親子や観光客も楽しめる行催事の開催を検討する。

休日催事

- ・県内の様々な経験や知恵、人材を有する主体の参加を募り、休日行催事の内容と実施体制を検討する。

表 -17 休日催事の実施例

テーマ	行催事の内容例	対応楽章	協働の主体例	協働の仕掛け
舞台づくり	各エリアでの、愛知万博後の企業やNPO等の技術発展や活動発展状況の展示や催事、市町村や学校等による展示と催事等を展開。		<ul style="list-style-type: none"> ・公園マネジメント会議 ・緑化資材メーカー、ゼネコン、ハウスメーカー、造園施工会社等 ・名古屋商工会議所 ・中部経済連合会 ・グレイター・ナゴヤ・イニシアティブ ・科学技術交流センター ・JFCC ナノテクセンター ・県内市町村 ・各種学校 ・技能五輪事務局 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加該当団体への呼びかけ ・出展公募 等
体験づくり	各エリア及び既存施設単位で参加者が花や緑を身近に感じることのできる体験プログラムを展開 講座や教室、自然観察会、体験ツアー、食体験等を含む。	第1楽章 第2楽章 第3楽章 第4楽章 のいずれか	<ul style="list-style-type: none"> ・公園マネジメント会議 ・モリコロパーク里山開拓団 ・花ボランティア ・愛知県都市整備協会 ・特定非営利活動法人もりの学舎 自然学校等、愛・地球博記念公園既存施設関連団体 ・愛知万博関連NPO ・COP10 関連NPO ・スポーツ関連NPO ・福祉関係団体 ・緑・花関連 NPO ・オープンガーデナー ・花・緑関連団体 ・花卉生産者組合 ・農業団体 ・森林組合 ・各種企業 ・芸術系大学及び専門学校 ・各種学校 ・県内市町村 ・カルチャースクール ・各種文化団体 ・郷土史家 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加該当団体への呼びかけ ・企画提案公募 等
ものづくり	各エリア及び既存施設単位でものづくりの協働・参加型の催事を展開 講座や教室、アート体験、ファッションショー等を含む			
思い出づくり	各エリア及び既存施設単位であいちフェアでの一体感を味わう思い出づくりにつながるプログラムに関わる協働・参加型の催事を展開 コンサートやスポーツ大会等も含む。			

③ 平日催事

- ・高齢者や各種学校、企業研修、海外研修等、平日の方が参加しやすい団体層をターゲットとした行催事を展開し、これら団体を招待しうる講座や教室等のプログラムを中心とした行催事を検討する。
- ・また、平日はプログラムを実施するための体制が整いづらいことが想定されることから、学校向けの環境教育プログラムとして、事業化を図る団体やNPO等のメンバーが講師役となり、そのアシスタント役として、企業ボランティアや学生ボランティアが担当するなど、予算や人材の確保を検討する。

平日催事

- ・あいちフェアの場を学校の環境学習や体験教室、企業研修や学生のボランティア体験・ゼミ研修の場として活用してもらうことを目指し、検討する。

表 -18 平日催事の実施例

テーマ	行催事の内容例	展開楽章	協働参加者例	協働の仕掛け	
舞台づくり	・壁面緑化や花壇の作り方等の講習会、ガイドツアー（運営）等	第1楽章 第2楽章 第3楽章 第4楽章 のいずれか	・展示に関わる企業、市町村、学校 ・ガイドボランティア等	・該当団体への呼びかけ等	
体験づくり	・各種既存の教室等をもとにしたあいちフェア仕様の花や緑の体験プログラム等 例：ハンギングバスケット、寄せ植え、生け花、盆栽、山野草、庭づくり、生垣づくり、花育、園芸相談等		・公園マネジメント会議 ・モリコロパーク里山開拓団 ・花ボランティア ・愛知県都市整備協会 ・特定非営利活動法人もりの学舎自然学校等、愛・地球博記念公園既存施設関連団体 ・愛知万博関連NPO ・COP10関連NPO ・スポーツ関連NPO ・福祉関係団体 ・緑・花関連NPO ・芸術系大学及び専門学校 ・カルチャースクール ・県内市町村 ・各種学校 ・老人会 ・文化団体等 等	・参加該当団体への呼びかけ ・企画提案公募等	
ものづくり	・各種既存の教室等をもとにしたあいちフェア仕様のものづくりの体験プログラム等 例：木工、絵手紙、木の実細工、草木染め、押し花アート、おがくずアート、リサイクルアート、蜜ろうキャンドル等				
思い出づくり	・各種既存の教室等をもとにしたあいちフェア仕様の思い出作りの体験プログラム等 例：スポーツ、健康づくり、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、世界との交流（民族舞踊・民族音楽等）等				

(2) 持込み協働型行催事

- ・愛・地球博記念公園では、例年(平成 23~24 年)フェア期間中の 9 月~11 月の間に、公園を活用したレクリエーション活動として、12 のイベントが実施されている。
- ・持込み協働型行催事は、この既存イベントや、あいちフェア期間中の自主開催等を条件とした公募イベント等によって構成することを検討する。
- ・イベントは開催時期の調整、緑や花の装飾の使用、あいちフェアのテーマとの関連性等の一定条件のもとで、あいちフェアのシンボルマーク、マスコットキャラクターやロゴタイプ等の使用を許可するタイアップを検討する。

既存イベント

- ・愛・地球博記念公園の既存イベントは、基本的にあいちフェア期間中も実施を受け入れ、実行委員会が、主催者行催事、企画協働型行催事との調整を行うものとする。

公募イベント

- ・あいちフェア期間中の公募イベントとして、これまでの開催実績のあるものを中心に、フェアを盛り上げるコンサートなど、事業者等による持ち込み企画イベントの募集を検討する。
- ・フェア期間外に行われている既存イベントについても、フェアの内容に合うイベントについては開催時期の調整等を検討する。
- ・公募イベントは、公園のレクリエーション機能の向上や、公園利用者へのサービス向上につながる内容のものであれば、イベントにより事業者が収益を得るものも含むことを検討とする。

発表の場としての提供

- ・各種団体の会員向けイベントの実施や、愛好会や老人会等のステージ発表の場としての愛・地球博記念公園の利用は、平日を中心に受け入れることを検討する。

(3) 公園内の既存施設の行催事との連携

- ・現在、愛・地球博記念公園では「もりの学舎」や「児童総合センター」等でも定期的に様々な行催事が行われている。
- ・これら既存施設での行催事をあいちフェアと連携して開催することを、関係者と調整の上、検討する。

3 . 屋内での展示展開

・既存の屋内の環境をいかした展示を検討する。

3-1. あいちの花の展示

・花の生産日本一である愛知県の花と緑を PR する展示を検討する。

表 -19 展示コンテンツと展開イメージ

実施例	展開イメージ	整備主体
あいちの花の 屋内展示	<ul style="list-style-type: none">・花生産日本一の県として、鉢植え、観葉植物、切花等の展示・愛知の産物である和紙や布等を利用した演出・品評会の開催(鉢物、ラン、観葉、切花)・バックヤードの確保・花育教室の展開	主催者 花団体 企業 等



あいち花の屋内展示

3-2. 環境に係る展示

- ・「自然の叡智」をテーマとして開催された愛知万博から10年、環境技術や環境活動に係る展示を検討する。

表 -20 展示コンテンツと展開イメージ

実施例	展開イメージ	整備主体
環境に係る展示	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオミクリー※展示(常設展示と企画展示(動物、鳥、昆虫、植物、微生物の切り口)で展開) ・芸術性が高い技術の展示 ・環境活動に関する展示 	企業 大学 アーティスト NPO 等

バイオミクリー:生物の機能を模倣することで、新しい技術を生み出す学問のこと

3-3. 愛知万博に係る展示

- ・既存の愛・地球博記念館等を活用して、愛知万博の思い出や展示を検討する。

表 -21 展示コンテンツと展開イメージ

実施例	展開イメージ	整備主体
愛・地球博記念館	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博の思い出写真やコンテンツなど、展示物の補填、充実 ・愛知万博に関する持込展示 	公園管理者 企業 大学 アーティスト NPO 等



4 . 行催事における協働の展開

- ・あいちフェアの行催事・展示基本計画は、これまで述べた通り、実行委員会と多様な主体が関わりを持ちながら、あいちフェアの行催事・展示の展開を検討する。
- ・また、行催事への来場者の参加を促進するため、EXPOエコマナー等と協働し、あいちフェアの行催事に参加することが楽しくなるような共通アイテム(参加ポイントをためる等)を検討する。また、このアイテムをリニモ(公共交通機関)の利用促進策につなげる等の観客誘致策との連携を検討する。

5 . 事業スケジュールの検討

- ・行催事・展示に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表 -22 行催事事業スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	・行催事の実施計画の策定 等
平成26年度	・行催事の実施運営(準備) ・屋内展示の実施設計 等
平成27年度	・行催事の実施運営 ・屋内展示制作・運営業務 ・フェア終了後の撤去 等

6 . スケッチ

6-1. あいちの花の展示



会場整備基本計画
(空間のデザイン)

1. 会場整備の基本的方向性

1-1. メイン会場となる愛・地球博記念公園の現状と基本構想からの修正課題

(1) 愛・地球博記念公園の概要

1) 場所

・愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1

2) 公園種別

・広域公園

3) 面積

・都市計画公園面積 194.2ha

・供用面積 149.1ha(平成 25 年 11 月 30 日現在)

4) 法規制

・都市計画法 市街化調整区域

・都市計画法 事業認可区域

・砂防法 砂防指定地

・宅地造成工事等規制法 宅地造成工事規制区域

・森林法 地域森林計画対象民有林(一部)

・防火地域 指定なし

・建築基準法第 22 条区域内(建築物の屋根など不燃材料使用)

5) 既存建築物(地球市民交流センターH22 まで)

・建築物の数 95

・建築面積 41310.94m²

・建蔽率 2.03%(敷地 1942249.79m²)

・延べ面積 47929.45m²

・容積率 2.47%(敷地 1942249.79m²)

(2) 愛・地球博記念公園の歴史

表V-1 愛・地球博記念公園の歴史(各施設は開設年度を示す)

1970年(昭和45年)	愛知青少年公園開園(11月1日)
1981年(昭和56年)	国際児童年記念館(7月4日)
1994年(平成6年)	温水プール・アイススケート場(11月16日)
1996年(平成8年)	児童総合センター(7月24日)
2000年(平成12年)	博覧会会場として決定
2002年(平成14年)	閉園(4月1日) 広域公園として都市計画決定(9月27日)
2005年(平成17年)	国際博覧会「愛知万博」開催(3月25日～9月25日)
2006年(平成18年)	愛・地球博記念公園 第1期開園(7月15日)
2007年(平成19年)	愛・地球博記念公園 第2期開園(3月25日)
2007年(平成19年)	愛・地球博記念公園 追加開園(10月1日)
2008年(平成20年)	愛・地球博記念公園 追加開園(4・5月)

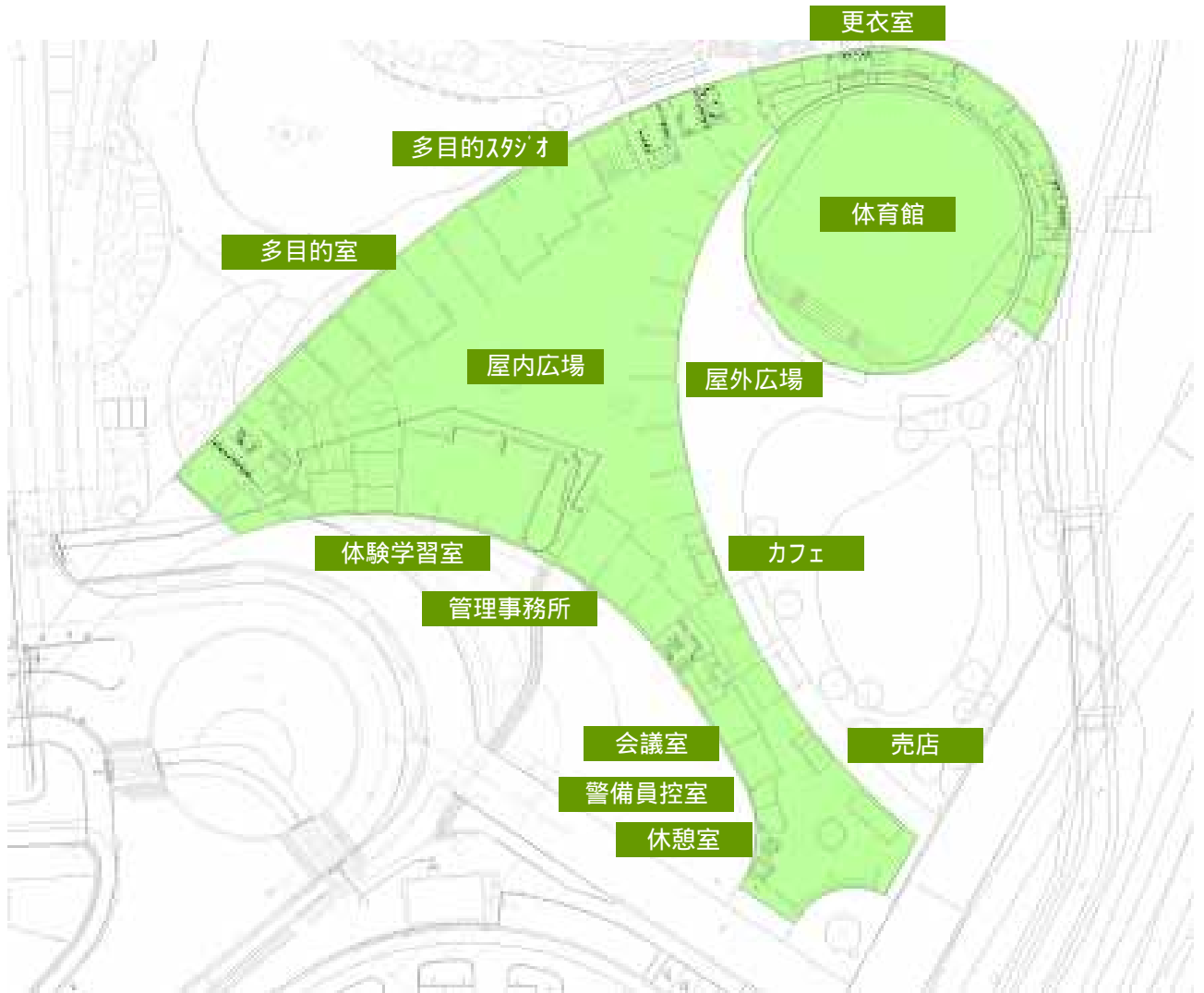
(3) 愛・地球博記念公園の現況

- ・愛・地球博記念公園の計画図は、以下の通りである。
- ・愛知万博で整備された施設が残り、万博 10 周年記念となるあいちフェアでは、その連携に十分配慮する必要がある。
- ・公園のエントランスは、愛・地球博記念公園と駐車場がある北口と、駐車場のある西口がある。多客日には西口からの来園者の入場も多い状況である。

愛・地球博記念公園 基本計画図



図 V-1 愛・地球博記念公園平面図



図V-2 地球市民交流センター平面図

(4) 愛・地球博記念公園の整備計画

- ・あいちフェア開催前に、大芝生広場に大規模なコンサートが可能なステージが整備される予定である。
- ・あいちフェアの施設整備、花壇整備との調整を十分図る必要がある。
- ・リニモの公園西駅からのアクセス動線が改善され、愛知県児童総合センターやこどものひろば等へのアクセス性が良好となる。あいちフェアのアクセス動線として配慮する必要がある。

(5) 基本構想の修正課題

まちのエリアの機能を分散配置

- ・基本構想のまちのエリア内の北東部には、ステージが整備される予定である。これにより、まちのエリアの半分以上がステージと観客スペースとなり、残る利用できる区域は大芝生広場の人工芝のエリアだけとなる。そのため、まちのエリアで展開していた機能を公園内に分散する必要がある。

多客に対応できる動線の見直し

- ・大芝生広場へのアクセスは、大多数の来園者がエレベーターを利用している。エレベーター（2機）の輸送能力は限られ、あいちフェア開催中の多客に対応できない。そのため、主動線の形態を見直し、あいちフェアの多客に対応できる動線を検討する必要がある。

西口方面からの入場者に対する修景

- ・あいちフェアの開催時には、臨時駐車場の整備も行うため、西口からの入場も多くなることが考えられる。そのため、西口からの入場者に対してもエントランス部からあいちフェアの雰囲気を感じられる修景を検討する必要がある。

1-2. 会場づくりの基本的な考え方

(1) 会場ゾーニングの考え方

回遊性のあるループ状の既存園路沿いに、愛知万博のようにエリアを配置

- ・愛知万博では、丘陵に刻まれた谷の地形に対応して、グローバルループ(約 2.3km)とコモンの構成により、会場の骨格が形成された。
- ・愛知万博の思い出を大切にしたいあいちフェアとするためには、愛知万博で親しまれた骨格形状を踏襲することが望ましい。
- ・愛知万博の土地利用を踏襲し、計画地の谷と丘陵部に応じて配置された施設分布と、新たにループ状に整備された回遊性のある既存園路は、愛知万博で親しまれた回遊性のある骨格に近い形態である。
- ・そのため、あいちフェアでは、回遊性のある園路沿いにクラスター状にエリアが分布する骨格構成とする。
- ・この骨格構成により、あいちフェアの多客に対応できる。
- ・ループ状の既存園路は、約 1.8kmの距離があり、来園者の利便性を考慮し、愛知万博のような補助的な輸送手段(グローバル ترام・自転車タクシー)の導入を検討する。

表V-2 愛知万博時の歩車共存の輸送システム

歩車共存の乗り物	速度	料金
グローバル ترام	5km/時	大人子供 500 円
自転車タクシー	5km/時	大人 300 円 子供 200 円

- ・エントランスとしては、公共交通機関であるリニモの愛・地球博記念公園駅、公園西駅、及び既存駐車場の配置を踏まえ、北エントランス(愛・地球博記念公園駅・北駐車場)、西エントランス(西駐車場、南駐車場)の2つをメインエントランスとする。
- ・サブエントランスとして新設される公園西駅エントランス(仮称)(公園西駅付近)とする。

表V-3 エントランスの構成

エントランス名	場所	主要な園外交通
北エントランス	リニモ 愛・地球博記念公園駅 周辺	リニモ 北駐車場 臨時駐車場 バス(シャトル)
西エントランス	西駐車場周辺	西駐車場 南駐車場 臨時駐車場
公園西駅エントランス(仮称)	リニモ西公園駅周辺	リニモ

愛・地球博記念館や花の広場など、万博や花に関係する既存施設を活用

- ・愛知万博に関わる既存施設や花に関わる施設等の既存施設を活用する。
- ・整備するエリアは、既存のループ園路及びそこにクラスター状に分布するエリアとする。
- ・周辺の公園施設は、大々的な整備は行わないが、催事等の場として活用する。

各エリアでは、愛知の風土や自然環境を感じさせる演出

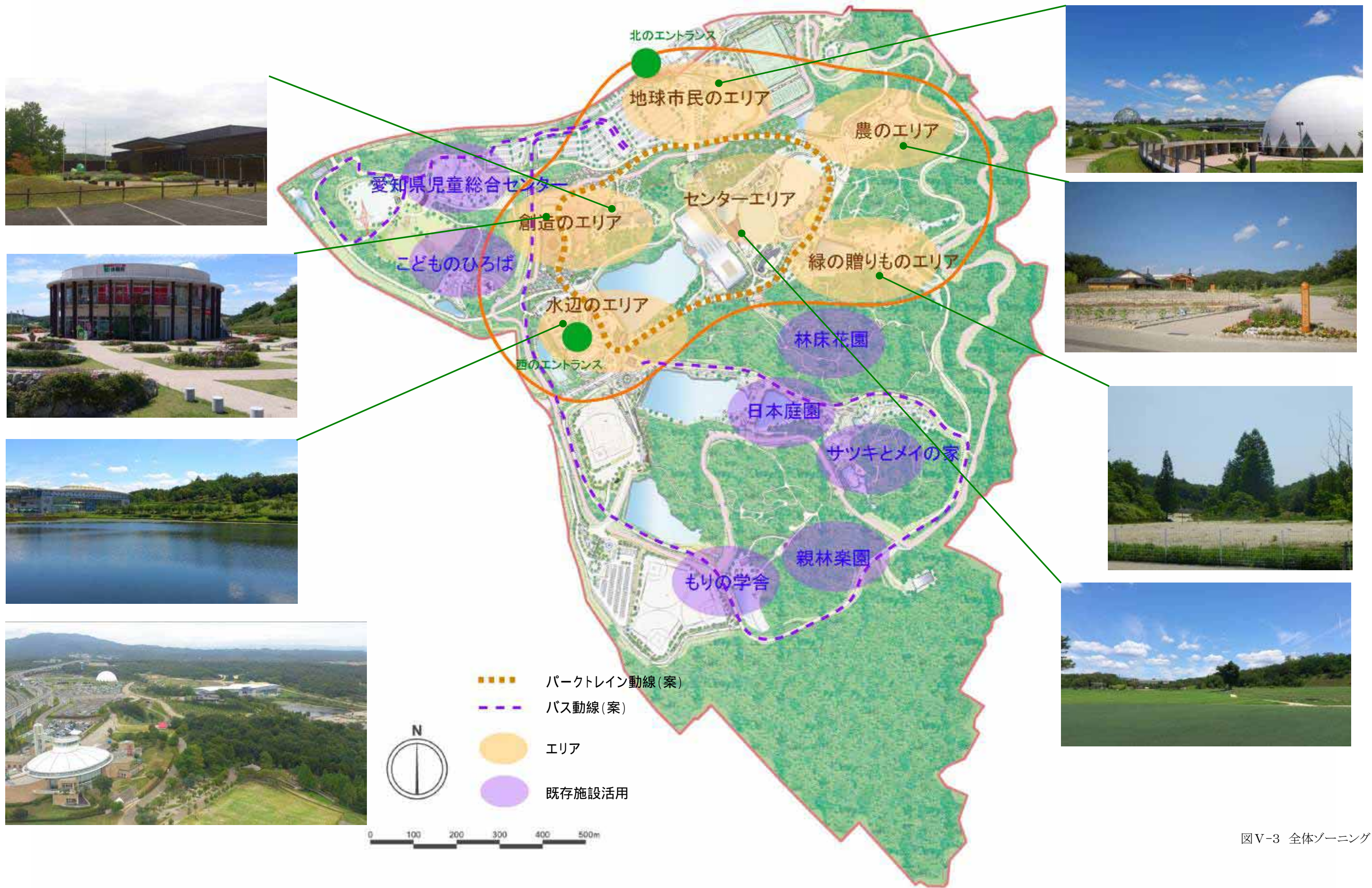
- ・フェアに合わせて整備する各エリアは、愛知の風土や自然環境の特徴を感じさせる演出等を考慮する。

(2) エリアのゾーニング

- 基本構想の「学びのエリア」「里の体感エリア」「緑の劇場エリア」は、基本計画でもゾーニングを踏襲する。
- 「里の体感エリア」では、里山を含めた整備展開が示されていたが、既存の里山において、自然環境を保全しながら、適切なコスト投資でバリアフリーの整備を行うことが難しいため、整備エリアとしては含まない。
- 「まちのエリア」は、新設ステージの活用を十分に図ること及び休憩スペースの確保等を優先する。そのため、基本構想時の展開イメージに提示されていた内容の一部を、こいの池周辺に「水辺のエリア」、花の広場周辺に「創造のエリア」を設ける。これは、ループ状の既存園路の回遊性を高める効果もある。

表V-4 基本構想と基本計画のゾーニングの関連

基本構想		基本計画
学びのエリア	講習会や教室等の催事 「緑」や「環境」の展示 シンポジウム等	地球市民のエリア
里の体感エリア	里地の活動空間を利用した催事や里の風景に馴染む展示 里山林内を使用した多様な主体による展示や催事	農のエリア
緑の劇場エリア	質の高い「緑」の演出や「緑」と異分野のコラボレーション等 「緑」	緑の贈りものエリア
まちのエリア	多彩な「緑」が展開する「緑のまち」 飲食物販サービスの提供	センターエリア
		水辺のエリア
		創造のエリア



図V-3 全体ゾーニング

3) エリアの展開方針

・各エリアでは、以下のような展開を図る。

表 V-5 エリアの展開方針

エリア	展開方針
地球市民のエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外の催事や展示を展開 ・環境、花等様々なテーマによる催事展開 ・エントランスとしての景の演出 ・運営本部機能を設置 <p style="text-align: right;">等</p>
農のエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知の農、自然を魅せる展示の展開 ・愛知の農に関する催事の展開 <p style="text-align: right;">等</p>
緑の贈りものエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・自然への想いを込めた、こども達への贈りものとなる庭を展開 <p style="text-align: right;">等</p>
水辺のエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・他県、政令市等による出展の庭を展開 ・企業、団体による出展の庭を展開 ・エントランスとしての景の演出 <p style="text-align: right;">等</p>
創造のエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・未来の創造の庭を展開 ・学生による出展催事を展開 <p style="text-align: right;">等</p>
センターエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ催事の展開 ・休憩飲食の拠点として展開 ・あいちの花の展示即売等の展開 <p style="text-align: right;">等</p>

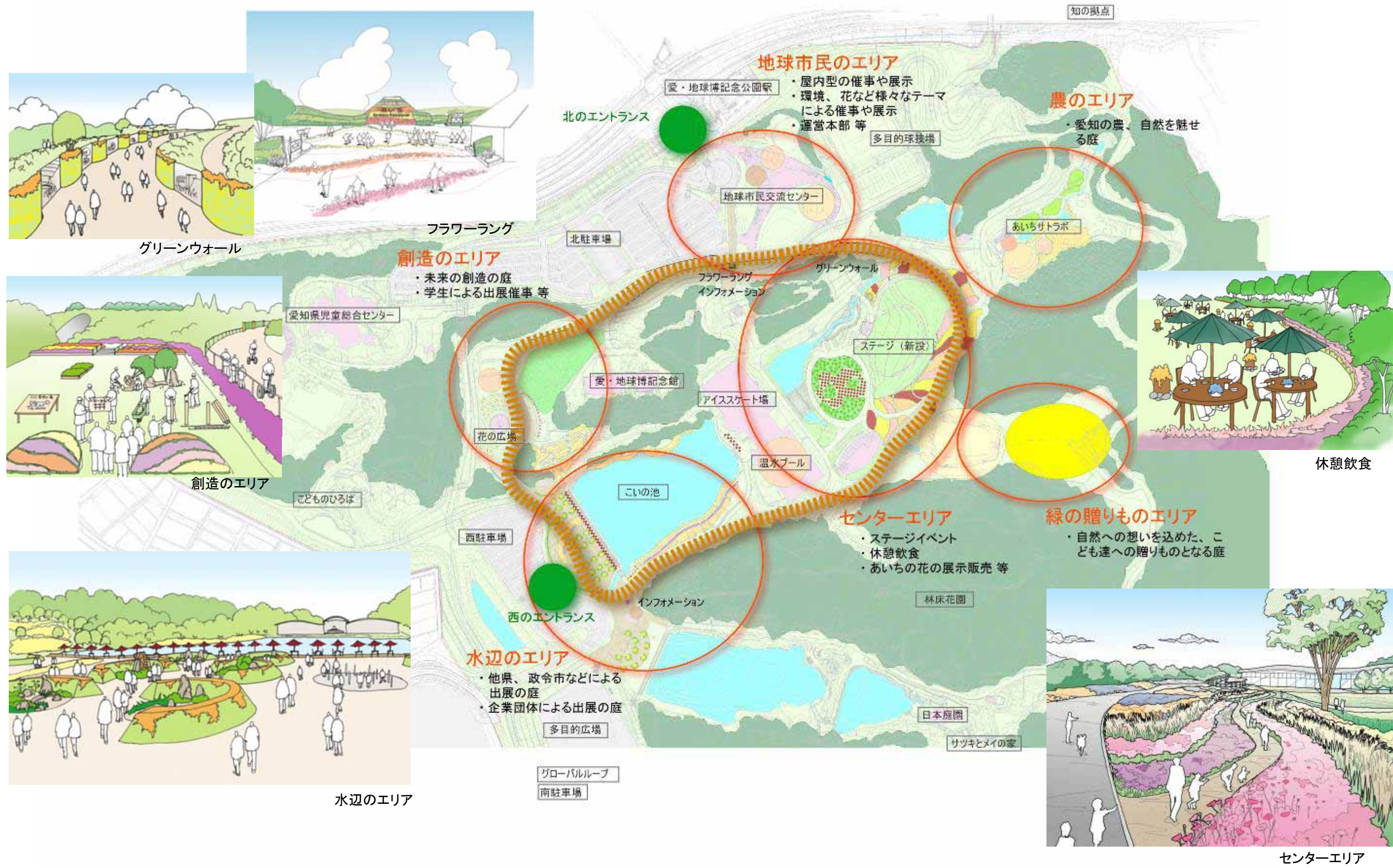


図 -4 エリアゾーニング

(4)トータルデザインのためのキーワード設定

1) エリアの整備キーワード

- ・各エリアにおいて、景観及びソフト展開など空間の統一性を図ることで、エリアの独自性を演出し、来園者が次々と移り変わるエリアを楽しみながら、回遊することを目的として、整備キーワードを設定する。
- ・愛知万博では、森の精であるモリゾー、キッコロがキャラクターとなった。キッコロには仲間として、自然の要素の精として、カラーキッコロが生まれた。「あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～」をストーリーとするあいちフェアでは、カラーキッコロの内、花や緑等の植物が生育するために必要な環境に関連が深い精を整備キーワードとし、空間のデザインに取り込む。
- ・植物が生育するためには、土、水、光、養分が必要となる。自然界における養分の供給は、落葉等がさまざまな土壌動物や微生物類の働きによって腐らされ、土壌を豊かに育む。
- ・そのため、カラーキッコロの内、茶色(土)、緑色+オレンジ(木の実と葉)、黄色(光)、水色(水)を、各エリアの整備キーワードとして設定する。

表 -6 カラーキッコロと植物の関係

カラーキッコロの色	精の分類	植物の生育との関係
ピンク	花	子孫を残すための手段
茶色	土	土中に根を張り、養分や水分、空気等を吸収
オレンジ	木の実	子孫を残すための手段
緑色	木の葉	光合成を行い、光エネルギーを化学エネルギーに変換 落葉後は、分解され養分に変化
黄色	光	光合成を行うためのエネルギー
水色	水	植物の細胞(原形質)の主要素 水と二酸化炭素から光合成して酸素を放出
紫色	鉱物	—

花は、会場全域で展開するため、整備キーワードとして特定のエリアでは採用しない。

- 各エリアの現況の自然環境や地形、活動内容等のポテンシャルと照らし合わせ、エリアごとに以下のキーワードを設定する。

表 -7 エリアの整備キーワードと愛知の特色

エリア	整備キーワードと各エリアの現況ポテンシャル	整備キーワード
農のエリア	「あいちサトラボ」として土づくりから農を展開	土
緑の贈りものエリア	日の出、日の入りの東西方向に伸びる谷	光
水辺のエリア	会場内で最大の水辺である「こいの池」	水
創造のエリア	ハナモモの列植等の樹木が印象的な空間	木

- 「地球市民のエリア」は、各エリア内で最も高い場所で、空が印象的に見える場となる。愛知万博では地球大交流をコンセプトに、世界中の地球市民が交流した。この理念と成果を継承し発展する核となる地球市民交流センターが市民参加、交流活動の拠点となっている場でもある。あいちフェアでも、地球市民の活躍を期待し、世界中をつないでいる「空」を整備キーワードとする。

- 「センターエリア」は、会場内で最も広い空間となり、休憩や飲食、ステージを利用した催事等を行う場となる。残暑が残る9月からの会期に、多くの来園者が憩い、活動する空間の中で、爽やかな風を感じる心地よい環境を創出することを目指し、整備キーワードを「風」とする。

表 -8 エリアの整備キーワード

エリア	整備キーワード	意図
地球市民のエリア	空	最も高台で、空が印象的に見える場 世界とつながる空のもと、地球市民が活躍
センターエリア	風	憩いと活動の場に爽やかな風を感じる心地よい環境を創出

2. エリアの整備方針

2-1. 地球市民のエリア

(1) デザインの展開について

- ・愛知万博は、「地球大交流」を合言葉に、人類が直面する地球的課題解決に貢献するという使命を負って開催された国際博覧会であった。2010年の地球市民交流センターのオープンに際し、愛知万博を経験した地球市民により、「私たちひとりひとりが地球市民として、立場、考え方、世代、地域や国を超えて、連携、連帯し、持続可能な社会をつくるための多様な交流と学びの場を創る」という「地球市民宣言」が行われた。
- ・二酸化炭素の排出量抑制は、地球的課題のひとつである。吸収源としての緑や、モノづくり大国愛知の技術は、課題解決に向けた希望となっている。
- ・地球市民のエリアでは、世界とつながる空を整備キーワードとして、デザインを展開を検討する。
- ・世界とつながっている空の広さや美しさを体感できる景観づくりを検討する。

表 -9 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
空	「おいしい空気をいつまでも」	空の広さ、美しさを演出	花や環境技術の展示、環境学習の展開拠点
		<ul style="list-style-type: none"> ・北エントランスからの空を印象的に見せる演出 ・空の景が美しい地球市民交流センターの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・花、バイオミクリー展示や芸術と技術の展示 ・エコライフにつながる環境学習の展開

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -10 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
フラワー ラング	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博のバイオラングの進化形として花による緑化壁展開 ・エントランスから空を感じるよう、空に伸びる形態 	10m×6m×6m	主催者 等
アート ウォール	<ul style="list-style-type: none"> ・万博の思い出写真、絵画、書等による、花と緑に関連した壁面展示 ・「空」→「土」と「空」→「木」では、エリアのテーマを踏まえた異なる展開 ・会場の全景や駐車場等を遮蔽し、ループ園路を回遊することで生まれる景のシークエンスを感動的に演出する効果を付加 ・企業広告を募集 	高さ2m程度	主催者 企業 等
グリーン ウォール	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーラング周辺等において、花を利用した緑化壁展示 ・コンテスト方式、展示形式等を今後検討 	高さ2m程度	主催者 企業 等

(3) 催事関係施設(案)

表 -11 催事関係施設と展開イメージ

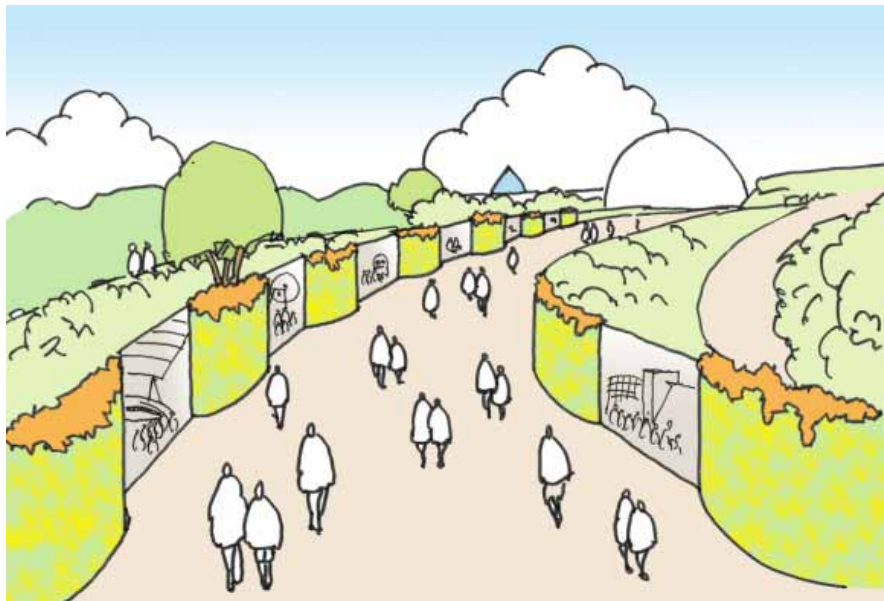
名称	展開イメージ	規模	整備主体
愛知万博の 足跡展示	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博からの取り組みの成果の発表展示(屋内型) ・地球市民交流センターの半屋外空間等を使用 	30m ² ×5ブース 程度	NPO 等
体験教室	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的室1~4を利用 ・あいちフェアでの体験プログラムを提供 	66m ² 85m ² 92m ² 99m ²	主催者、NPO、 企業、学校 等

(4)管理運営・営業施設

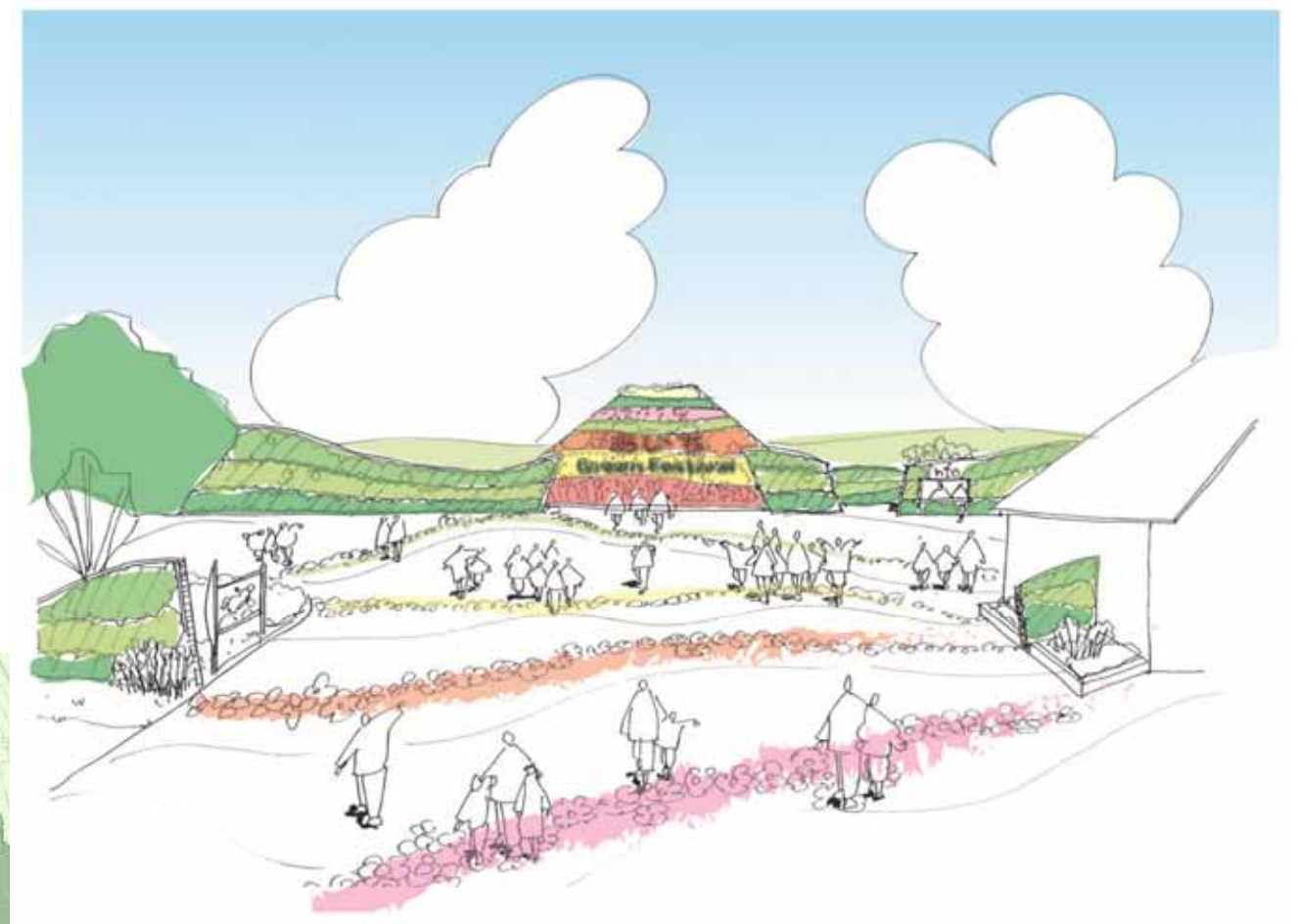
表 -12 管理運営・営業施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
事務局運営本部	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民交流センター内体験学習室を利用(※1) ・40人程度の執務スペース ・放送設備は、既存の放送設備利用 	380m ² : 体験学習室面積	主催者等
医務室	<ul style="list-style-type: none"> ・急病や怪我等に対応 ・地球市民交流センター内会議室を利用(救急車への搬入、トイレの近さに配慮) 	20m ² 程度	主催者等
ボランティア控え室	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館更衣室、体験学習室(運営本部との供用)、花の広場休憩室等を利用 ・ボランティア人数に応じて、適宜スペース確保 ・ロッカーなど貴重品管理に配慮 	—	主催者等
迷子・レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・総合案内所を利用(公園案内と兼用) ・車いす、乳母車のレンタル、迷子の案内 	100m ² : 総合案内所面積	主催者等
警備関係控え室	<ul style="list-style-type: none"> ・警備員室、休憩室を利用 ・警備関係者の控え室 	40m ² : 警備員室、休憩室面積	主催者等
インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ループ園路沿いに整備 ・あいちフェアの案内 	30m ² 程度	主催者等
テイクアウト飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・食の広場周辺に配置 	30m ² 程度	主催者 営業者等
既存物販	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の物販施設を利用 	—	公園管理者
一般物販	<ul style="list-style-type: none"> ・食の広場周辺に配置 ・万博関連グッズやフェアグッズを販売 	30m ² 程度	主催者 営業者
緑花物販	<ul style="list-style-type: none"> ・食の広場周辺に配置 ・切花や鉢花、観葉植物等を販売 	50m ² 程度	主催者 営業者

1 運営本部及びボランティア控え室については、地球市民交流センターの体験学習室が、行催事等の利用を見込める場合は、別途、設置することを検討する。



グリーンウォール
アートウォール



フラワーラング



図 -5 地球市民エリア展開イメージ

2-2. 農のエリア

(1) デザインの展開について

- ・あいちサトラボでは、「あいちサトラボ里山開拓団」が、農の営み、先人の知恵、自然の循環をキーワードにして、土づくりから里地里山を育成している。
- ・愛知県では、温暖な気候や豊かな水に恵まれ、古くから農業が盛んで、花以外でも、キャベツ、ふき、大葉、いちじく等が日本一の生産量を誇っている。
- ・農のエリアでは、土を整備キーワードとして、昔から育まれてきた愛知の農、自然景観や文化景観を演出することを検討する。
- ・その景観づくりを通して、「大地が恵む、実りへの感謝」という、農業が盛んな愛知の自然風土への感謝や県内農産物の素晴らしさを伝えるメッセージを発信することを検討する。

表 -13 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
土	「大地が恵む、実りへの感謝」	昔から育まれてきた農風景	愛知の農の素晴らしさや自然の美しさを伝える展示
		<ul style="list-style-type: none"> ・あいちサトラボの農風景を基盤にした農風景を演出 ・愛知の自然の美しさを伝える演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちサトラボにおける土づくり活動 ・自然の恵みへの感謝を表す祭りの展開 ・循環型農業や大切にされてきた自然風景の展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -14 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
実りの秋修景	<ul style="list-style-type: none"> ・サトラボの田んぼ沿い、畑沿いの修景 ・あぜ道の彼岸花等による農風景演出 ・秋の七草等の農風景の演出 	—	NPO 等

(3) 催事関係施設(案)

表 -15 催事関係施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
祭りの広場	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地の村祭りの催しを展開 ・お祭りの出店等を展開 ・愛知の自然風景の PR ・各地の村祭りの PR ・市町村や農業団体による愛知の野菜や穀物など、産物の PR 	2000m ² 程度	市町村 農業団体 等
農家の庭先展示	<ul style="list-style-type: none"> ・高度成長期前の昭和 30 年代の循環型農業が展開されていた頃を展示 ・むしろを引いて大豆たたきや、庭先の牛等の農の光景を展示 ・竹馬や竹とんぼなど、自然資源を活かした昔の遊びの展開 	200m ² 程度	NPO 等
あいちサトラボ活動の足跡展示	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博からの取り組みの成果の発表展示(屋外型) ・竹を利用した展示用雨よけをみんなで作成 	—	NPO 等

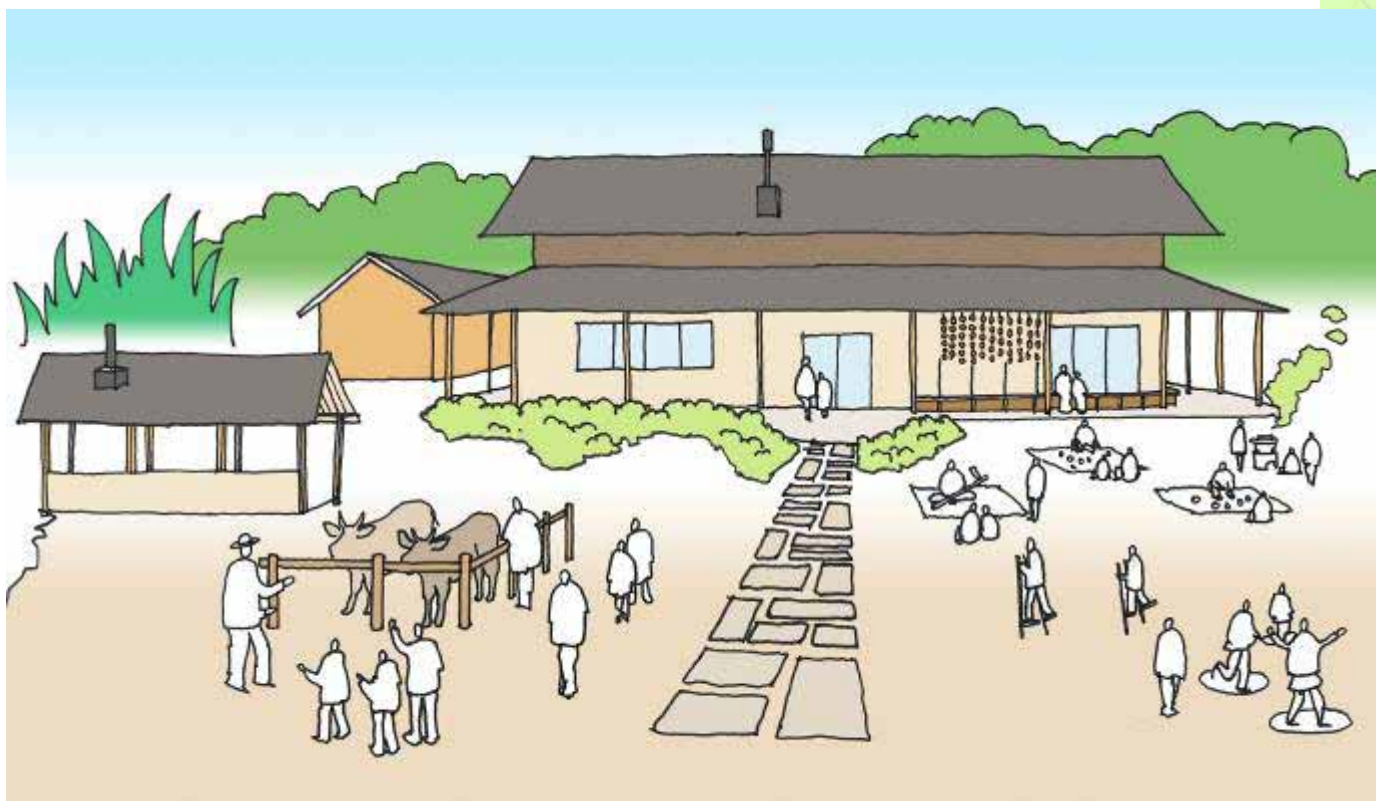
(4)管理運営・営業施設(案)

表 -16 管理運営・営業施設と展開イメージ

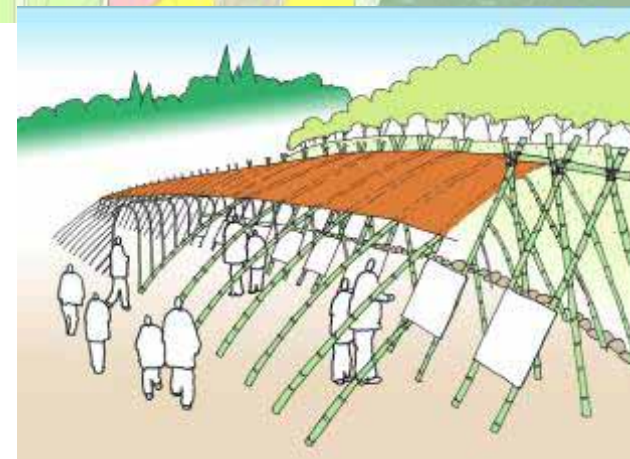
名称	展開イメージ	規模	整備主体
トイレ	・祭りの広場周辺に配置 ・トイレの配置密度が低いため、仮設整備	40m ² 程度	主催者
テイクアウト飲食	・既存建築を利用	—	主催者 NPO 等
テイクアウト飲食	・祭りに合わせた各市町村等の農産物や 海産物の販売	—	市町村 等
一般物販	・既存建築を利用	—	主催者 NPO 等
緑花物販	・既存建築を利用 ・野菜の苗や種を販売	—	主催者 NPO 等



実りの秋の展示



農家の庭先展示



あいちサトラボの足跡展示



祭りの広場

図 -6 農のエリア展開イメージ

2-3. 緑の贈りものエリア

(1) デザインの展開について

- ・光は、人間の目を刺激して明るさを感じさせるものである。そのスピードは速く、宇宙における最大速度であり、遠くまで瞬間的に明るさを伝えることができる。また、太陽光は地球上の生きものの多様な活動や進化を助け、地球上の人間を含めた生きものにとって欠くことができないものである。
- ・愛知万博から10年経過し、愛知万博の年に生まれた子ども達は10歳になった。あいちフェアは、愛知万博を体験した子ども達に限らず愛知万博を知らない子ども達にも、愛知万博で学んだ自然への想いを伝える大切な機会である。
- ・緑の贈りものエリアでは、遠くまで瞬時に届く光を整備キーワードとして、多くの子ども達に「私たちが照らす光、より遠くへ届け」という、愛知万博で享受できたような自然への想いが、再び感じられるようなメッセージを発信することを検討する。
- ・自然への想いを込めて自然の美しさを感じられる景観づくりを検討する。

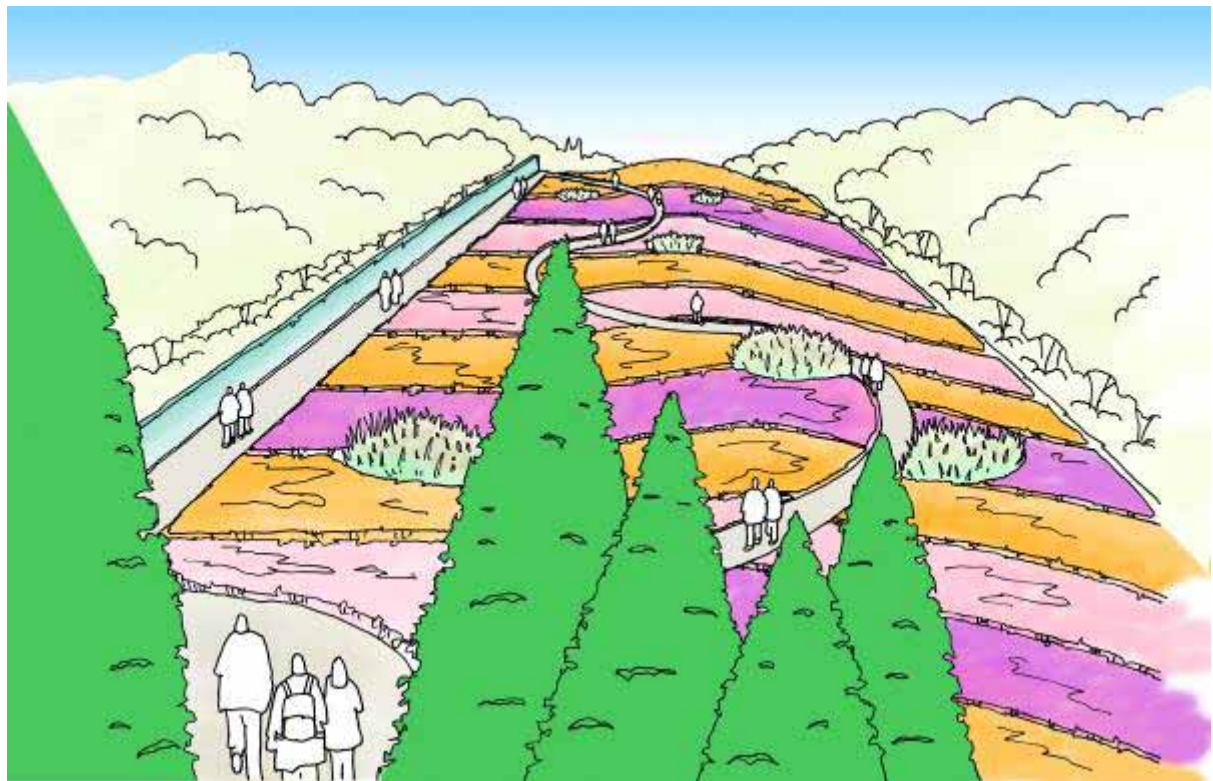
表 -17 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
光	「私たちが照らす光、より遠くへ届け」	光に照らされた自然の美しさを演出	子ども達に自然への想いを伝える展示
		・花や緑の美しさを演出	・子どもを主対象とした展示 ・愛知万博で受けた感動を再び感じられるような展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -18 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
子ども達への贈りものの庭	・交流により創造する、新しい価値観の庭	—	主催者等



子ども達への贈りものの庭

図 -7 緑の贈りものエリア展開イメージ

2-4. 水辺のエリア

(1) デザインの展開について

- ・愛知には、伊勢湾に流れ込む木曾川や庄内川、三河湾に注ぎ込む矢作川や豊川等の河川と海があるとともに、愛知用水や豊川用水等の用水路があり、暮らしの様々な場面で水の豊かさが感じられる地域である。
- ・水辺のエリアでは、水を整備キーワードとして、愛知の水の美しさを背景にした景観づくりを検討する。
- ・その景観づくりを通して、「豊かな水を未来へつなぐ」という、愛知県の豊かで美しい水環境が、健全な状態で未来へと引き継がれていくことを目指したメッセージを発信することを検討する。

表 -19 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
水	「豊かな水を未来へつなぐ」	水の豊かさ、美しさを表現	水を活かした多様な庭のスタイルを展示
		<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の植物演出でみずみずしさを演出 ・西エントランスからこいの池の景を印象的に演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の水にまつわる風景の展示 ・アートと一体となった水の風景を展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -20 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
花のカスケード	<ul style="list-style-type: none"> ・こいの池沿い散策路の壇上の既存地形を活用して、カスケード(壇上の滝)の水のように花が溢れる花壇を展示 ・企業の出展点数に応じて、企業の出展展示としても活用を検討 	—	主催者 企業 等
花しずく (都道府県・政令市)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地の自治体(都道府県、政令市)によるお国自慢の花と水の風景の庭 ・水面に水滴が落ちて生じる輪のような腰壁の中に、風景を濃縮 ・既存斜面花壇(動線形態や既存樹木による景の分断の改善)やこいの池との景観的連続性に配慮 	30m2 × 22 程度	都道府県 政令市 等
花しずく (企業)	<ul style="list-style-type: none"> ・花と緑を利用したアートの庭園 ・水面に水滴が落ちて生じる輪のような腰壁の中に、風景を濃縮 ・企業の緑化資材や庭園の出展 	30m2 × 10 程度	企業 等

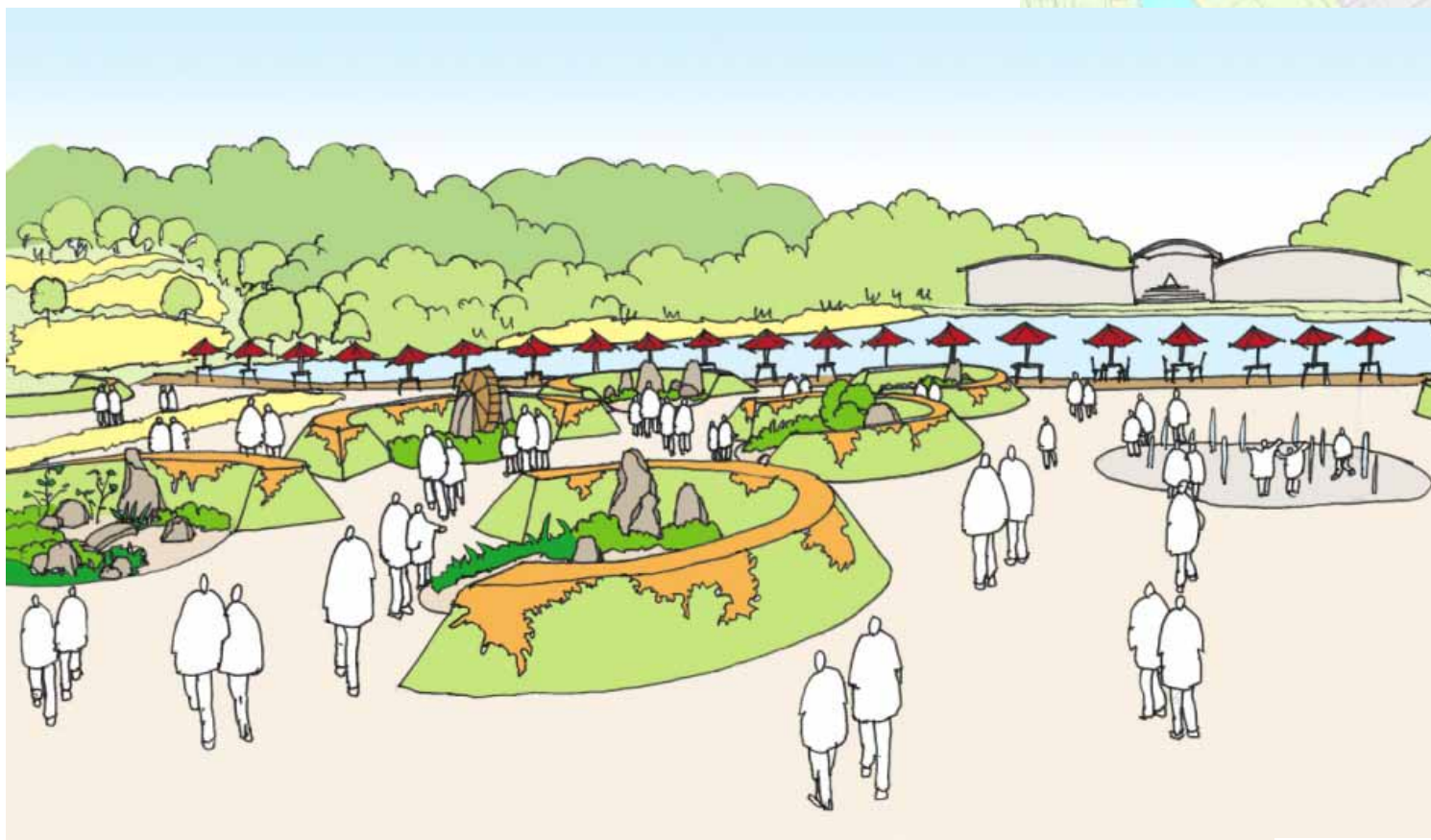
(3) 管理運営・営業施設(案)

表 -21 管理運営・営業施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
警察関係詰所	<ul style="list-style-type: none"> ・西口休憩所2階を利用 ・警察、警備、消防等の控室及び拠点 	60m2 程度	主催者
レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・西口休憩所1階を利用(公園案内と兼用) ・車いす、乳母車のレンタル 	100m2 程度	主催者
インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ループ園路沿いに整備 ・あいちフェアの案内 	30m2 程度	主催者
テイクアウト飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・西エントランス広場周辺に配置 ・水辺のデッキ周辺に休憩飲食用パラソルの設置 	30m2 程度	主催者 営業者 等
一般物販	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちアーツスクエア周辺に配置 ・万博関連グッズやフェアグッズを販売 	30m2 程度	主催者 営業者 等
緑花物販	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちアーツスクエア周辺に配置 ・切花や鉢花、観葉植物等を販売 	50m2 程度	主催者 営業者 等



水のカスケード



花しずく

図 -8 水辺のエリア展開イメージ

2-5. 創造のエリア

(1) デザインの展開について

- ・人間に比べ、「木」の寿命は、はるかに長い。今現在生育している木の多くは、我々よりも、はるか未来まで、愛知の姿を見続ける。
- ・海上の森に住む「森の精」であるモリゾー、キッコロは、縄文時代から愛知の森を見続け、未来の森の姿も見続ける存在である。
- ・創造のエリアでは、愛知の未来の花や緑、環境を提案、創造するエリアとして、未来まで愛知を見守る「木」を整備キーワードとする。
- ・「モリゾー、キッコロが住み続ける愛知を目指して」という、日常の生活空間の中に、様々な工夫により魅力的な花や緑の風景を増やし、緑豊かな愛知が想像されていくことを目指したメッセージを発信することを検討する。
- ・多くのモリゾー、キッコロが集う中で、多様な協働の創作活動により、徐々に花や緑が豊かになっていく景観づくりを検討する。
- ・勾配のある主園路を舞台に、パーソナルモビリティの乗車体験や、管理運営面での利用による未来の光景づくり等を検討する。

表 - 22 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
木	「モリゾー、キッコロが住み続ける愛知を目指して」	モリゾー、キッコロが集う中で未来を感じる風景や景の変化を演出	生活空間に花緑を増やす様々な工夫の展示
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生が活動している風景 ・たくさんのモリゾー、キッコロが到る所に点在する景を演出 ・未来の乗り物が花や緑の中に走る風景 	<ul style="list-style-type: none"> ・万博の思い出の展示 ・森づくり活動等の展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -23 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
未来の庭	・花や緑、環境の視点から未来を担う学生が、愛知の未来の庭づくりの提案を行う展示	30m ² ×5 程度	大学 高校 等
花の緑化壁	・愛知万博のバイオラングの進化形として花による緑化壁展開 ・住宅の玄関のエクステリアの壁やマンションのベランダ内壁面等の修景システムとしての提案 ・ビル外壁等の大規模建築への提案	幅 4m×20 区画 程度	企業 アーティスト等
モリゾーキッコロ 大集合	・ハナモモの整形庭園に、モリゾー、キッコロに形状の似た鉢を展示 ・フェアでの体験活動に参加して、ポイントが貯まるとモリゾー、キッコロの鉢植えがもらえ、街中へとモリゾー、キッコロが繰り出し、街が緑となっていく展示	約 5000 鉢程度	主催者 等
成長の庭 (大花壇・ 花の広場)	・ハンギングバスケットや寄せ植えの展示 ・参加活動によって、花修景が増加しどんどんと華やかになる展示 ・花ボランティアがこれまで大切に育ててきた花壇の花をボリュームアップした展示	—	花ボランティア NPO 等

(3) 催事関係施設(案)

表 -24 催事関係施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
未来の庭 作庭過程展示	・花や緑、環境の視点から未来を担う学生が、愛知の未来の庭づくりの提案を行う展示 ・庭を徐々につくりあげる工程を楽しめる展示 ・当初は図面やスケッチの展示から、工程を書き込み、来園者に期待を持たせながらイベント的に展開	30m ² ×5 程度	大学 高校 等

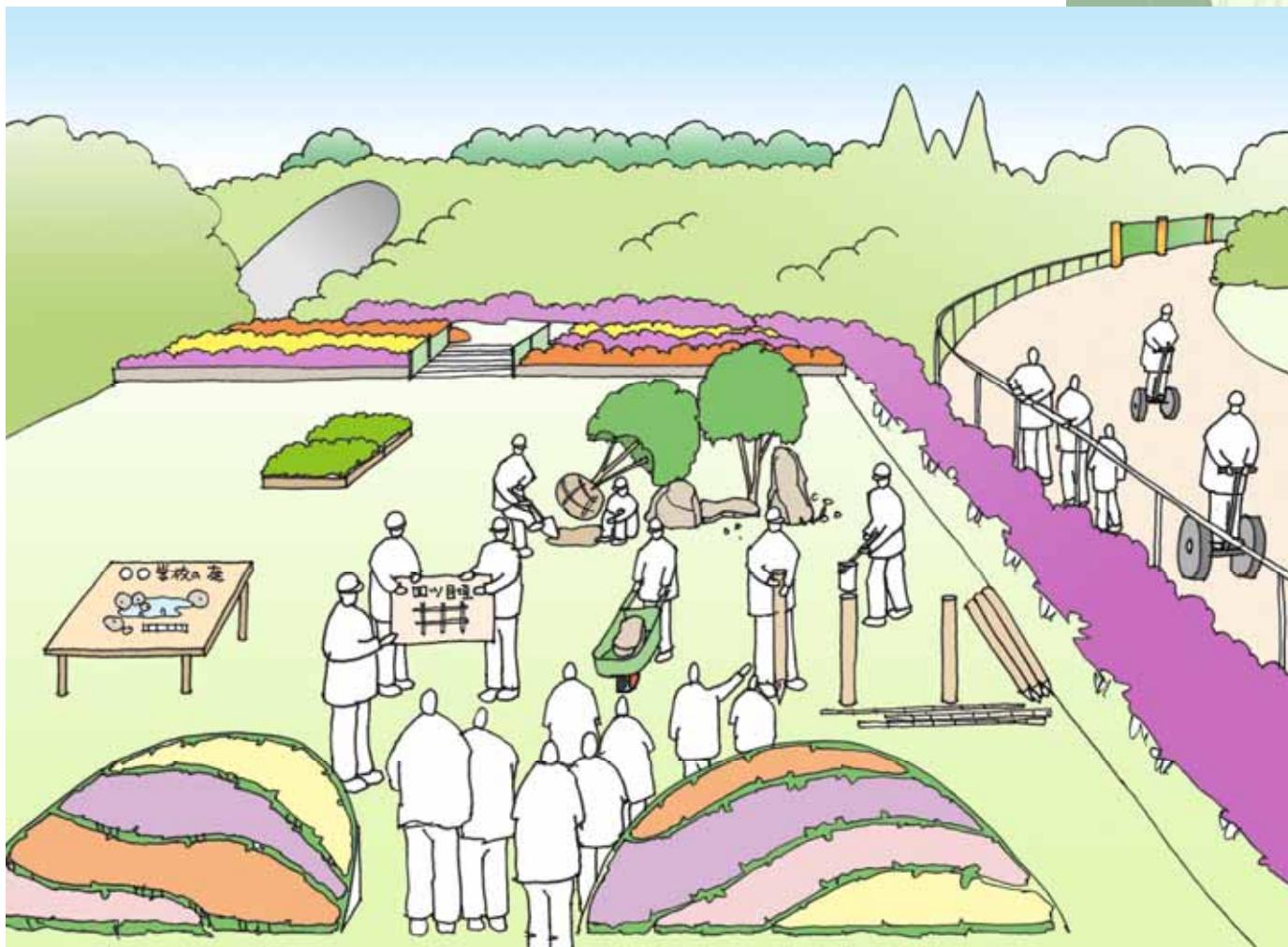
(4)管理運営・営業施設

表 -25 管理運営・営業施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
花ボランティア 控え室	・既存の花ボランティア控え室の活用	—	公園管理者 等
テイクアウト飲食	・既存飲食(スガキヤ)利用	—	公園管理者
一般物販	・既存店舗利用 ・万博関連グッズやフェアグッズを販売	—	公園管理者 等
緑花物販	・既存店舗利用 ・切花や鉢花、観葉植物等を販売	—	公園管理者 等



モリゾーキッコロ大集合



未来の庭(作庭過程展示)



モリゾーキッコロ大集合

図 -8 創造のエリア展開イメージ

2-6. センターエリア

(1) デザインの展開について

- ・低炭素社会の実現に向けて、都市のヒートアイランド現象緩和のための「風の道」づくりの試みが世界各地で行われている。公園、緑道、農地等のまとまりのある緑や河川、池等の水辺と、街路・住宅地の緑化、建物の屋上緑化等によりつくられた緑とのネットワーク化を進め、都市の中での涼風の通り道を確認するものである。
- ・本フェアでは、「風の道」を多くの協働を得ながら展示していく。
- ・とりわけセンターエリアでは、花や緑と一体となり都市に快適性を提供する風を整備キーワードとして、爽やかな風が感じられる、花に彩られた雄大な景観づくりを検討する。
- ・その景観づくりを通して、「爽やかな風、愛知にそよげ」という、都市における花や緑の増加により、心地よい風が吹き抜ける愛知の創造を目指したメッセージを発信することを検討する。

表 -26 エリアのメッセージと展開方針

整備キーワード	メッセージ	景観展開	機能展開
風	「爽やかな風、愛知にそよげ」	穏やかにそよぐ風が感じられる雄大な景観	休憩サービスやステージでの催事の展開
		<ul style="list-style-type: none"> ・あいちの花の大景観 ・風にそよぐ花畑 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適なそよ風の中での休憩、飲食 ・ステージでの催事 ・花卉や観葉植物等の展示

(2) 展示コンテンツ(案)

表 -27 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
風の花畑	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知の花をダイナミックに見せる大花壇 ・ステージ等と一体となった雄大な景観を創出 ・指定管理者の花畑づくりの経験や技術を活かした展開 	9000m ² 程度	主催者 公園管理者 企業 等
あいちの樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩場所に潤いを提供する植栽基盤を確保した緑の展示 ・県内産の植木の展示や鉢物(観葉植物)の展示 ・愛知県産の陶磁器等を利用した花鉢展示 ・誰でも利用できるパラソル付きテーブル上の寄せ植え展示 	3000m ² 程度	主催者 企業 県民 等

(3) 催事関係施設(案)

表 -28 催事関係施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園事業で整備されるステージを利用 ・フェアでの催事を開催 		主催者 各催事実施主体 等
三日月シェルター	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の三日月シェルターを利用 ・屋内型催事を提供 	1700m ² : シェルター面積	主催者等

(4) 管理運営・営業施設

表 -29 管理運営・営業施設と展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
レストラン 喫茶・売店	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール及びアイススケート場の既存の飲食物販施設を利用 		公園管理者 等
テイクアウト飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のマス周辺に配置 	30m ² × 3 程度	主催者 営業者 等
一般物販	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のマス周辺に配置 ・万博関連グッズやフェアグッズを販売 	30m ² 程度	主催 営業者 等



休憩飲食・あいちの樹木



図 -10 センターエリア展開イメージ

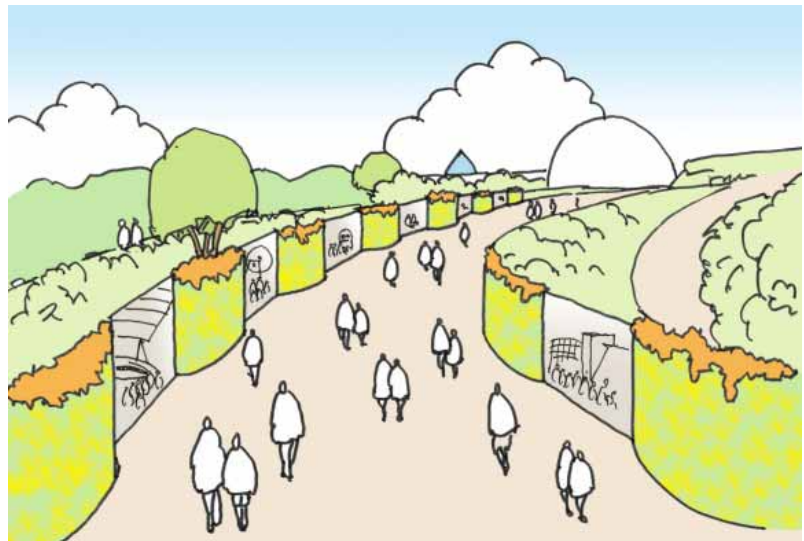
2-7. 全域を通した展開

(1) 主園路沿いでの展開(案)

- ・回遊動線となる主園路沿いでは、園路を楽しく歩けるような演出を検討する。

表 -30 展示コンテンツと展開イメージ

名称	展開イメージ	規模	整備主体
花の緑化壁	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博のバイオラングの進化形として花による緑化壁展開 ・住宅の玄関のエクステリアの壁やマンションのベランダ内壁面等の修景システムとしての提案 ・ビル外壁等の大規模建築への提案 	幅 4m × 20 区画程度	企業 アーティスト等
トリックアート	<ul style="list-style-type: none"> ・園路にトリックアートをシール状のシートにより貼り付け、各エリアのテーマを楽しく、わかりやすく演出する展示 ・「空」「土」や「空」「木」など エリアのテーマを踏まえた異なる展開 		大学(芸術系) 等



花の緑化壁



トリックアート

3 . 花壇・修景計画

3-1 . 基本的な考え方

日本一の花弁生産県 あいちの花の素晴らしさを発信

- ・愛知県は、キクをはじめとする切り花や、洋ラン・観葉植物等の鉢物生産が非常に盛んで、日本一の花弁生産県である。
- ・花卉産業の振興に繋がるよう、使用する植物は、愛知県産材にこだわり、「あいちの花」の素晴らしさを来園者に伝える。
- ・各エリアでの特徴を持たせながら、会場全体で花や緑の美しさが演出できるよう、効果的な展開を図る。



ポインセチア



ケイトウ



シクラメン



スプレーギク

(1)花壇・修景演出の基本方針

愛知県産の花材を利用

- ・展示や修景に使用する植物は、あいちの花の魅力由来園者に伝えるとともに、花への興味を喚起するよう、愛知県産の花材を利用することを原則とする。

愛知万博の記憶や会場の地形を活かした演出

- ・愛知万博で夏季から秋季に使用されていた花材を印象的に利用し、愛知万博の記憶を喚起する演出を図る。
- ・会場の地形や特徴を活かし、フェアとして来場者に感動と驚きを与えるダイナミックな修景と特徴のある花壇の演出を図る。また、来園者のたどるシーン展開や各エリアの魅力を引き出す演出を検討する。

会場の統一感を演出

- ・エリア毎に特徴のある景観の創出に向けた演出を行う一方で、会場全体のまとまりを印象付けるため、エリアを繋ぐ動線沿いに連続性が感じられる花壇修景を行う。
- ・修景花壇は展示物や施設等と一体的なデザインによる演出を図る。

景観ポイントの演出

- ・各エリアをはじめ、会場内の景観ポイントになる箇所を撮影スポットと位置付け、草花による趣向を凝らした演出を図る。

会期中に変化する景を演出

- ・フェア開催期間内での花の見せ時を定め、第1楽章から第2楽章(オープン時)、第3楽章からフェアの終演にかけて大きく2回に分けた花壇の展開を図る。また、テーマに応じた花壇コンセプトを設定し、花の入れ替え等による演出を展開する。

3-2. 植栽の基本方針

(1) 植物材料

屋外修景植物

- ・屋外花壇に使用する鉢物、苗物は開催時期に合わせて開花等の生育管理・調整を行ったものを使用する。また、花壇への播種時期は開花期を考慮して調整する。
- ・開催時期を考慮し耐暑性、耐乾性に優れた植物を使用する。

屋内修景植物

- ・屋内修景に使用する切り花は、観賞期間を確保するため適切な処理を行う。また鉢物類も開催時期に合わせて調整したものを使用する。



出展 愛知県花き園芸温室組合 HP

(2) 植栽密度

- ・会場の規模や植栽面積、事業費を考慮した植栽密度とし、花壇目的に合わせて疎密の使い分けを行う。
- ・鉢物や苗物は、草花の生育を考慮した植付け間隔を確保する。

(3) 植栽基盤

- ・計画地の土壌は、植栽土壌として芳しくない。花の植栽のために植栽基盤を創出して、期間中の良好な生育環境を確保する。

(4) 植替え

- ・フェア会期中は、植栽計画に準じて植え替えを行う。また、植栽計画以外でも植物の生育状況に応じた補植等を行う。
- ・緑化壁やモザイクカルチャー(立体花壇)など、植え替えが困難な箇所については原則的に植替えを行わず会期中通期に渡り使用するため、生育を考慮した植物の選定を行う。
- ・ススキなどグラス類については、通期使用するため植え替えを行わないこととする。また通期使用する植物の周辺花壇については使用植物とのバランスを考慮した配植とする。

1) 会期前半

フェアのはじまりを彩る花壇

- ・第1楽章～第2楽章(9/12～10/12)を会期前半の目安とする。
- ・夏の名残を感じさせ、フェアのはじまりにふさわしい鮮やかな色彩の草花の配植とする。
- ・ポットマム、ケイトウ、コリウス、ジニア、コスモス等の花材を使用する。



2) 会期後半

秋の実りや上品な優雅さをイメージさせる花壇

- ・第3楽章～第4楽章(10/13～11/8)を会期後半の目安とする。
- ・秋の深まりを感じられる植物を配植し、フェア終演を飾る。
- ・ポットマム、ポインセチア、ガーデンシクラメン、ケイトウ、コスモス等の花材を使用する。



(5) 各エリアの花壇演出

1) 地球市民のエリア

演出方針

- ・花の苗等を用いた立体的な緑化壁で来園者を迎えるとともに、草丈の高い草花で視覚を制限し、空を背景とした印象的な驚きの景観を提供する。
- ・アートウォールやグリーンウォールと一体的なデザインとなる色彩豊かな花による構成とする。

花壇形態例

- ・立体ガーデン

- ・混植ガーデン

使用植物例

- ・バジル、セダム類、サントリナ、アキランサス、シュウメイギク、セージ類、ダリア、ガウラ、コスモス等



2) 農のエリア

演出方針

- ・園路沿いに草丈、色、形状の異なる様々な種類を組み合わせ、単調にならないようパターンに変化を持たせる。
- ・全体に農の風景との連続性が感じられる花壇構成を検討する。
- ・花壇輪郭を明確化せず、自然な広がりを感じさせる配植を行う。
- ・植栽密度に強弱をつけ、田や樹林に消えていくような花の風景とし周辺との調和を図る。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン

- ・混植ガーデン

- ・エディブルガーデン

使用植物例

- ・ナデシコ、オミナエシ、ススキ、キキョウ、フジバカマ、ヒガンバナ、ノカンゾウ、ノアザミ、コスモス等



3) 緑の贈りものエリア

演出方針

- ・異文化交流による景観デザインと調和した花壇を検討する。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン

4) 水辺のエリア

演出方針

- ・段状部分は出展・協賛花壇と調和を図り高低差のある草花を配植、水辺への流れを演出し、景観の統一性を図る。
- ・明るく華やかな雰囲気演出するため、暖色系で大輪景の花やボリューム感のある草花を使用する。
- ・植栽土嚢等を用いて、立体的な花壇をつくり、土嚢花壇ごとに花の配色を設定し、全体で大らかなグラデーションを描く。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン

使用植物例

- ・ペンタス、トレニア、コリウス、ジニア、サルビアファリナケア、コスモス 等



- ボーダーガーデン……………道路等に沿った帯状の細長い花壇。境栽花壇とも言う。手前から奥にだんだん背の高い花を植えるのがイングリッシュボーダー。
- 混植ガーデン……………ある程度の塊で、多様な花材を不規則に植栽した花壇。
- 立体ガーデン……………構造物等を利用した立体的な花壇。
- カーペット花壇……………丈の低い花材を群植することによって地表面に模様を描く花壇。
- グラスガーデン……………イネ科草本を主体とした花壇。
- コンパニオンプランティング…相性の良い他の植物と組み合わせて寄せ植えすることにより、病虫害の被害を最小限に抑え、かつ植物の生き生きとした成長を促して収穫量を増やしたり、風味や芳香を良くしたりする花壇。
- エディブルガーデン……………野菜等の食用の植物を用いた花壇。

5) 創造のエリア

演出方針

- ・モリゾーキッコロの形態に似た植物に、目と口を描き、ハナモモの下や園路沿いの斜面、愛・地球博記念館周辺等に、たくさんのモリゾー、キッコロの鉢物を並べる。
- ・ハンギングバスケット等による修景を行う。
- ・花を用いた緑化壁修景を行う。

花壇形態例

- ・ボーダーガーデン
- ・混植ガーデン
- ・立体ガーデン

使用植物例

- ・コキア、サントリナ、アキランサス、シュウメイギク、セージ類、ダリア、ガウラ、コスモス 等



6) センターエリア

演出方針

- ・最も重要な景観ポイントに位置付け、愛知にこだわった演出を行う。
- ・雄大な景観に合わせておおらかな花壇形状とする。
- ・休憩サービスを展開する場では、植栽土嚢等を用いて、立体的な花壇をつくり、あいちの植木や花等をPRする。
- ・休憩サービスを展開する場では、テーブルに誰もが創作したり、触れる鉢植えや切花のアレンジメントを設置する。

花壇形態例

- ・カーペット花壇
- ・グラスガーデン
- ・コンパニオンプランティング
- ・寄せ植え花壇

使用植物例

- ・マリーゴールド、ポチュラカ、ジニア、グラス類、アキレア、ガーデンシクラメン、キク、コスモス、サルビア、ケイトウ、センニチコウ、ルドベキア 等



3-3. 植物調達管理の基本方針

(1) 植物調達管理の期間

表 -31 植物調達管理の期間

納品及び施工期間	・種子、球根 ・鉢物、苗物: 5月上旬～11月上旬 ・切花 : 9月上旬～11月上旬
植栽維持管理期間	・春季～11月下旬

(2) 基本的考え方

生産者、流通業者、造園業者を含めた連絡調整体制により 花材などの植物を調達

- ・愛知県は昭和37年から現在に至るまで日本一の花卉生産を誇る「花の王国」である。生産は東三河地域を中心に県内全域で行われ、きく、ばら、洋らん、観葉植物等全国一の産出額を誇る品目が多数ある。
- ・愛知県では、フェア開催による花卉市場への影響は少ないと考えられ、通常のフェアで行われる特別な措置は講じない方向で検討する。
- ・あいちフェアでは、生産者、流通業者、造園業者を含めた連絡調整体制を整えることで、植物の調達を行う体制を検討する。

ジャストインタイムによる植物搬入

- ・会期中の花の搬入は、愛知万博で採用されていた、必要な時に必要な場所に花を搬入するジャストインタイム方式により実施することを検討する。
- ・南駐車場を中継点とした搬入システムを検討する。
- ・不測の事態に備えて、南駐車場横の野球場に鉢物、苗物等を仮置きするバックヤードを設ける。
- ・切花は、緑のリサイクルセンター周辺に仮設のプレハブ冷蔵庫を設け、必要な花材をストックする。

(3) 植物調達の対象

・植物調達の対象は、基本的には、本計画の対象となる会場の「屋外展示」・「修景花壇」・「屋外出展」で使用する植物の調達である。ただし、屋外出展において出展者自身が植物を調達するものは対象外とする。

表 -32 植物調達の対象

エリア区分	実施者区分	調達の対象
屋外出展	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民エリア ・農のエリア ・緑の贈りものエリア ・水辺のエリア ・創造のエリア ・センターエリア
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体出展 ・学校出展 ・企業、NPO、団体出展
屋内出展	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち花の屋内展示
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・花卉産業出展 ・花関係者出展 ・企業、NPO、団体出展
修景花壇	主催者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修景花壇
	協働者展示	<ul style="list-style-type: none"> ・修景寄植え ・ハンギングバスケット ・切花修景

(4) 植物調達の区分

・本フェアで使用する植物調達の区分は以下のものがある。

表 - 33 植物調達の区分

調達区分	対象植物	植物調達方法
一般植物調達	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に流通する植物でフェアの開催前に特別な養生を行わない植物の調達 ・1、2年草、宿根草、球根類、その他花壇で使用する低木・地被類 	・材工分離方式(材料支給)
早期養生植物調達	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に流通する植物でフェア開催前に特別な養生を必要とするもの ・特別な調達が必要な植物 ・立体花壇など特殊な条件下で使用する植物の調達 	・材工分離方式(材料支給)
植物資材提供 (メーカー等による支給)	<ul style="list-style-type: none"> ・植木協会、種苗メーカー等、企業協賛等による植物提供 ・1、2年草、宿根草、球根類等 	・材工分離方式(材料提供)
レンタル植物提供	<ul style="list-style-type: none"> ・植木生産企業等からのレンタル形式による植物の提供 ・観葉植物等の特殊木 	・材工分離方式(材料提供)

4 . 会場整備における協働の展開

4-1 . 施設整備における協働の展開

- ・展示施設、行催事施設、管理運営・営業施設等の施設整備では、NPO、学校、企業、公園管理者、営業者等と協働しながら整備を進める。(各担当施設については、2.エリア整備方針の各エリアの表、整備主体参照)
- ・各協働者との協議では、基本計画で示した施設内容を弾力的に捉え、協働を推進しやすい工夫を行う。

4-2 . 花壇修景における協働の展開

- ・花壇修景では、花壇の維持管理に多くの力が必要となる。
- ・植替えや補植、花ガラ摘みなど、ボランティアを活用しながら推進する。
- ・ボランティアの活用では、花の世話に関する技術を専門化が伝達しながら、活動を進め、美しく仕上がった達成感や、技術の向上による満足感を得ることができる展開を検討する。

5 . 事業スケジュールの検討

・会場整備に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表 -34 会場整備事業スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	・会場基本設計業務 等
平成26年度	・会場実施設計業務 ・基盤施設整備 ・植物生産調整・植物生産 ・植物試作 等
平成27年度 (あいちフェア終了まで)	・施工監理・植栽施工監理業務 ・修景・サービス・管理施設工事 ・植栽工事・植栽維持管理 ・臨時駐車場整備工事 ・植物管理業務 ・植物生産調整・植物生産 ・植物納品 等
平成27年度 (あいちフェア終了後)	・撤去工事 ・復旧工事 等

VI 会場運営基本計画

1. 交通輸送

1-1. 交通輸送計画

(1) 現況

1) 現況交通手段

- ・愛・地球博記念公園には、現状では、主に以下のような手段により、来場者が訪れている。
 - リニモ
 - 自家用車
 - 大型車(団体バス)
 - その他(バイク、自転車、歩行者)
- ・本園への来場は、主にイベント時にピークを迎えるが、イベント時やゴールデンウィークの交通手段別来場者割合は以下のとおりであり、大部分が自家用車の利用である。

表VI-1 愛・地球博記念公園イベント時の交通手段別来場者割合推定値(H24年度)

年間最多来場者日における割合

リニモ		自家用車		大型車		その他		合計
入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	
3,333	17.8	15,424	82.2	0	0	18	0.1	18,775

表VI-2 愛・地球博記念公園イベント時の交通手段別来場者割合推定値(H25年度)

5月末までの最多来場者日における割合

リニモ		自家用車		大型車		その他		合計
入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	入園者数 (人)	入園 割合 (%)	
6,702	28.6	16,427	70.1	0	0	292	1.2	23,421

2) 現況交通量(交通量調査)

- ・緑化フェアの開催に伴う愛・地球博記念公園への自動車来場者の増加による周辺交通への影響を検討するために、混雑が予想される代表的な交差点を抽出して交通量の現況を調査した。

<調査日時、調査交差点>

- ・2013年9月8日(日) 9時～17時の間で3時間帯でのサンプル調査(以下のとおり)。

表VI-3 調査交差点及び調査時間

	朝 (来場ピーク時 想定)	昼 (昼の来場/退場 錯綜時想定)	夕 (退場ピーク時 想定)
○愛・地球博記念公園北口北、 北口交差点	9時～10時	12時～13時	15時～16時
○前熊東交差点	10時～11時	13時～14時	16時～17時
○愛・地球博記念公園西交差点	9時～10時	12時～13時	15時～16時
○長久手 I . C . 交差点	10時～11時	13時～14時	16時～17時

<調査結果概要>

- ・上記で得られた調査結果を踏まえ、過去の交通センサスデータを用いて調査時間帯以外の時間帯についても交通量を推定し、現在の休日の各交叉点の混雑度を算定した。
- ・その結果、各交差点とも現状の交通量では、渋滞がおこることはないものと推定された。
- ・しかし、当公園においてイベント等が実施された場合においては、交差点によっては大きな渋滞が発生しており、フェアが開催されることで自動車交通が増加すると、主要な交差点では渋滞が発生することが予想される。

(2)課題

○駐車場不足とリニモの利用

- ・フェア期間中は、多くの人々が本園を訪れることから、現在の入場割合を踏まえると、駐車場の不足が予想される。
- ・そこで、フェア期間中の臨時駐車場の整備やリニモ利用促進を検討する必要がある。

○交通渋滞への対策

- ・フェア期間中は、自動車交通の増加に伴い、主要交差点において大きな渋滞が予想される。
- ・そのため、駐車場の分散化やシャトルバスの運行、リニモの利用促進など、交通渋滞への対策が必要である。

(3) 基本的考え方

臨時駐車場の整備、シャトルバスの運行

- ・既設駐車場だけでは収容しきれない自動車は臨時駐車場で対応するとともに、必要に応じてシャトルバスの運行を検討する。

リニモの利用促進

- ・広報宣伝に努める一方、「フェア会場での特典」や「あいちの花を使ったプレゼント」などによりリニモの利用促進を図ることを検討する。



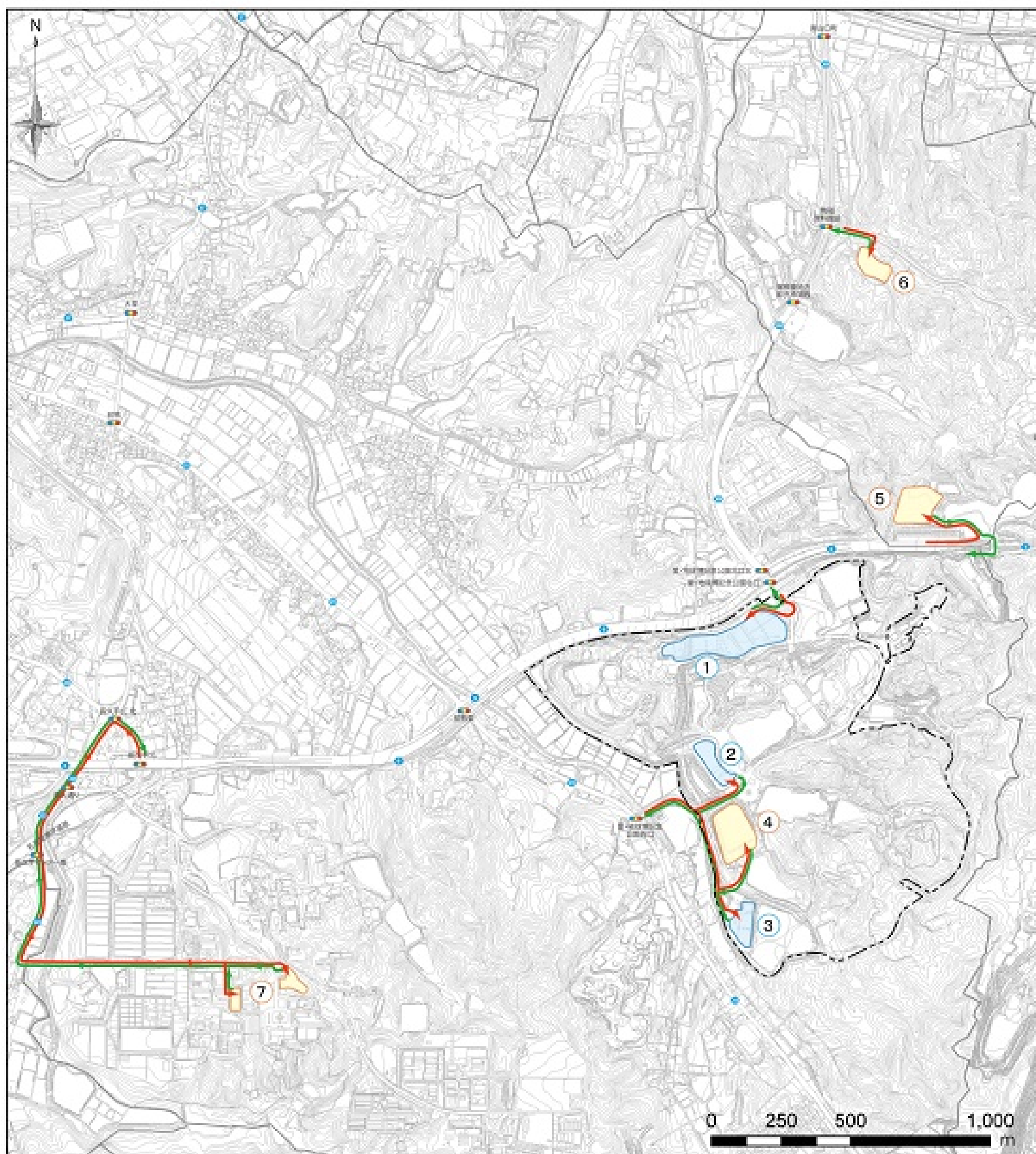
(4) 今後の展開

1) 駐車場、シャトルバス

- ・フェア期間中は駐車場不足が予想されることから、既設駐車場に加え以下のような臨時駐車場を検討する。
- ・なお、以下の駐車場の中でも陶磁美術館や農業総合試験場の駐車場は、会場から離れていることから、シャトルバスの運行を検討する。

表VI-4 駐車場計画(案)

区分	場所	施設	台数(台)
既設駐車場	愛・地球博記念公園	北側駐車場	1,057
	愛・地球博記念公園	西側駐車場	392
	愛・地球博記念公園	南側駐車場	362
	小計		1,811
臨時駐車場候補	愛・地球博記念公園	(臨)多目的広場	400
	知の拠点	西側下段空地	470
	陶磁美術館	西駐車場	150
	農業総合試験場	駐車場	180
	小計		1,200
合計			3,011



■ 駐車場

【凡例】

○ (light blue) : 既設駐車場

① : 愛・地球博記念公園_北側駐車場

② : 愛・地球博記念公園_西側駐車場

③ : 愛・地球博記念公園_南側駐車場

○ (light yellow) : 臨時駐車場候補

④ : 愛・地球博記念公園_(臨)多目的広場

⑤ : 知の拠点_西側下段空地

⑥ : 陶磁美術館_西駐車場

⑦ : 農業総合試験場_駐車場

→ (red) : 来場車線

→ (green) : 退場車線

○ (dashed) : 愛・地球博記念公園

図VI-1 駐車場計画(案)

2) 運行体制

・駐車場及びシャトルバスの運行については、行催事計画で設定したタイプ別に、運営区分として4つ体制を設定する。

表VI-5 運行体制

行祭事の日タイプ	運行体制区分	集客概要	運行体制
スペシャル日	S体制	集客規模の大きなメインイベントを実施	<ul style="list-style-type: none"> ○最も多くの来場者が予想される日であり、既設駐車場(1,811台)及び4つの臨時駐車場(1,200台)の使用を想定する。 ○また、陶磁美術館、農業総合試験場の駐車場からは、シャトルバスの運行を想定する。
主要催事日	H体制	各楽章の最終週末を中心に集客規模の大きな主要催事を開催	<ul style="list-style-type: none"> ○スペシャル日に準じて多くの来場者が予想されることから、既設駐車場(1,811台)及び多目的広場、知の拠点の臨時駐車場(870台)の使用を想定する。 ○状況に応じて、陶磁美術館や農業総合試験場の駐車場(330台)の使用を想定する。 ○また、陶磁美術館や農業総合試験場の駐車場の開場に応じてシャトルバスの運行も検討する。
休日	M体制	上記タイプ以外の土・休日集客規模中型の催事を開催	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの来場者が予想されることから、既設駐車場(1,811台)及び多目的広場、知の拠点の臨時駐車場(870台)の使用を想定する。
平日	L体制	平日の方が参加しやすい層をターゲットとした小型の催事、体験プログラム等を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○既設駐車場(1,811台)を基本とし、状況に応じて多目的広場、知の拠点の臨時駐車場(870台)の使用を想定する。

(3)リニモ利用促進対策

- ・駐車場及びシャトルバスの運行とともに、できるだけリニモの利用を促すための対策を検討する。
- ・リニモの利用推進のためには、大きく①広報と②利用サービスの向上があげられ、以下のような対策を検討する。

< 広報展開(例) >

- テレビや新聞等のマスメディアを通じたリニモ利用促進のための広報
- 駐車場情報を、Web等でリアルタイムで発信 等

< 利用サービスの展開(例) >

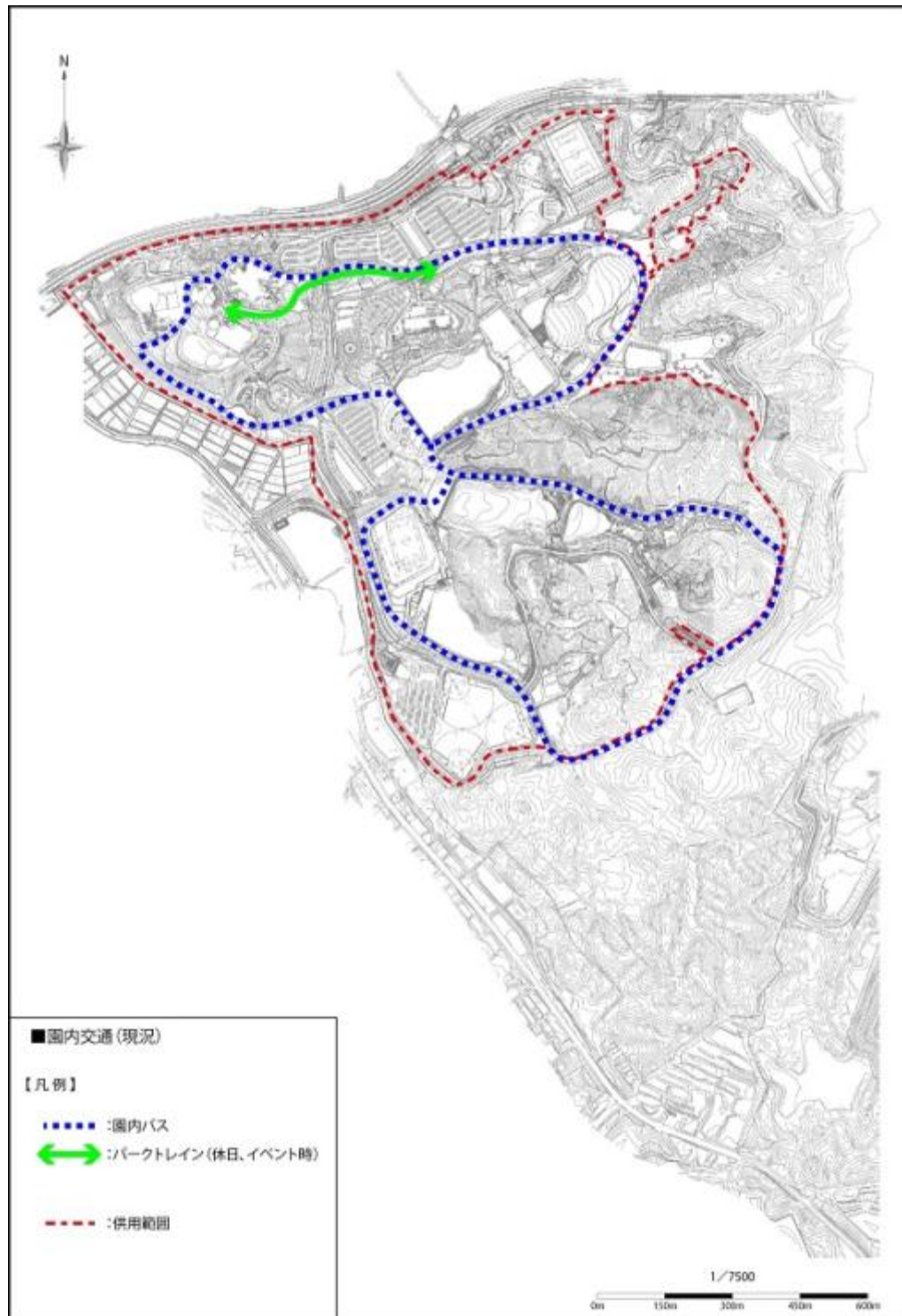
- リニモ利用者へのプレゼント(ピンバッジや花の種等)
- 地元商店街や都心部事業者(商店、駐車場)等と連携した割引券等の配布
- 抽選による花のプレゼント(「花に込めたメッセージ」の活用等)
- 有料催事の割引特典
- 人気施設の優先入場 等

- ・なお、上記の促進対策の実施にあたっては、リニモ事業者や地元商店街、催事主催者など、関係者との連携が必要であり、早くからの調整が必要である。

1-2. 園内交通計画

(1) 現況

- ・愛・地球博記念公園では、現状、広い園内の移動を補助するために、園内バスが運行している。
- ・また、休日やイベント時には、北側駐車場とこどもの広場を結ぶパークトレインが運行している。



図VI-2 愛・地球博記念公園園内交通 (現況)

(2) 課題

○広大な会場移動を補助する手段の確保

- ・愛・地球博記念公園は広大な敷地を有し、歩行による移動は労力を要する。
- ・また、フェア会場の回遊性を高めるためにも、補助的な移動手段は重要である。
- ・フェアは主に本園の北側を中心として開催されることから、フェア期間中は主に本園北側の園内移動を補助するとともに、園内全体に対しても広い園内の移動を補助する園内交通の検討が必要である。

(3) 基本的考え方

会場の利便性、回遊性を高める パークトレインなどの運行

- ・フェア会場の利便性と、主要動線の回遊性を高めるために、パークトレインの運行を検討をする。
- ・ベロタクシーや、環境型ビークルによるガイドツアーなど、環境に配慮した乗り物の導入を検討をする。



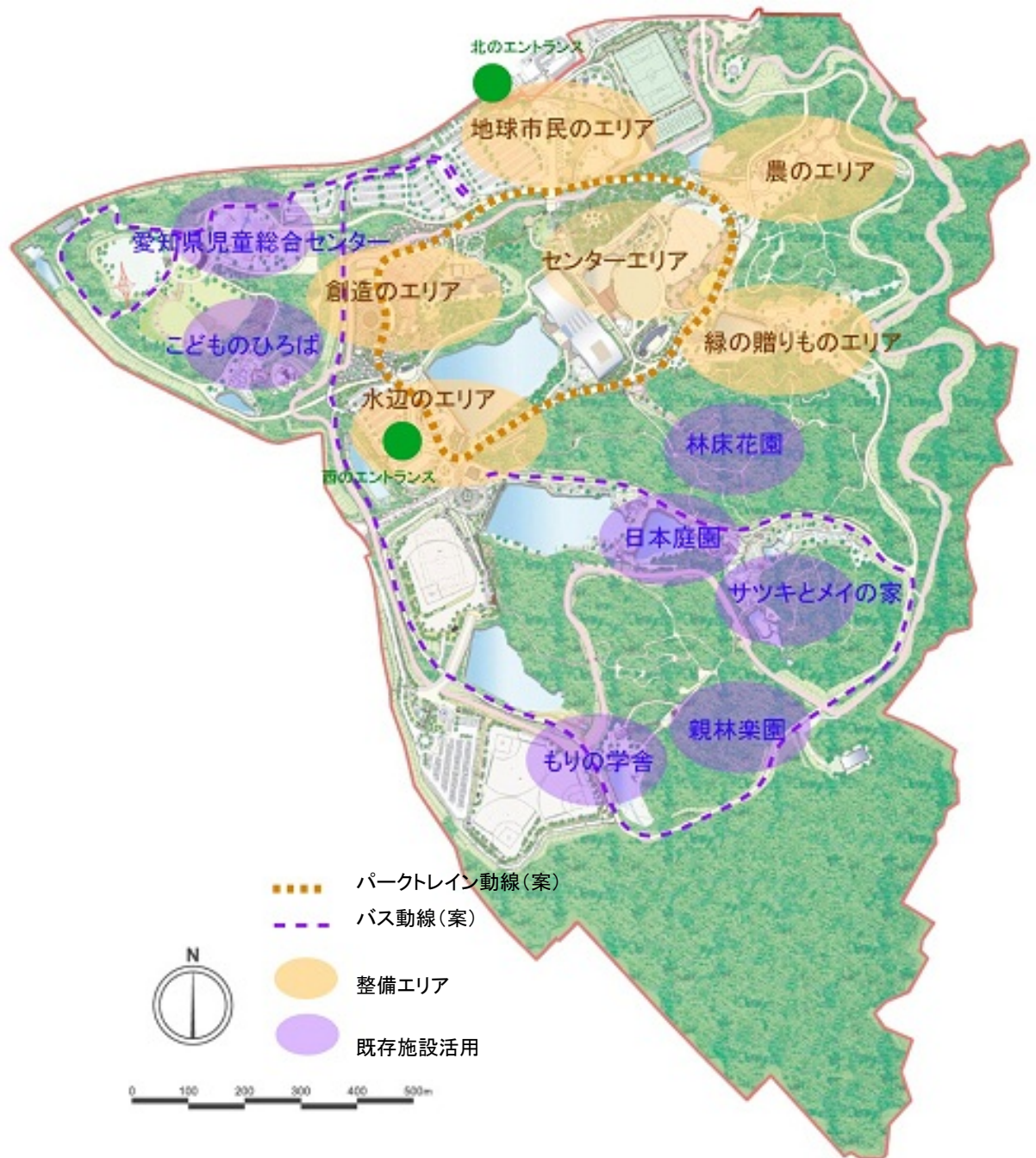
南北をつなぐ園内バスの運行

- ・フェア会場の広域的な移動を補完するため、公園南北を連結する園内バスを運行の検討をする。



(4) 今後の展開

- ・整備エリアを周遊するパークトレインを検討する。
- ・また、フェア会場となる北側と既存施設のある南側をつなぐために、愛・地球博記念公園を南北を行き来するバス動線を検討する。また、北側駐車場と公園西駅方面を結ぶバス動線も併せて検討する。



図VI-3 園内交通計画(案)

2. 会場運営

2-1. 公園管理現況と計画の基本的考え方

(1) 公園管理の現況

1) 開場時間

- ・愛・地球博記念公園の開場時間は以下の通りである。

<愛・地球博記念公園の開園時間>

4月～10月・・・8:00～19:00(施設は8:00～17:00)

11月～3月・・・8:00～18:30(施設は8:00～17:00)

* 有料施設及び屋内施設が利用できない日(月曜日(月曜日が祝日場合は次の平日)等)
は17:30まで

2) 管理体制

- ・愛・地球博記念公園は、愛知県からの委託により、(公財)愛知県都市整備協会が指定管理者として管理運営を行っている。
- ・当協会では、有料施設(駐車場、茶室、サツキとメイの家、温水プール、アイススケート場等)の運営を行うとともに、警備、清掃、植栽や公園施設の維持管理を行っている。
- ・また、当協会の管理の下、民間活動団体や民間事業者等が、園内で植物管理等のボランティア活動を実施している。
- ・一方、本公園では、NPO、ボランティア団体、企業、大学などが公園管理者である行政、指定管理者と一緒に公園の運営について協議・実践する場として、「公園マネジメント会議」が設立されており、きめ細やかなサービス提供、利用者の満足度向上、魅力ある公園づくりに取り組んでいる。

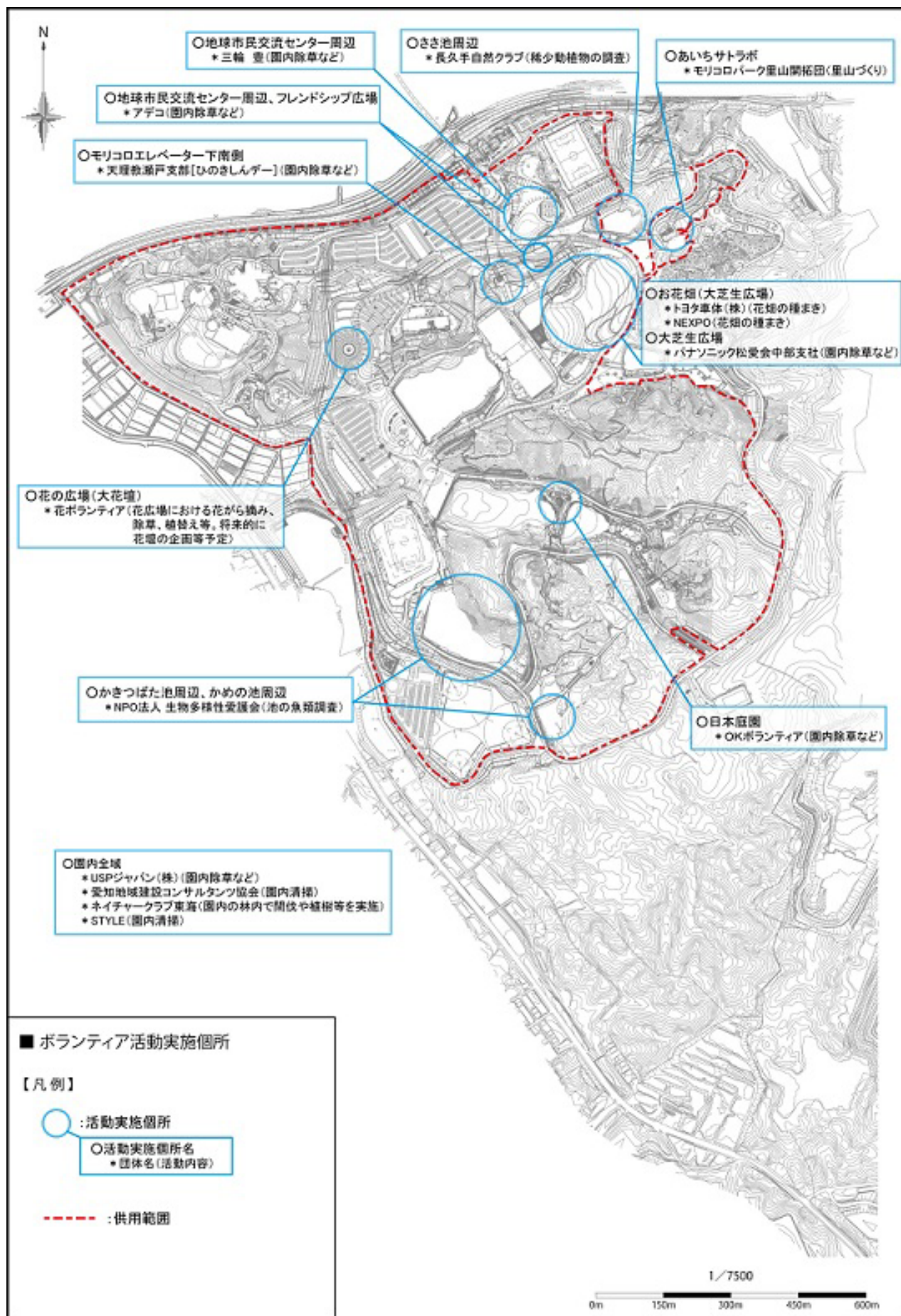


図 -4 愛・地球博記念公園ボランティア活動実施箇所

(2) 会場運営の基本的な考え方

既存の運営体制と連携したスマートな会場サービス、会場管理

- ・現在、指定管理者により実施されている公園の運営体制と連携し、効率的・効果的な会場サービス、会場管理を行う。
- ・既存のボランティア団体をはじめ、できるだけボランティアの協力による会場サービス、会場管理により、協働によるフェア開催を推進する。
- ・先進的な環境配慮型のフェアであることを演出するため、環境型ビークルの使用など、来園者に見せることを意識した管理、サービスを展開する。



ボランティアガイドによる案内・解説機能の充実

- ・フェア会場の様々な工夫や各種展示の内容、花や緑の情報など、フェア会場を案内・解説するための機能を、ボランティアガイドを通じて充実する。



2-2. 会場運営計画

(1) 開場時間

- ・開場時間は、愛・地球博記念公園の開園時間と、人員配置や店舗等の準備、イベント等の撤収、会場の管理、植物のメンテナンス等を考慮し、現状の開園 1 時間後から公園内施設の閉館時間 17:00 時に合わせて、以下の時間を基本とする。
- ・ただし、行催事等により、夜間利用を行う場合は一時変更も検討する。
- ・なお、今後、本園の閉園時間(19:00)を勘案し、関係者と協議のうえ調整するものとする。

< フェア開場時間 >

9 : 00 ~ 17 : 00

(2) 運営体制

- ・基本スタッフの他、愛・地球博記念公園の運営管理者(指定管理者、園内維持管理に携わる事業者、ボランティア)、主旨に賛同する団体(民間事業者、民間活動団体)の参画を積極的に推進する。
- ・上記の実施のためにも、本園の指定管理者と以下の事項等について十分に調整を図るものとする。

< 本園の指定管理者との調整事項 >

開場時間
運営施設
会場サービス内容(詳細は後述)
会場管理内容(詳細は後述)
上記実施・連携体制
既存ボランティア等との連携体制 等

(3) 運営施設

- ・会場運営にあたり、事務局運営本部、インフォメーション、医務室、スタッフやボランティア控室など、各種施設を検討する。
- ・詳細は「会場づくり計画」を参照。

(4) 会場サービス

・フェアでは以下のような会場サービスを検討する。

表 -6 会場サービス

区分		内容	場所	時期		
				期間前	期間中	期間後
情報 事務	情報提供	・電話、HP 等による会場案内・交通・観光情報等の提供	-	←→		
		・会場マップ配布、施設案内・プログラム等の各種案内、交通・観光情報等の提供	北・西エントランス		←→	
	貸出、預かり	・車いす、ベビーカー等の貸出 ・手荷物等の預かり	北・西エントランス		←→	
	団体対応	・バス駐車予約 ・食事場所、集合場所等の案内	-		←→	
案内	会場案内	・会場各所において、来場者への会場内各種情報の提供	会場各所		←→	
	介助	・身障者等へのケア、案内、手話通訳	北・西エントランス		←→	
	外国人等対応	・外国人来場者の通訳、会場案内 ・特別来場者の案内対応	北・西エントランス		←→	
	ツアーガイド	・会場ツアーの企画と案内	北・西エントランス		←→	
解説	展示解説	・展示毎の解説	各展示		←→	
	花緑解説	・園芸相談	プール		←→	
その他	諸規則設定	・会場サービス、各種実務マニュアルの作成	-	←→		

(5) 会場管理

・フェアでは以下のような会場管理を検討する。

表 -7 会場管理

区分		内容	場所	時期		
				期間前	期間中	期間後
警備	関係者対応	・関係者証、駐車証、車両通行証発行等の関係者事務対応	-	←→		
	会場警備、通門管理	・通門管理・整理誘導 ・会場警備 ・雑踏整理・誘導	-	←→		
救護・迷子	医療、救護	・救命講習	-	↔		
		・応急処置、病院への搬送対応	北エントランス(事務局運営本部)		↔	
		・AED 設置	会場全体		↔	
	消防、防災	・防災訓練等防災体制の確立	-	←→		
		・有事対応	北エントランス(事務局運営本部)		↔	
	迷子、遺失物対応	・遺失物・拾得物対応 ・迷子・迷い人対応	北エントランス		↔	
乳児サービス	・授乳場所、ベビーベット等の設置	北エントランス 児童総合センター		↔		
清掃	清掃、ごみ処理	・会場、トイレ、施設清掃 ・廃棄物処理 ・集積所管理	会場全体		↔	
	保険、衛生	・ペットの入場の禁止 ・ペット保管所の設置	北エントランス		↔	
その他	諸規則設定	・会場管理マニュアル、各種実務マニュアルの作成周知 ・危機管理マニュアルの作成周知	-	↔		
	保険加入	・施設の損壊や人的被害に対する保険加入	-	←→		
	入場者集計 アンケート調査	・入場者公式数字集計 ・来場者動向の把握	-		↔	
	音楽著作権の取扱い	・会場内で使用する音楽の著作権の取扱いルールの設定と支払い	-	↔		

3 . 営業参加

3-1 . 園内営業の現況と計画の基本的考え方

(1)園内営業の現況

- ・愛・地球博記念公園では、各種事業者により、軽飲食やモリコロパークグッズなどの物販が行われている。
- ・また、こどもの広場では、観覧車が民間事業者により営まれている。

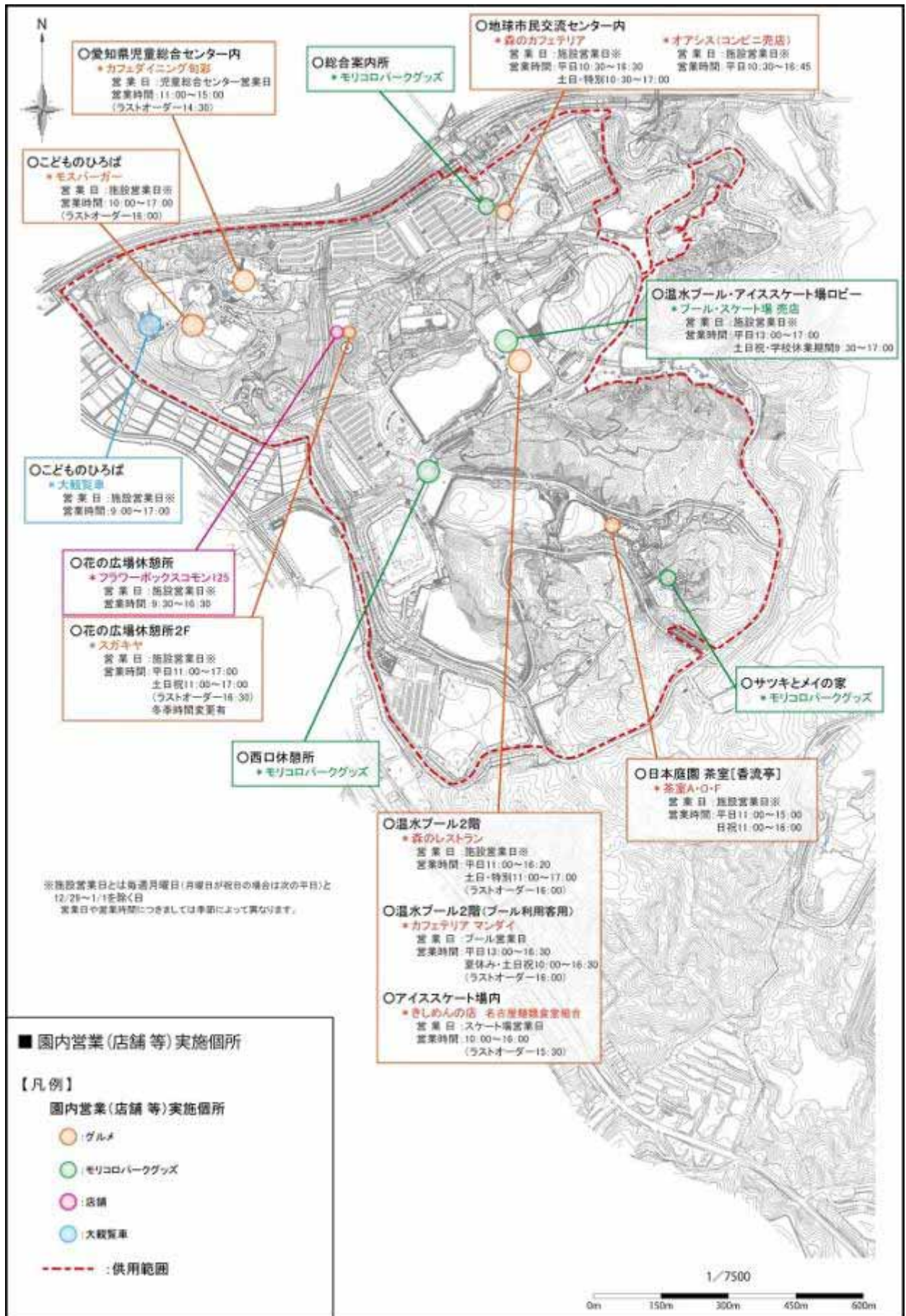


表 -5 愛・地球博記念公園営業実施箇所

(2) 営業の基本的な考え方

既存事業者及び主旨に賛同する事業者との連携

- ・フェア期間中においては、既存事業者と連携を図るとともに、フェアの主旨に賛同する新たな事業者を迎えた営業計画を検討する。



花や緑を楽しみながら飲食を楽しめる空間の提供

- ・会場計画と連携し、花や緑を楽しみながら飲食を楽しめる空間を提供する。



3-2. 営業計画

(1) 参加主体

- ・現在の愛・地球博記念公園の営業事業者や主旨に賛同する民間事業者、民間活動団体の参加により営業を行う。

(2) 営業行為

- ・あいちフェアでは、以下のような営業行為を行う。
- ・特に、愛知の食や花、地元産品などを扱う団体等の参加により、愛知らしさを演出する営業を行う。

表 -8 営業行為区分

区分	営業形態	内容	主体
飲食営業	常設店舗	軽飲食	・現在、愛・地球博記念公園で飲食営業をしている業者
	仮設店舗	軽飲食(愛知郷土料理、外国料理、ご当地B級グルメ等)	・民間事業者、民間活動団体の協働・参加
	自動販売機	飲料	・愛・地球博記念公園での指定管理者
物販販売営業	仮設店舗	地元産品	・民間事業者、民間活動団体の協働・参加
		植物(花卉等)	・民間事業者、民間活動団体の協働・参加
		その他(各種出展に伴う物販)	・民間事業者、民間活動団体の協働・参加



4 . 会場運営基本計画における協働の進め方

4-1 . 基本的考え方

通常の公園管理スタッフとフェアボランティアの協働による会場運営

- ・園内交通及び会場運営については、通常の公園管理に関するスタッフとともに、可能な限りボランティアの活用を図る。
- ・ボランティア活動に関する事前研修の充実を図り、可能な限り自律的な活動が行えるように配慮する。
- ・活動内容がフェア後の公園管理や愛知県内の緑化活動等の人材育成につながるように検討する。

4-2 . 協働の概要

- ・会場運営に関するボランティアとして、以下のようなものを検討する。

表 -9 管理運営協働概要

種類		活動内容	
園内交通	園内交通ボランティア	・パークトレイン等の円滑な園内交通の誘導補助(来場者の誘導、乗降補助等)	
会場運営	会場サービス	情報ボランティア	・会場マップ配布、施設案内・プログラム等の各種案内、交通・観光情報等の提供
		コンシェルジェボランティア	・会場各所において、来場者への会場内各種情報の提供
		介助ボランティア	・身障者等へのケア、案内、手話通訳
		ツアーガイドボランティア	・会場ツアーの案内
		展示解説ボランティア	・展示毎の解説
		花緑解説ボランティア	・園芸相談
	会場管理	警備ボランティア	・雑踏整理・誘導
		迷子ボランティア	・遺失物・拾得物対応、迷子・迷い人対応
		清掃ボランティア	・会場清掃補助



5 . 事業スケジュールの検討

・会場運営に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表 -10 会場運営事業スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	・会場運営実施計画業務 等
平成26年度	・運営管理・交通輸送(調整) 等
平成27年度	・運営管理・交通輸送(実施) 等

Ⅶ. 觀客誘致基本計画

1. 基本的考え方

花や緑に関心の高い各ターゲットはもとより、幅広い誘致圏やターゲットに対し観客誘致方策を検討し、展開する。

- ・愛知県内、他県や海外など誘致圏の設定により、愛知県の地域資源、観光資源を活用した観客誘致方針（プロモーション）や交通を活用した観客誘致方針等を検討し、展開する。
- ・マスコミが着目するような話題性のある行催事の実施等に力点を置き、ロコミ等による草の根的広報宣伝が展開されることを目指す。
- ・広報活動は、それらが単なる式典やフェア周知にとどまるのではなく、「緑のチカラ」を活用した PR 戦略により、緑の良さを感じてもらえる広報の展開を図る。
- ・あいちフェア事業自体が都市の緑づくりに直接繋がり、緑の効果が体感できる工夫を凝らし、愛知全体の緑づくりの気運が高まるような戦略的広報を立案する。

観客誘致圏

- ・あいちフェアの観客誘致圏は大きく、県内及び近隣県と関西圏及び首都圏を想定した県外からの観客誘致を想定する。
- ・また、海外の友好提携地域についても観客誘致を検討する。

表VII-1 フェア開催期間中の行催事のテーマと協働対象(例)

エリア		考え方	対象
県内		愛知県全市町村	愛知県全市町村
県外	近隣県	中部圏知事会議参加県	富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県
	関西圏及び首都圏	東京都、大阪府及び各圏域の政令指定都市	首都圏：東京都、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市 中部圏：静岡市、浜松市、(名古屋市) 関西圏：京都市、大阪市、堺市、神戸市
	海外	友好提携地域	ビクトリア州(オーストラリア) 江蘇州(中国)

観客誘致ターゲット

- あいちフェアの観客誘致ターゲットは、花や緑への関心が高い愛好家はもとより、幅広い県民と県外からの観光客等をターゲットとする。
- また、特に平日には、企業の研修の場、各種学校の環境教育、体験学習の場としての活用、老人会や各種カルチャースクールの発表の場など組織的活用ニーズのある団体ターゲットとし、それら団体利用のニーズに応じていくことを検討する。

表VII-2 誘致ターゲット

大区分	区分	対象
一般来場者	県民	花や緑の愛好家
		小中学生等
		高校・大学生
		ファミリー層
		中高年
	障害者等	
	県外	観光客
団体来場者	企業・NPO等、生産者、海外	研修・視察等
	各種学校	環境学習・体験学習
	老人会・自治会	発表の場、親睦の場等としての活用
	習い事関係等	発表の場としての活用

2. ターゲット別誘客方針

ターゲットのニーズに応じた誘客方針を検討し、フェアの内容をターゲットのニーズに応えうる内容とする。

- ・ターゲットのニーズを把握した上で、基本的な各種広報ツール(ポスター、パンフレット、チラシ等)を有効活用し、あいちフェア単独の広報宣伝に限らず、県や市町村の関連行事やイベント等と連携した誘致活動を展開する。

広告媒体を有効活用したプロモーション

- ・WEB・SNS 等では若者や情報感度の高い県民向けに編集した内容を発信し、会場周辺エリアの自治会、各種学校・教育機関との連携、障害施設団体や老人ホーム等へは紙媒体で、それぞれにニーズに応じた情報を編集して伝えるなど、ターゲット別に積極的できめ細かい情報提供と来場促進を検討する。

地域資源を活用したプロモーション

- ・地域資源を有効に活用し、観光地として県内外に認知されている、「城」、「武将」、「動植物園」、「歴史ある街並み」、「紅葉」、また名古屋めし等に代表される郷土の食文化等の地域資源を活用した観光プロモーションの展開を検討する。
- ・特に県内外の観光関係者とのタイアップで、団体や個人旅行の獲得に向けたプロモーションを展開する。例えば、旅行会社の愛知県内ツアー企画チラシ等へのフェア情報の掲載等の連携により誘致活動の展開を検討する。

交通アクセスにおけるプロモーション

- ・道路交通利用者に対して、メイン会場へのアクセス道路沿いの道路、道の駅等において、あいちフェアの魅力を高めるプロモーション展開を検討する。
- ・公共交通機関利用者に対して、リニモを中心とした駅及び駅前の中心市街地等において、あいちフェアの魅力を高めるプロモーション展開を検討する。

2-1. 一般来場者

- ・県民や県外観光客のニーズに応じたフェアの内容と広報宣伝の実施を検討する。

表VII-3 一般来場者の誘客方針

区分	対象	ニーズ	誘客方針
県民	花や緑の愛好家	新技術・新種等の情報獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報ツールや新規情報のニュース的発信 ・花と緑の専門雑誌や女性向け雑誌との連携し、誘致促進を展開する。 ・県内の花緑の小売店と連携し、フェア開催告知やフェアへの参加意欲を高め、誘致促進を展開する。
	小中学生等	学習の場、学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を中心とした子供向け催事の協働開催等と連携し、誘致促進を展開する。
	高校・大学生	ボランティア・体験共有（共感）への興味 就職活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生・大学生によるあいちフェア取材チームの結成を検討する。プレイベントや準備中の出来事、フェア期間中の出来事を独自に取材。HP や SNS、ツイッター、Facebook 等で発信を展開する。
	ファミリー層	家族の思い出づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が参加できる遊び・イベントの実施や写真撮影サービス、記念品づくりとお土産化等の体験催事と連携した誘致促進を図る。
	中高年	社会貢献 生活に役立つ情報の獲得、健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイベント等の「緑・花体験教室」への参加、フェア期間中の魅力的な体験教室、気軽に参加できるスポーツイベント等の催事と連携した誘致促進を図る。 ・各種市民講座、カルチャースクールサークル等への情報発信とグループ単位での誘致を図る。 ・回覧板等によるあいちフェアの平日行催事の案内等を行う。
	障害者等	学習・体験の場、社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者等の魅力的な「参加の場」の設定を通じて、来場訴求力を高める。
県外	県内観光客	普段愛知県内で体験できない体験	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地の主要なお祭り等の際に公式キャラクター（モリゾー・キッコロ）、あいち戦国姫隊、NPO との協働による体験教室等のキャンペーンキャラバン隊を結成し、PR に努める。 ・リニモ各駅・車両等におけるあいちフェア行催事のお知らせ、配布等を行う。
	県外観光客	愛知の観光資源への興味	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の地域資源の魅力紹介と連携した観光プロモーションを展開し誘致を図る。 ・旅行会社の愛知県内ツアー企画チラシ等へのフェア情報の掲載等の連携により誘致活動を展開する。 ・県外の主要なお祭り等の際にあいち緑化フェアキャラバン（県外版）のゲスト出演依頼とあいちフェアの PR を行う。

2-2. 団体来場者

- ・企業の研修の場、各種学校の環境教育、体験学習の場としての活用、老人会や各種カルチャースクールの発表の場など組織的活用ニーズに応じたフェアの内容と広報宣伝の実施を検討する。

表VII-4 団体来場者の誘客方針

対象	ニーズ	誘客方針
企業・NPO 等	研修・視察等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や NPO 等の興味を引く、講習プログラムやシンポジウム等の企画・開催を検討する。 ・企業向けボランティアの募集、ボランティアの異業種体験などを通して、あいちフェアを研修の場として活用を検討する。
生産者等		<ul style="list-style-type: none"> ・新技術や新品種に関する講座や講演会などの企画・開催を検討する。
海外		<ul style="list-style-type: none"> ・ビクトリア州(オーストラリア)、江蘇州(中国)との姉妹提携35周年企画との連携を検討する。 ・愛知の花弁・緑化産業等を中心とした研修プログラムや講習会の企画・開催を検討する。
各種学校	環境学習・体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園連盟、保育園連盟等を通じ、園行事(遠足・課外学習等)としての誘致を図る。 ・県下教育委員会、校長会等に協力を依頼し、学校行事(校外学習等)としての誘致を図る。 ・子供会、各種スポーツクラブ等の団体への情報発信、誘致を図る。
老人会・自治会	発表の場、親睦の場等としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の場、親睦の場としての活用を積極的にアピールするとともに、これら団体の活用ニーズを把握し、運営面等に反映する。
習い事関係等	発表の場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の場としての活用を積極的にアピールするとともに、これら団体の活用ニーズを把握し、運営面等に反映する。

3. 広報宣伝基本計画

広報宣伝は、話題性のある行催事の実施等に力点を置き、口コミ等による草の根的広報宣伝が展開されることを目指す。

3-1. 広報宣伝の区分

・あいちフェアの広報宣伝については、次のような区分で行うことを検討する。

表VII-5 広報宣伝の区分と協働方針(例)

区 分	内 容	
	主催者実施	協働・参加
ビジュアル・アイデンティティ事業	・フェア愛称の公募、シンボルマーク、マスコットキャラクターやロゴタイプ等の制作と活用、グッズの製作 等	—
キャンペーン活動事業	・イベントと連携したキャラバン活動による周知 等	・イベントの協働運営 等
ツール製作事業	・時期(愛称等の募集作成時期・イベント等)に応じたポスター、花鉢、チラシ、パンフレット等の制作と配布 ・会場チラシ、案内図の制作と配布 等	・ボランティアによるポスター、チラシ配布大作戦の実施 等
パブリシティ(情報発信)事業	・実行委員会内におけるパブリシティ(情報発信)部門の設立(方針の検討・ニュースソースの創出等) ・マスメディアやミニコミ、専門雑誌、専門紙等への情報伝達と出稿 ・「あいちフェア広報局」の立ち上げと運用 等	・高校生・大学生によるあいちフェア取材チームの結成 等
WEB・SNS 活用事業	・公式ホームページ制作・公式ツイッター、公式 Facebook の立ち上げ ・モリゾー・キッコロのキャラクターによるブログ更新 ・フェアニュースレター等の発行 等	・協働企業・NPO等のHP、ツイッター、Facebook へのリンク推奨 ・高校生・大学生によるあいちフェア取材チームによるHP、ツイッター、Facebook への投稿 等
公的広報事業	・愛知県や県下市町村等の公的広報(広報紙、広報番組等)を活用した広報 等	—
媒体(メディア)活用事業	・準備期、イベント、開催期間中のイベント等の情報発信による、テレビ、ラジオ、雑誌等でのニュース発信 等	—
公式記録作成事業	・あいちフェアの公式記録制作 等	—

3-2. 広報宣伝事業の計画内容

① ビジュアル・アイデンティティ事業

・ビジュアル・アイデンティティ事業は、次のような区分で行うことを検討する。

表VII-5 ビジュアル・アイデンティティ事業(例)

種別	展開イメージ
フェア愛称	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちフェアの認知を高めるため、「あいちフェア」にふさわしく、親しみやすい愛称を公募する。 ・公募と愛称の決定をセレモニー化し、ニュースとして発信する。
シンボルマーク等	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルマークは事務局が制作する。 ・あいちフェアの認知を高め、決定後の各種ツール等に幅広く使用しやすい、シンボルマークを検討する。 ・愛知万博当時のテーマソングの使用及び、あいちフェア用のテーマソングの作成を検討する。
マスコットキャラクター	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコットキャラクターは「モリゾー・キッコロ」に花や緑を幅広くあしらった、あいちフェアバージョンとする。 ・マスコットキャラクターは、決定後の各種ツール等に幅広く使用する。 ・新しい着ぐるみは作成せず、愛知万博からのものを使用するが、あいちフェアバージョンの小物を作成し、活用する。
ロゴタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・公募・決定された愛称に合わせた適切な公式名称のロゴタイプを制作する。 ・シンボルマーク、マスコットキャラクター、ロゴタイプ等を組み合わせたデザインガイドマニュアルを制作する。 ・デザインガイドマニュアルは、実行委員会が発行する全てのツール等への利用のほか、実行委員会を構成する各団体、企業等に幅広く活用を働きかける。
グッズの制作	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知万博でも好評であった、「モリゾー・キッコロ」のぬいぐるみやピンバッチなどのあいちフェアバージョンのグッズを製作し、販売する。 ・グッズは、実行委員会の構成団体や企業、県庁及び市町村等の官公庁の窓口に設置し、フェアのPRに活用する。 ・グッズは、事業協力を呼びかける相手への無償配布のほか、企業等に有償での販売を働きかける等、店頭でのPR協力を依頼する。 ・グッズは、キャンペーン活動の開始にあわせて製作する。

緑化特別大使の任命

・あいちフェアのマスコットキャラクターである「モリゾー・キッコロ」を緑化特別大使として任命する。



② キャンペーン活動事業

- ・誘客ターゲットに応じたキャンペーン活動の展開を検討する。
- ・キャンペーン活動は、あいちフェアをキャラバン隊を組織し、イベントや地域の祭りや催しもの、既存の活動組織等と連携したキャンペーン活動の展開を検討する。

表VII-6 あいちフェアキャラバン隊の概要(例)

キャラバン隊主要メンバー例	協働メンバー例	活動例
モリゾー・キッコロ (マスコットキャラクター) あいち戦国姫隊等	<ul style="list-style-type: none"> ・花育教室等 ・NPO の体験教室開催者 ・花卉生産者 ・小中学生 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバン隊は実行委員会の立ち上げから、解散まで、サテライト会場や主要なふれあい拠点をはじめ、県内市町村、誘致圏である近隣自治体等を訪問し、あいちフェアの PR と緑化活動の推進 PR を行う。 ・これらキャラバン隊の活動は、ニュースソースとして、マスメディアへの情報提供及び WEB、SNS 等での情報発信を行う。

表VII-7 キャンペーン活動(例)

ターゲット	活動区分	キャンペーン活動例
一般来場者	県民向けの既存イベントとの連携キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光地や地域の祭り、食のイベント等の機会に、キャラバン隊が訪問し、花の種付チラシを配布する。 ・イベントの日本縦断花車リレー等と連携して、主要ポイントで合流し、あいちフェア広報イベントを実施する。 ・県内外の観光関係者へ、キャラバン隊の訪問とともに、花の種付チラシの配布を依頼する。
	交通機関を利用する県民向けのキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・メイン会場へのアクセス道路沿いの道路、道の駅等へのキャラバン隊の訪問とともに、花の種付チラシを配布する。 ・リニモを中心とした公共交通機関の駅及び中心市街地等にキャラバン隊が訪問し、花の種付チラシを配布する。
	県外観光客等向け	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の主要なお祭り、友好提携地域のイベントの際にキャラバン隊が訪問し、あいちフェアを PR する。
団体来場者	各種学校等の団体来場者向けキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校・教育機関、障害施設団体や老人ホームなど幅広い団体をキャラバン隊が訪問し、花の種付チラシを届ける。 ・花の種付チラシから育った花を、メイン会場に持ってきってもらうと、学校花壇等への植え込みが可能になり、「舞台づくり」プログラムに参加できるなどの連携を検討する。
	既存の活動組織等との連携キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・公園マネジメント会議や主要な NPO 等に対して、花の種付チラシの配布を依頼する。 ・活動団体の催しの際にキャラバン隊が訪問するなどの連携を図る。

表VII-8 プレイメントとの連携(例)

プレイメントの実施例	概要		展開場所
	主催者開催	協働開催事との連携を検討	
日本縦断花車リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイメントのメインプログラムとして、県内各地を、カウントダウンボードを積んだ花車が縦断する。 ・フェア開催1年前に開始、1年にわたり、サテライト会場及び主要なふらあい拠点など、県内各地を巡る。 ・あいちフェアキャラバン隊と連携して、主要ポイントで合流し、イベントを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花車を引くメンバーは、県民に広く募集をかけて、数時間程度の交代制で行う。 	<p>全県</p>
一年前イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本縦断花車リレー出発式 ・あいちフェア開催に向けた1年前宣言等 ・あいちフェアキャラバン隊によるイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽隊パレード、コンサート ・花育教室等、NPOの体験教室等 	<p>メイン会場、サテライト会場等</p>

③ ツール製作事業

- ・時期やターゲットに応じた各種製作ツールで統一感を持ちながら、キャンペーン活動や、イベントと連動した各種ツールの制作を検討する。
- ・広報ボランティアを募り、あいちフェアのポスターの配布依頼、チラシ配布大作戦の実施を検討する。

表VII-9 ツール制作事業(例)

種別	内容
ポスターの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアのイメージや内容を伝達するポスターを、準備をスケジュールに応じて3回程度制作する。 ・第0号ポスターは、実行委員会発足にあわせて制作する。 ・第1号ポスター以降は、事業内容を具体的に伝達する内容やイベントの実施、特典等を紹介する内容等、情報発信の内容に応じて制作する。 ・ポスターは、実行委員会の構成団体や企業、県庁及び市町村等の官公庁、学校等に掲出を依頼するほか、生産者、NPO、商店街や自治会等関係者から一般へと拡充し、広範囲な掲出を行う。
パンフレットの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアについて、関係者への詳細情報を提供するために、準備スケジュールに応じて制作する。 ・リーフレットは、協賛等の勧奨やイベントの実施時期、その他具体的な計画内容を紹介することが可能な時期にあわせて制作する。
花鉢セールスの花鉢製作	<ul style="list-style-type: none"> ・協賛企業の募集や都市緑化の推進を兼ね、民間事業者に協力を求める際に、花鉢等に協賛募集のメッセージを沿えて贈る。 ・花鉢の作成は、花卉生産者と小中学校の生徒によって再制作されるなどの交流事業の一環とすることを検討する。
チラシ及び花の種付チラシの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアについて、募集情報や見どころ情報等を提供するために、準備スケジュールに応じて3回程度制作する。 ・第0号チラシは、実行委員会発足にあわせて制作する。 ・第1号チラシは、出展や催事等の県民参加を勧奨する際のフェア事業が伝達できる内容のチラシを制作する。 ・フェア周知のための広告として、チラシの一つとして開催案内をパッケージに印刷した「花の種付チラシ」を作成し・配布する。 ・チラシ及び「花の種付チラシ」は、実行委員会の構成団体や企業、県庁及び市町村等の官公庁等に配布するほか、各種学校・教育機関、障害施設団体や老人ホーム、NPO、商店街や自治会等関係者から一般へと拡充し、広範囲な配布を行う。また、キャンペーン活動と連動して、街頭での配布等も実施する。
会場リーフレット(案内図)	<ul style="list-style-type: none"> ・会期中の来場者向けの会場案内、催事情報、交通アクセス情報等をはじめ、植栽情報等をコンパクトに分かりやすくまとめた、「会場ガイド&マップ」を作成する。 ・発行は開催直前、印刷は情報修正などを考慮し、2回に分けて刷り分ける。

④ パブリシティ(情報発信)事業

- ・実行委員会内におけるパブリシティ(情報発信)部門を設立し、情報発信方針の検討・ニュースソースの創出計画の策定などの役割を担うことを検討する。

表VII-10 パブリシティ(情報発信)事業(例)

種別	内容
情報発信の計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちフェアの準備段階から会期直前、会期中までの各種トピックスをニュースリリース等にまとめ、タイムリーにマスメディアへ情報発信し、記事掲載及びテレビ等でのニュース放映の露出を図る。 ・発表方法は、県政記者クラブにおける記者会見や資料配布を軸として、個別配布等あらゆる情報発信手段と機会を駆使して展開する。 ・対象マスコミは、県内メディア(一般紙、テレビ、雑誌、ミニコミ、フリーペーパーなど)をメインに県外の一般紙、女性誌、情報誌、旅行誌、花卉園芸誌、各種業界専門雑誌、ウェブサイト等を広く展開する。 ・県外メディア、特に近隣県、関西圏及び首都圏向けのメディアへのアプローチを行うパブリシティ活動にも留意し、パブリシティの切り口としては、愛知万博 10 周年、愛知の名物料理、武将観光等のマスコミ受けする情報の展開策を検討する。
「あいちフェア広報局」の立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・愛・地球博記念公園周辺には、大学が多いことから、「あいちフェア広報局」の元に、高校生・大学生のボランティアによる「あいちフェア取材チーム」を結成し、日々のあいちフェア準備や各種イベントの開催情報等をツイッター、Facebook、LINE 等で、報告、拡散してもらうことを検討する。

⑤ WEB・SNS 活用事業

- ・あいちフェアのホームページを早い時期に立ち上げ、最新情報の随時更新、情報の共有化とネットワーク化を図ることを検討する。
- ・コンテンツは、開催基本情報(会場、時期、開催テーマ等)をはじめ、準備状況や募集情報、交通アクセス、周辺ガイド情報、スタッフブログ等を盛り込み、関係者をはじめネットユーザーなどのネットワーク化を図り、口コミ情報の核とすることを検討する。
- ・WEB の他、ツイッター、Facebook、LINE 等の SNS でも情報を発信し、協働する企業や NPO 等、生産者団体等との相互リンクを推進することを検討する。
- ・高校生・大学生のボランティアによる「あいちフェア取材チーム」の投稿ページを設定し、日々新鮮な情報提供を図ることを検討する。

⑥ 公的広報事業

- ・愛知県及び各市町村の広報媒体(広報誌、広報番組等)を最大限活用し、県民への周知を図ることを検討する。
- ・あいちフェアの開催告知から、開催終了に至るまで、各種イベントやニュースリリースを継続的に実施し、継続的に情報露出ができるように、依頼、展開することを検討する。
- ・特に対象自治体内のサテライトや協賛会場へのキャンペーン活動についての掲載を依頼することを検討する。
- ・パブリシティ(情報発信)部門の情報発信の計画に基づき、マスコミ向けニュースリリースやニュースレターとの連動を図ることを検討する。

⑦ 媒体(メディア)活用事業

- ・基本的に、あいちフェアの準備段階から会期直前、会期中までの各種トピックスをニュースリリース等にまとめ、タイムリーにマスメディアへ情報発信し、記事掲載及びテレビ等でのニュース放映の露出を図ることとし、新聞広告、テレビ、ラジオにおけるCM等は実施しないものとする。

⑧ 公式記録作成事業

- ・あいちフェアの開催状況と成果を公式記録集として、とりまとめ、制作する。
- ・公式記録集は、実行委員会構成団体や企業をはじめ、参加・協賛いただいた団体や企業等へ配布する。

4. 広報における協働の展開

キャンペーンの展開や情報発信など、様々な機会を捉えて、NPO 等との連携やボランティアの活用を図る。

- 広報は基本的に、話題性のある行催事の実施等に力点を置き、口コミ等による草の根的広報宣伝が展開されることを目指すことから、NPO 等やボランティアとの協働が重要となる。
- 主要な宣伝担当、情報発信担当、情報媒体担当、公式記録担当が中心となって、スタッフとボランティアによって、広報の企画・実施をすすめることを検討する。

5. 事業スケジュールの検討

・観客誘致に関する事業は以下のように推進することを検討する。

表VII-11 観客誘致スケジュール検討(案)

時期	主な業務等
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局による誘致・広報活動(公的広報事業) ・観客誘致・広報宣伝実施計画の策定 ・愛称募集 ・シンボルマーク、ロゴの作成 ・愛称、シンボルマーク、ロゴの発表 ・愛称、シンボルマーク、ロゴ等の使用基準、マニュアルの作成等
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局による誘致・広報活動(公的広報事業) ・観客誘致・広報宣伝実施運営 ・あいちフェアホームページの開設 ・SNS 活用による広報 ・協働による広報「あいちフェア取材チーム」による広報開始 ・あいちフェアキャラバン隊活動及びイベントの実施 ・公式グッズの企画、制作、販売 ・公式グッズの発表 等
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局による誘致・広報活動(公的広報事業) ・観客誘致・広報宣伝実施運営 ・あいちフェアキャラバン隊活動及びイベントの実施 ・SNS 活用による広報 ・協働による広報「あいちフェア取材チーム」による広報 ・あいちフェアキャラバン隊活動及びイベントの実施 ・公式グッズの制作、販売 ・フェア期間中のホームページ、SNS 等による情報発信 ・公式記録の作成 等

VIII 推進体制・事業計画

1. 事業スケジュール

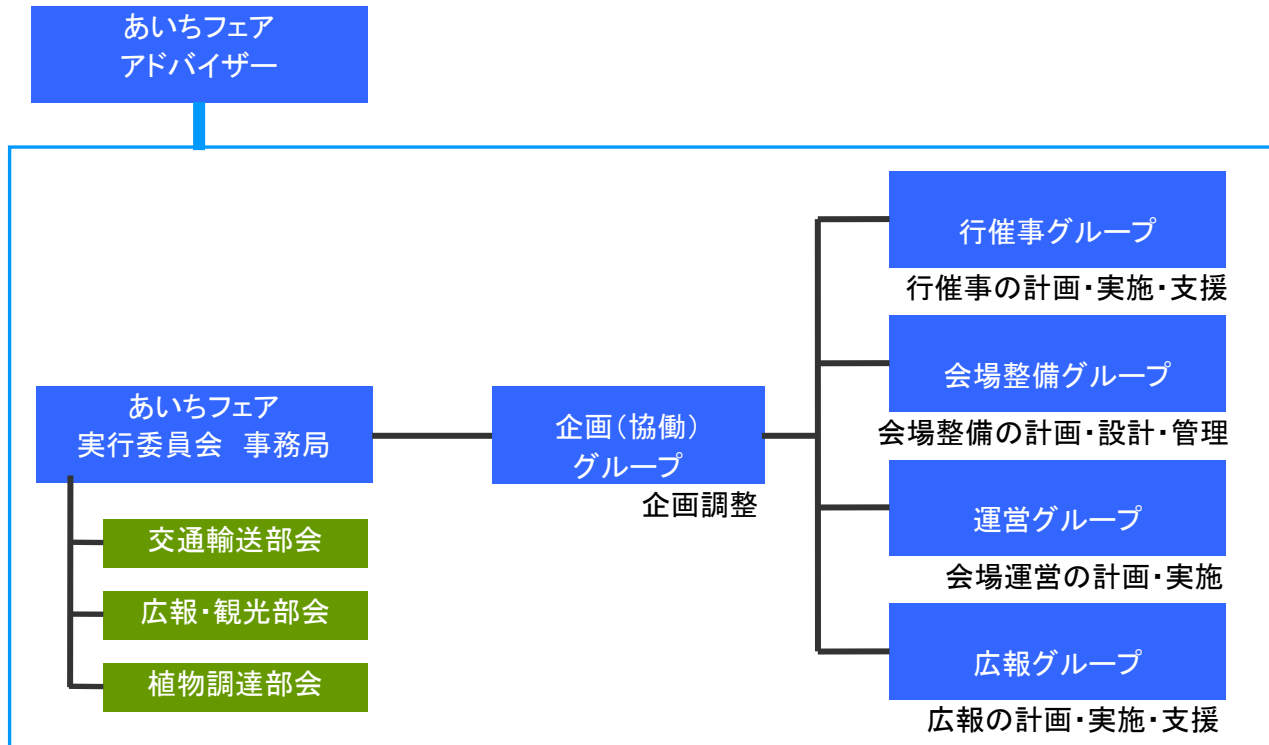
・基本計画立案後の基本的な事業スケジュールは次のとおりである。

表VIII-1 事業スケジュール案

項目	内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度
基本事項	実行委員会	★ 設立	★ 総会	★ 総会 ★ あいちフェア ★ 解散
	主要イベント		★ 1年前	★ 100日前 イベント ★ 内覧会 ★ 緑化祭
協働推進	基本的流れ	協働推進 実施計画	協働推進(募集・選定・調整・運営など)	
	協働団体	協働主体による企画・設計施工・運営(民間・団体・学校・県内市町村・他県及び政令市など)		
	ボランティア	ボランティアの募集・育成・活動		
行催事	基本的流れ	行催事 実施計画	行催事(調整・運営など)	
	イベントプログラム		イベントプログラム作成・実施	
会場整備	基本的流れ	基本設計	会場整備(実施設計・施工管理・工事など)	
	会場整備・主催者展示		基盤整備・施設整備・植栽工事	
	屋内展示		屋内展示実施計画	屋内展示制作・運営
	植物調達		植物生産・生産調整	植物納品
運営管理	基本的流れ	運営管理 実施計画	会場運営管理・交通輸送(調整・運営など)	
	会場運営管理		関係者調整	運営管理
	交通輸送		関係者調整	運営管理
観客誘致 広報宣伝	基本的流れ	誘致・広報 実施計画	観客誘致・広報宣伝(調整・活動など)	
	愛称・シンボルマーク など	募集・選定		
	キャラバン活動		キャラバン活動	
	ホームページ		SNS活用による広報活動	

2. 事業体制

- 基本計画に基づき、フェア事業を効率的に実施していくために、実行委員会を設置するとともに、必要に応じて次のような専門部会等を設置する。
- あいちフェアの事業推進にあたっては、「アドバイザー」を置くものとする。
- 実行委員会には、それぞれ協働グループ、行催事グループ、会場づくりグループ、運営グループ、広報グループを設置して、事業を推進する。



図VIII-1 実施体制イメージ

3. 事業効果

- ・あいちフェアは、以下のような3つの役割を持っている。
 - 2005年の愛知万博から10年が経ち、2010年の生物多様性条約締約国会議(COP10)の開催、2014年の持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議の開催等の経験を踏まえ、自然と人間の共生へ向けた未来へのメッセージを示すこと
 - 愛知県が日本有数の農業県であり、特に愛知県の花弁の生産額は50年以上日本一を誇っていることを再認識するとともに、県民が身近に花を愛し、緑化活動の推進につながる事
 - これにより更なる花卉等産業の発展、観光振興につながる事
- ・このような役割の中で、あいちフェアの事業効果を次のような観点で検証するものとする。

表Ⅷ-2 事業効果の検証と評価方法(案)

事業効果	概要	評価方法
人と自然との共生への意識の更なる向上	愛知万博を振り返り、あいちフェアを体験することにより、人と自然との共生への意識が高まること	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者アンケート等による意識の変化の把握 ・生態系ネットワークの形成状況の向上(市町村等の緑化事業の把握)
「緑はつなぎ手」として、協働する人々の多様化と拡大	あいちフェアにおいて協働・参加する人々が多様化し、また、その数が増えること	<ul style="list-style-type: none"> ・目標入場者数と来場者数の把握 ・協働団体、個人、企業等の参加数の把握 ・愛知万博、COP10、ESDに参加した県民のフェアへの参加率(協働者向けアンケート)
緑化活動の拡大	県民の花や緑化資材等の消費量が増えること	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライト会場・ふれあい拠点の数 ・緑化関係、環境保全活動NPO数の増加、所属人数の増加